天皇 皇后両陛下

金婚式記念写真集

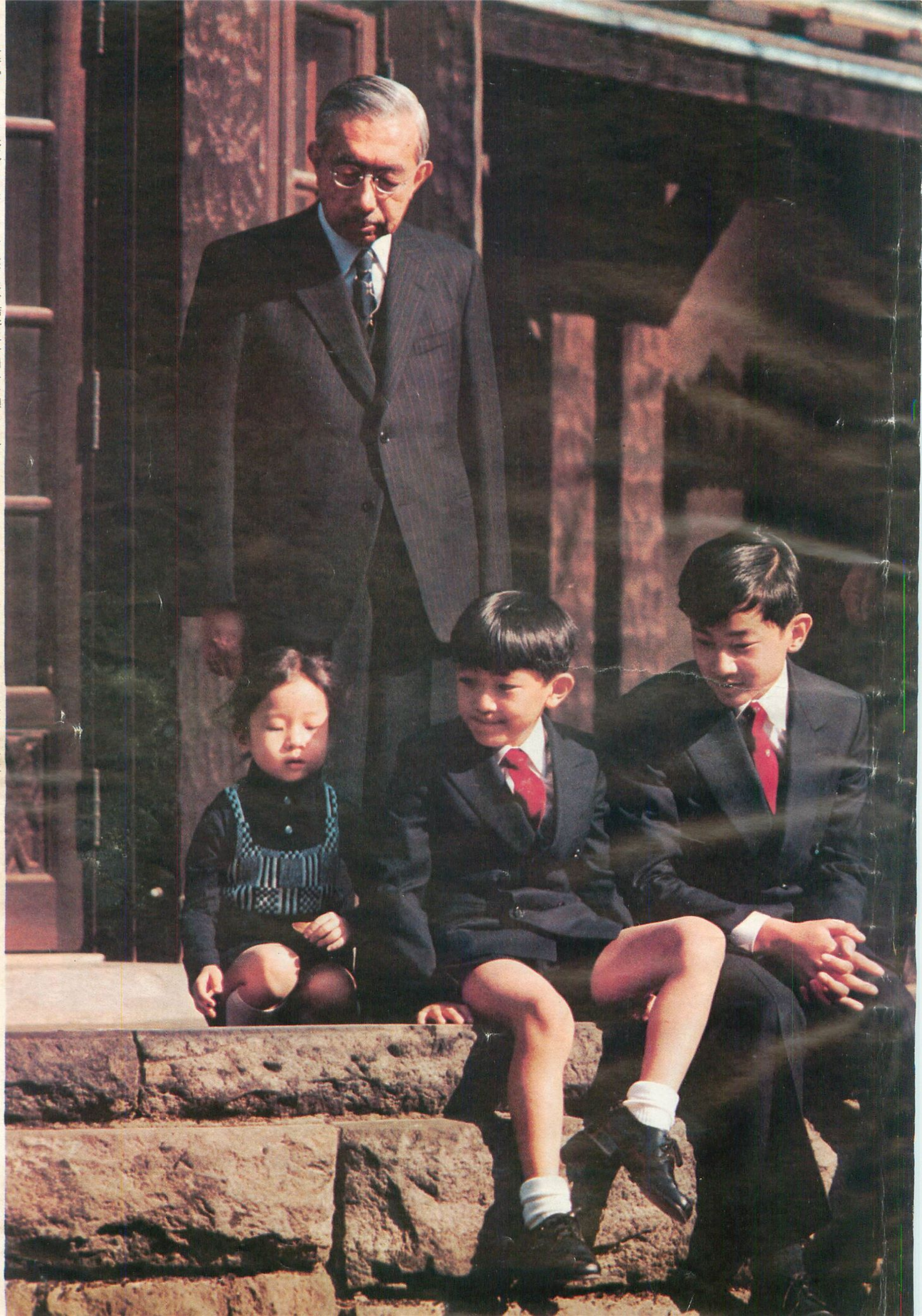
神戸新聞社 デイリースポーツ社

ここにめでたく金婚式を迎えられる天皇陛下　この五十年　陛下が歩んでこられた道は決して平坦ではなかった

すでにご結婚前から病床の大正天皇に代わり　摂政として国政の重責を負われ即位後は〝動乱の昭和〟と呼ばれる激動の時代に立ち向かわれた　そして戦争平和を希求されていたにもかかわらず戦火は拡大した　苦悩の日々を送られた陛下も戦争終結の裁断を自ら下された

終戦後も陛下にとって試練の道は続いた　だが「どうか日本再建のために…」と国民を励まし　力づけて全国を回られた　そして〝戦後〟と呼ばれた時代も過ぎ　平和な日々が訪れた　ご結婚後の一時期を除いて　これほど心安らかに毎日を迎えられたことはなかったに違いない

〝象徴天皇〟として国民と共に歩まれる陛下は　四十六年四月　すでに古希を迎えられ　在位期間は明治天皇をしのいで　史上最長記録を日一日伸ばされている　これからもますますお元気で　この平和を享受いただきたいものである

各若宮さまもお元気に成長され　両陛下はご結婚五十周年を迎えられるなど　四十九年の新春を迎えおにぎやかな天皇ご一家

ご訪欧の両陛下

両陛下は　ロンドン滞在二日目　ギルドホールで開かれたロンドン市長主催の歓迎式に臨まれた
（昭和四十六年十月六日）

長年愛されていた葉山の海の汚染を嘆かれた両陛下だが　澄んだ静岡県須崎の海はお気に召したという（昭和四十七年二月＝須崎御用邸前入江）

分類学では世界的に有名な〝学者天皇〟の労作は　この研究室から生まれた（昭和48年４月）

日本古来の伝統民芸の「組み紐」に心を傾けられる皇后さま　手先の器用さはご結婚前から定評だった（昭和46年３月）

TOSHIBA
明日をつくる技術の東芝

からだポカポカ悠々の暖かさ。

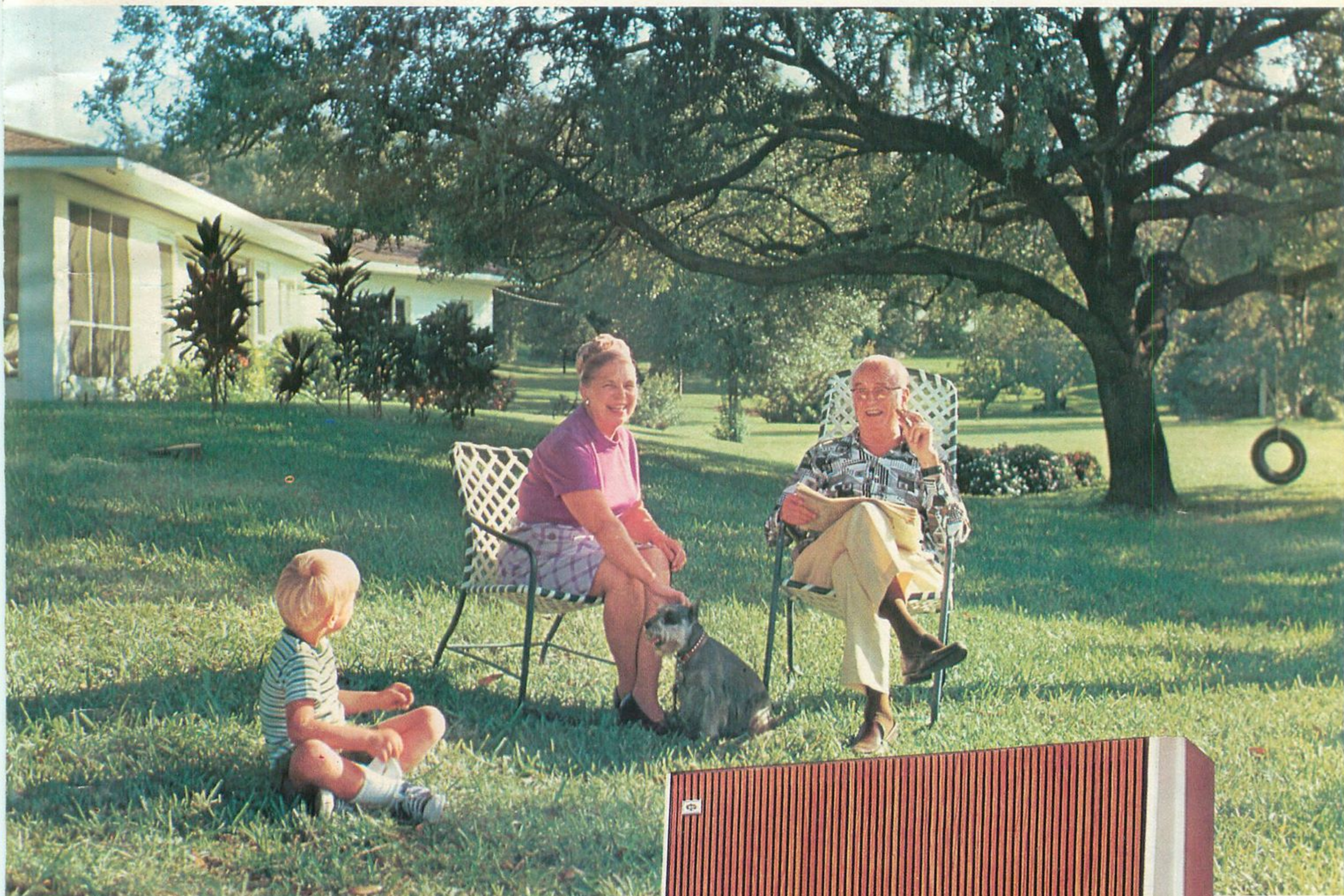
〈木かげ〉は強力2ステップ暖房方式

〈木かげ〉は暖かさが2段構えの方式。外の寒さの変化に合わせて、快適な暖かさを維持する設計です。もちろん季節が変われば、強力冷房・強力除湿。

便利なタイマーリモコン付

「お寝み時にセットすれば、朝、目覚めた時は、もうポカポカ」エアコン暖房の快適・便利さをさらに高めるタイマーリモコンを付けました。

除湿もできる本格的オールシーズン

梅雨時、秋の長雨の頃には、湿気だけをとりさる除湿専用運転。1年を通してお使いいただける設計です。

暖房+冷房+除湿
オールシーズン

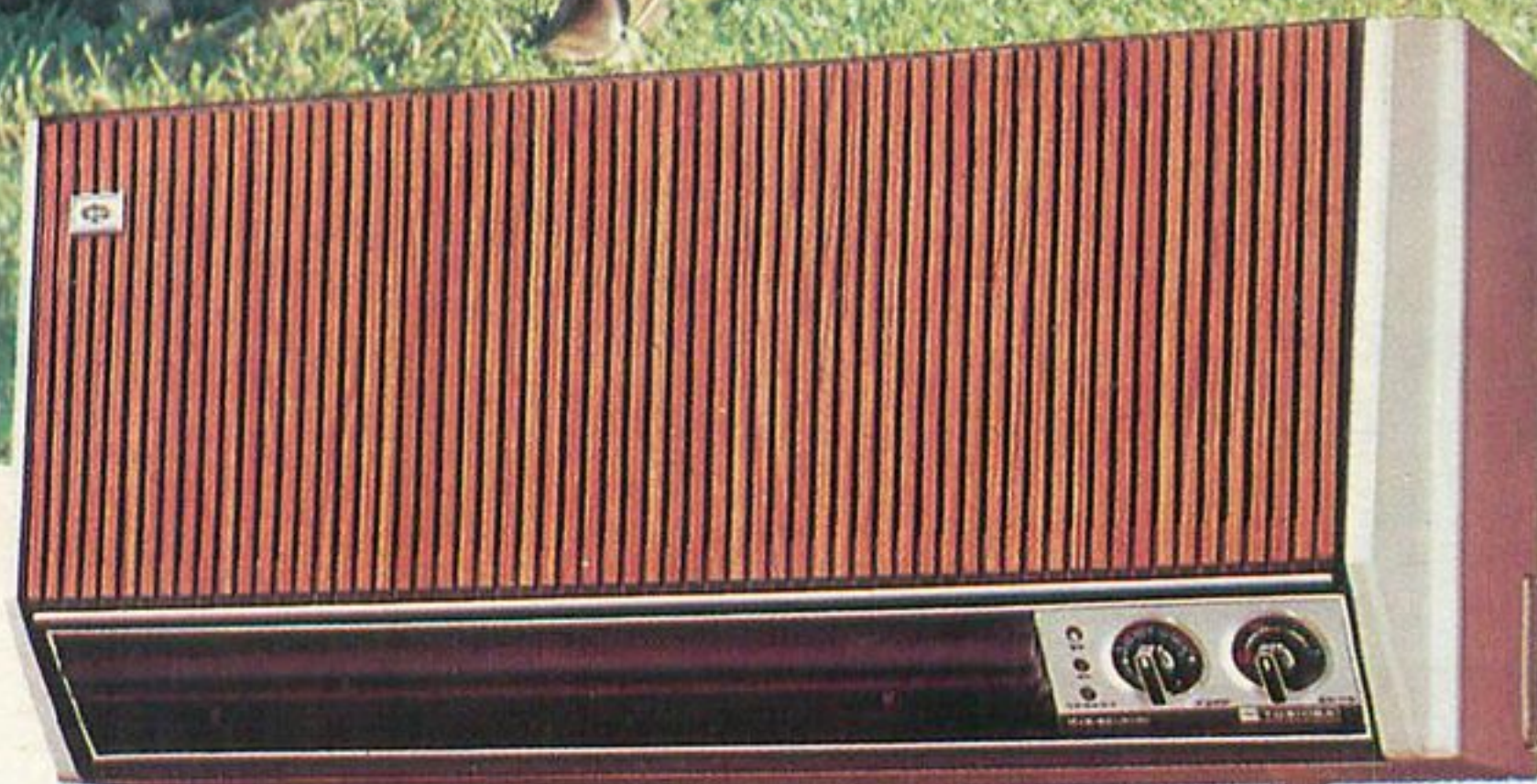
RAS-221JKHM(室内機) 95,000円
RAS-221JAH(室外機) 120,000円
単相100V 壁掛形 標準価格 215,000円
(配管パイプ5m付属・工事費別)
暖房のめやす・6～8畳(50Hz地区)，7～8畳(60Hz地区)
冷房のめやす・6～10畳(50Hz地区)，7～11畳(60Hz地区)
寸法(室内機)＝高さ350×幅760×奥行265mm

外気温	暖房能力(Kcal/h)	
	50Hz	60Hz
7℃	2600	2800
5℃	2500	2700
3℃	2400	2600
0℃	2200	2400

エアコン暖房ご使用上のご注意
●暖房能力は外気温が下がるにつれ低下します。(表参照)外気温がことさら低くなった場合は、暖房能力が不足することがありますので、他の暖房器具を併用してください。●表示の暖房能力値は、外気温7℃、室内温21℃の場合で(日本工業規格 JIS C9612)補助電気ヒーターの暖房能力を含んでいます。
●お宅にふさわしい暖房設計のために販売店とよくご相談ください。

◀タイマーリモコン(12時間)

東芝ロータリーエアコン 木かげ

Toshiba
東芝

強く静かなロータリー

おにぎやかに…
天皇ご一家

〝いばらの道〟とさえいわれた戦後の一時期を過ぎ　天皇ご一家にパッと明るさの射したのは美智子妃を迎えられた昭和34年春だった　それから毎年　新春を迎えるたびに明るい話題がご一家を包む　なかでも　お孫さんたちの成長は　両陛下にとってお楽しみであり　お喜びでもある

美智子妃を迎えて　初めてのお正月　この時すでに浩宮さまをご懐妊の美智子妃だったが　常陸宮　島津貴子さんはまだ独身（昭和35年１月）

▲〝サーヤ〟（紀宮）にはおばあちゃまとママ　少年二宮にはおじいちゃまとパパ　華子さまもちょっぴりうらやましそう（昭和46年１月＝吹上御所で）

▲新婚の常陸宮ご夫妻が加わってのご一家　すっかりおにいさまになられた浩宮さまをはさんで両陛下の表情はやわらか（昭和四十年一月）

▶皇后さまが弾かれるピアノの調べに包まれていかにも幸せそうなご一家　浩宮さまが少年らしく成長されている（昭和三十九年一月＝吹上御苑花蔭亭で）

▲二歳十カ月の浩宮さまを中心に吹上御苑を散歩される天皇ご一家　両陛下を「オジジさま　オババさま」と呼ばれた宮さまは〝一寸法師〟〝山田のカカシ〟の歌がお得意の頃（昭和三十八年一月）

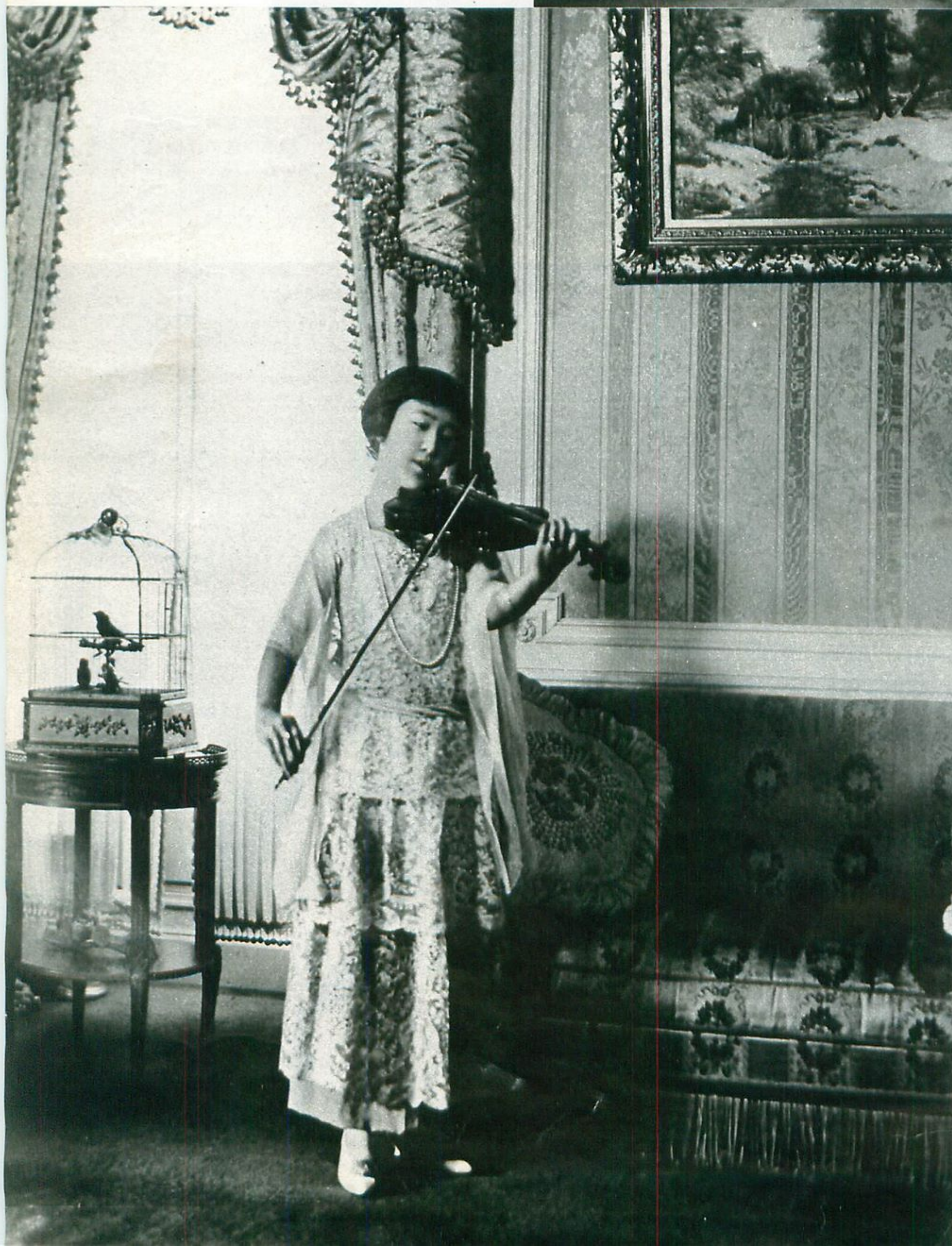
▶大きく成長された　お孫さんの興ずるゲームをご覧のご一家（昭和四十八年一月＝吹上御所で）

ご結婚
新婚時代

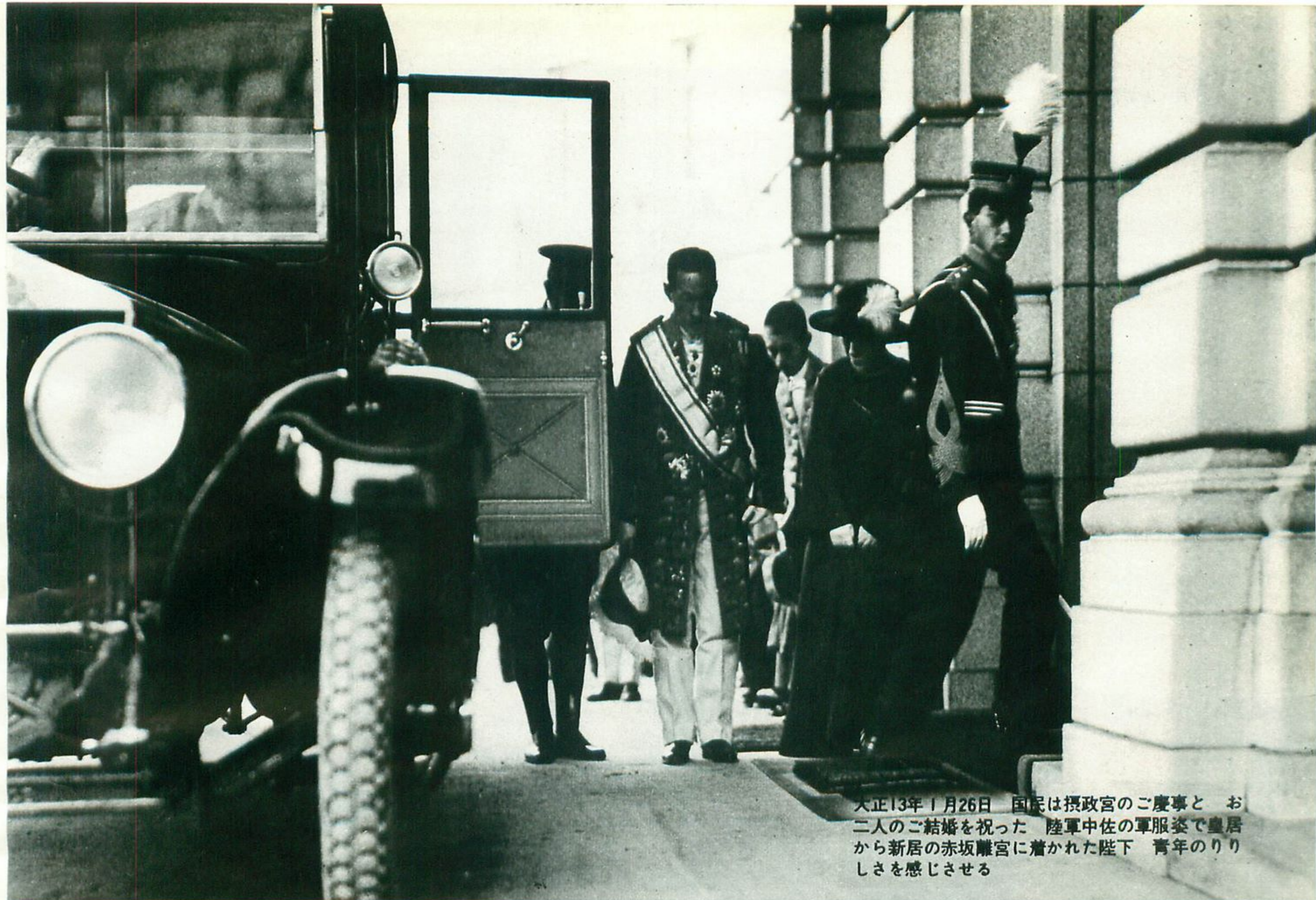
大正13年1月26日　天皇　皇后両陛下のご婚儀は　宮中・賢所で挙けられた　同日午後　タイムラーの新型車て〝新居〟の赤坂離宮へ━　ヘルサイユ宮殿を模した離宮は　あまり豪壮すぎて　陛下のお好みてはなかったようたか　手をとりあって散策される　若いお二人のほほえましい姿が見うけられたそうだ

新婚間もないお二人（赤坂離宮）

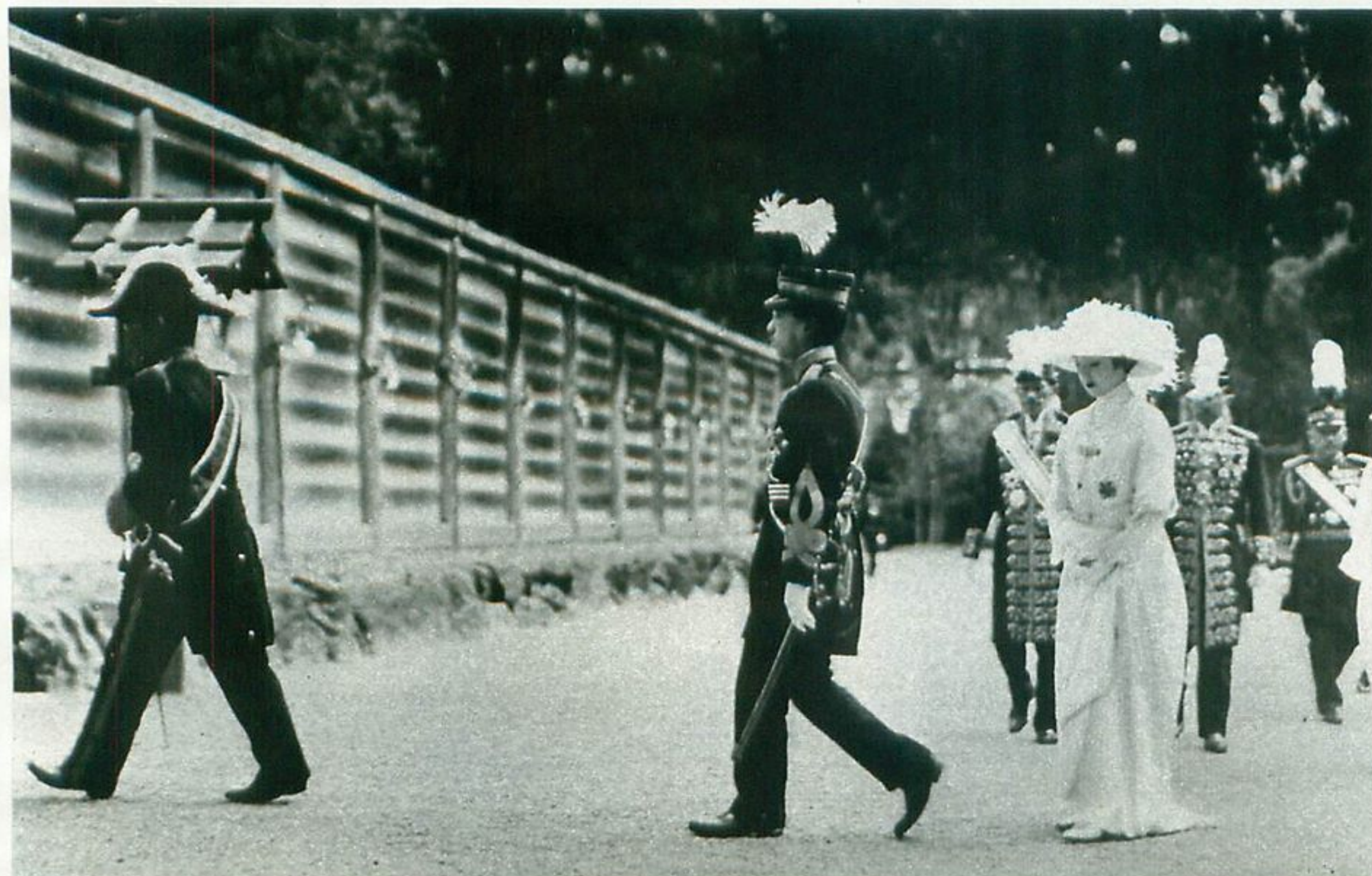
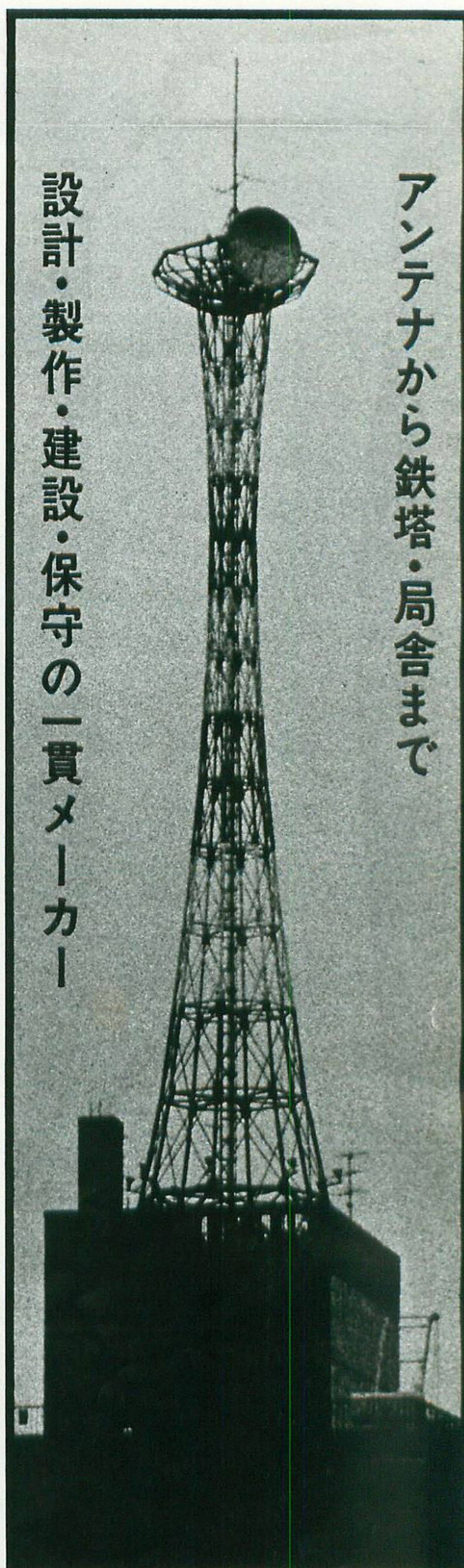
結婚間もないころの陛下　赤坂離宮がスイートホームだったが　豪壮な離宮について　後年　あそこは人間の住むところではないね……　とおそばの人に漏らされたとか（大正十三年ごろ）

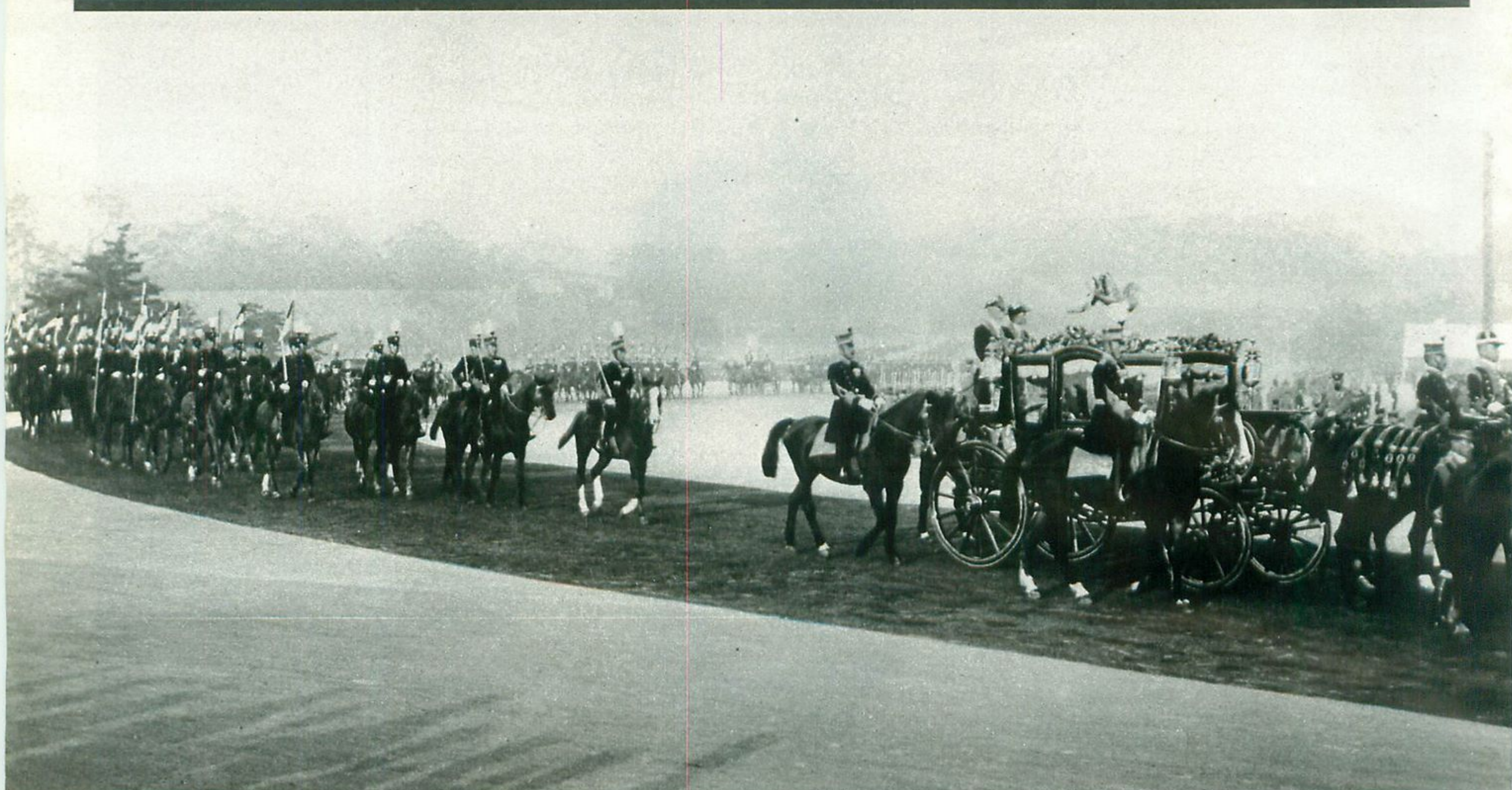
ご結婚1年目　若々しい新妻ぶりが美しい（大正14年3月・赤坂離宮）

『バイオリンと小鳥と姫』　泰西名画を見るような若き日の皇后さま（大正14年・赤坂離宮）

大正13年1月26日　国民は摂政宮のご慶事と　お二人のご結婚を祝った　陸軍中佐の軍服姿で皇居から新居の赤坂離宮に着かれた陛下　青年のりりしさを感じさせる

ご婚儀の朝　家族・親族の方々に見送られ　東京・渋谷の久邇宮邸をあとに皇居へ向かわれる皇后さま　初々しい美しさの中に　ちょっぴり恥じらいがうかがわれる

昭和24年の銀婚式のとき　陛下が〝若い時代の思い出の写真〟として選ばれたのがこの写真だった　陛下が25歳　皇后さまが23歳のときのもの

その日の皇居前　手前の石垣は前年９月１日関東大震災で崩壊した　後方には皇居前広場に建てられた震災仮設小屋の屋根も見える　皇太子ご夫妻のご結婚当日繰り広げられた馬車パレードと比べられないほど簡素だった

伊勢神宮外宮に　ご結婚を報告された時の両陛下
陛下は満22歳　皇后さまは20歳（大正13年２月）

即位の大礼

昭和3年11月10日　京都御所紫宸殿で即位の大礼が盛大に行われた　陛下が天皇となられて2年　即位を祖先と国民に広く伝えるのが　この大礼の儀式で　京都御所を中心に都大路で豪華けんらんの絵巻が繰り広げられた

昭和3年11月6日　陛下は特別御料儀装馬車で皇居を出発された

和田倉門を行く賢所御羽車と近衛騎兵　賢所は両陛下と同じお召し列車で京都へ運ばれた（昭和3年11月）

皇后さまは御五衣　唐衣　裳　俗にいう十二単（昭和３年11月）

即位式のご装束を着けられた両陛下　陛下は御束帯黄櫨染袍

◀京都駅前に作られた奉迎の大アーチが　当時の盛儀をしのばせる

▼即位の大礼　天皇の即位を先祖と内外に広く伝えるための大儀式で昭和3年11月10日　秋晴れの京都御所で行われた　紫宸殿には文武百官大礼使が束帯・袿袴・大礼服に身を固めて参集庭には古式通りの旗がなびき　豪華けんらんの絵巻を繰り広げた

即位の大礼には　国中の高位高官約3,000人が列席し盛儀をきわめた

即位の大礼を滞りなく終えられた両陛下は　京都から伊勢神宮に向かわれ　報告の参拝をされた（昭和3年11月）

両陛下と スポーツ

お若い頃　天皇陛下はなかなかのスポーツマンだった　冬はスキー　夏は水泳　そして皇太子時代のご訪英直後からゴルフに熱中された　一方　皇后さまも運動神経は人一倍発達しておられたようで　ご婚約時代から　天皇陛下とネットをはさんでテニスをされたり　新婚時代はクラブを振ってコースを回るレディーゴルファーだった

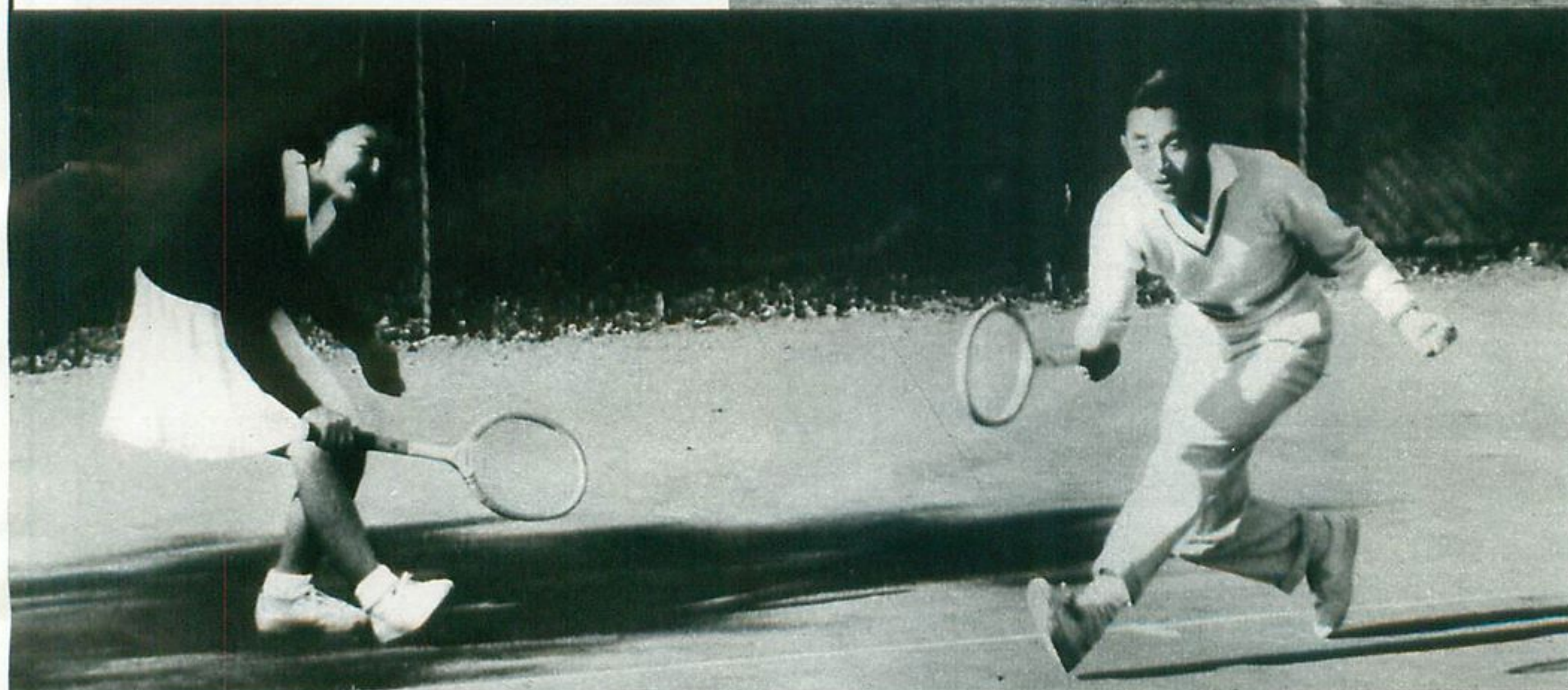
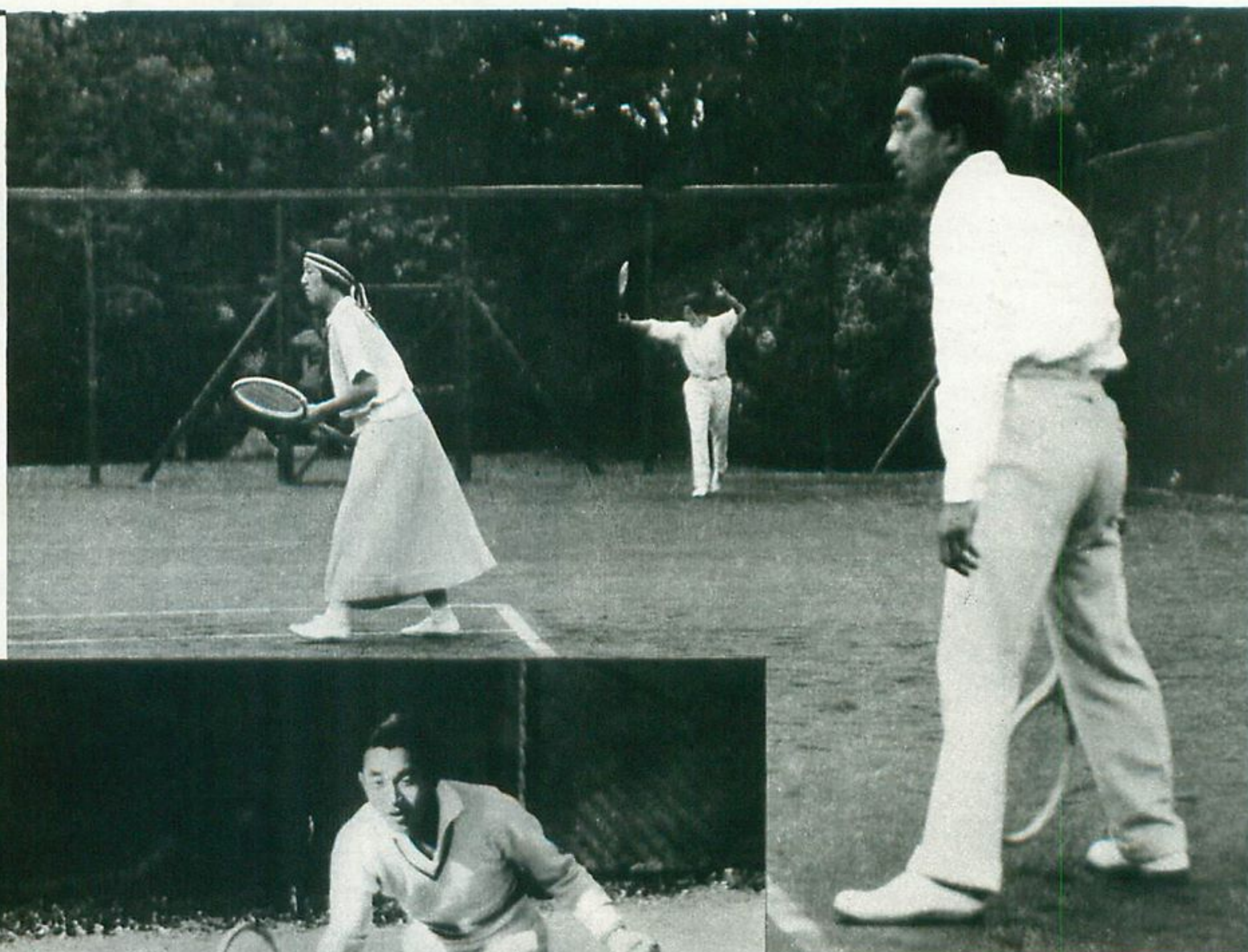
"遊佐(幸平)に出来るものが　わたしに出来ないはずがない　と　お若いころ　大障害にいどまれた（昭和２年６月・赤坂離宮馬場）

陛下のスキー姿は珍しい「たいていのスポーツはやったが　あまり手広くやり過ぎて　どれもものにならなかった」と今では謙遜される陛下だが見事なストックさばき（昭和６年２月・吹上御苑）

▲赤坂御苑には 100ヤードのショートホールも特設されていた 陛下の打たれたボールは〝ナイスオンかな〟ボールの行方を追うお二人（昭和３年７月・赤坂御苑で）

◀ご結婚後始められたゴルフだが 皇后さまはなかなかスイングも見事で 上達は早かったそうだ（大正13年４月・赤坂御苑のゴルフコース）

皇太子時代の訪英でゴルフをご覧になった陛下は
ご帰国後　さっそく練習を始められた　翌年　当
時皇太子だったウィンザー公とともにプレーされ
た時のスナップ（大正11年4月・駒沢ゴルフ場）

皇太子さまと美智子さまの婚約時代　軽井沢でのテニス姿は国民の目を見張らせた　しかし〝先輩〟は両陛下だった　宮内庁〝㊙〟写真のひとつ（両陛下ご結婚9カ月前の大正12年4月・赤坂御苑で）

戦後も続けておられたスポーツは　乗馬とテニスだが　陛下のテニス歴は古い……（大正12年4月・赤坂御苑テニスコートで）

くらしを守る国民年金

老後の生活の安定をはかる年金時代が訪れています。国民年金は、サラリーマンの奥様も加入できます。

国民年金で楽しい老後のプランをたてましょう。

国民年金のいろいろ

◆老齢年金　かけ金を納めた人が65歳になったとき。

◆障害年金　目・耳・身体が不自由になったとき。精神障害者になったとき。

◆母子年金　夫に死別され18歳未満の子を育てているとき。

◆遺児年金　18歳未満の子が親に死別されたとき。

その他、準母子年金・寡婦年金・通算老齢年金・死亡一時金の制度があります。

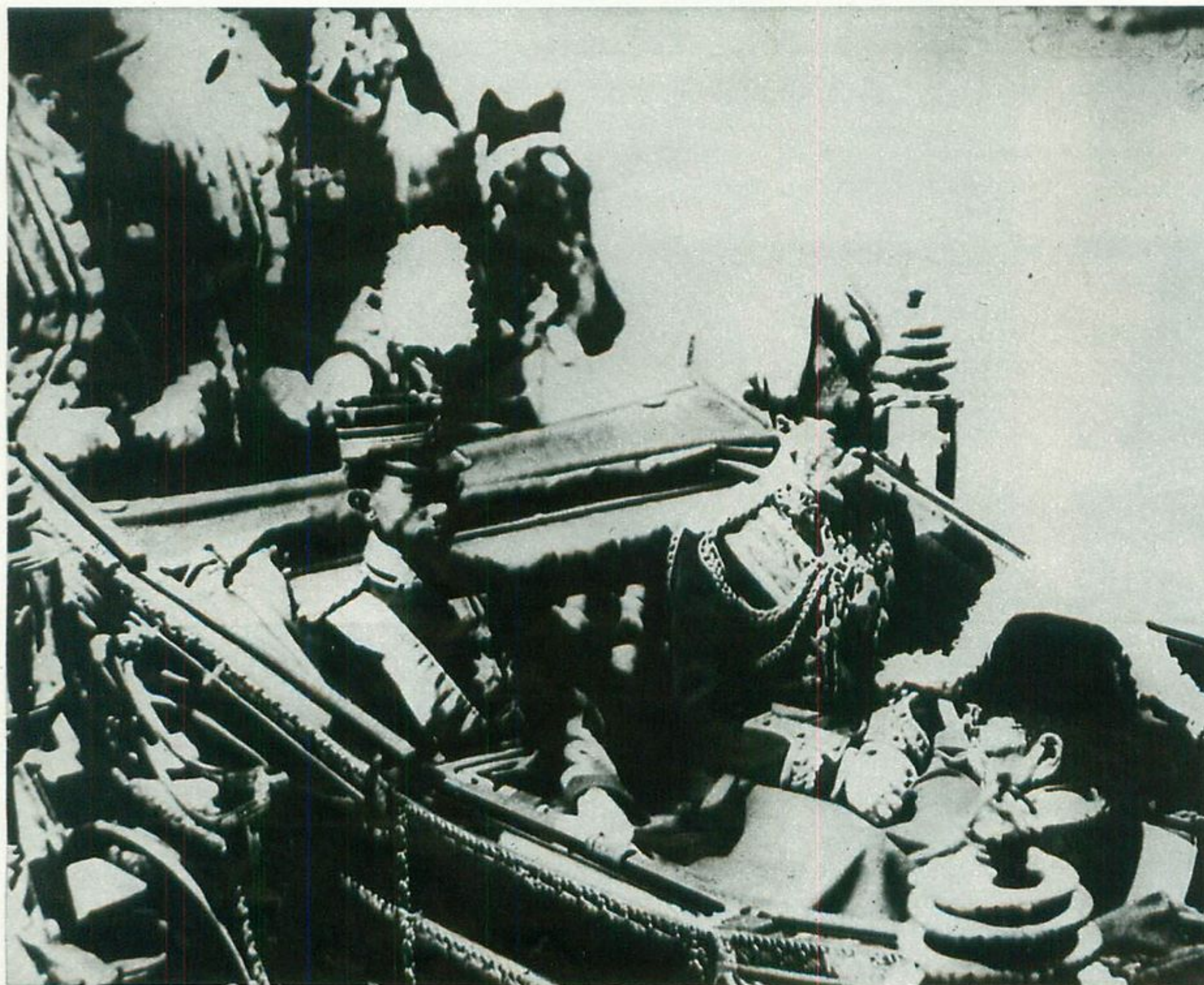
■国民年金について、くわしくはもよりの市(区)町村役場で

総理府

プリンス時代のご外遊

天皇陛下は　若きプリンス時代の大正十年三月　お召し艦〝香取〟で約半年間欧州各国を親善訪問された　昭和四十六年九月同じヨーロッパの各国をご訪問されたが　昔の思い出はいまもなお感慨深いものがあるといわれる

▲ロンドンのバッキンガム宮殿で　近衛儀礼兵を閲兵される陛下（先頭）　一人おいてヒゲの宮様として有名だった閑院宮（大正10年5月）

▼モーニング姿でフランス・エリゼー宮をご訪問　左の長身の軍人は後のペタン元帥(大正10年6月)

◀英国国王ジョージ五世の出迎えを受け　同じ馬車でバッキンガム宮殿に向かわれた　英国王室の暖かいもてなしに陛下は深い感銘を受けられたという（大正10年5月）

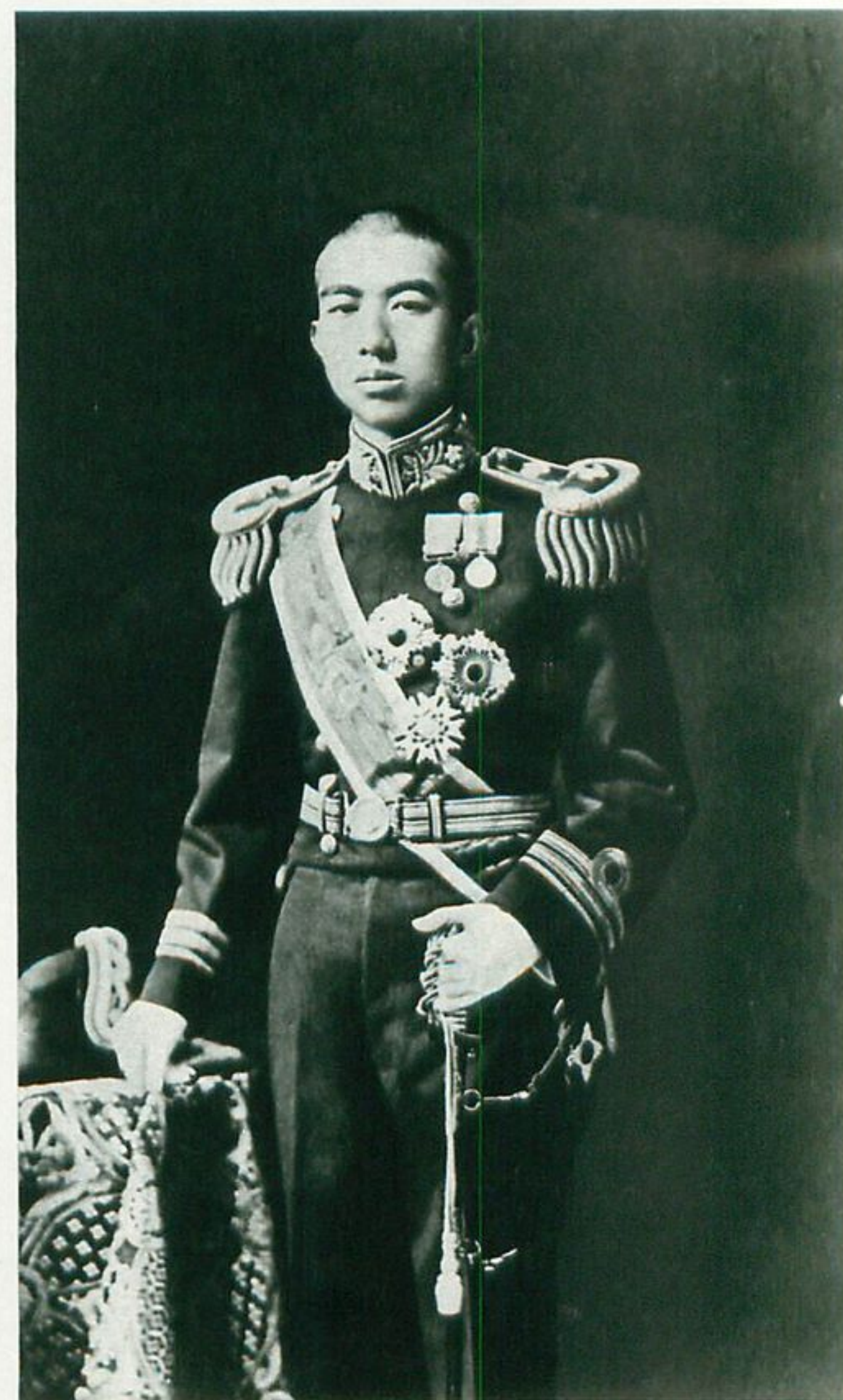
▼ケンブリッジ大学で名誉法学博士号を受け　ビロードの帽子に紫紅のガウンを着られた陛下（大正10年5月）

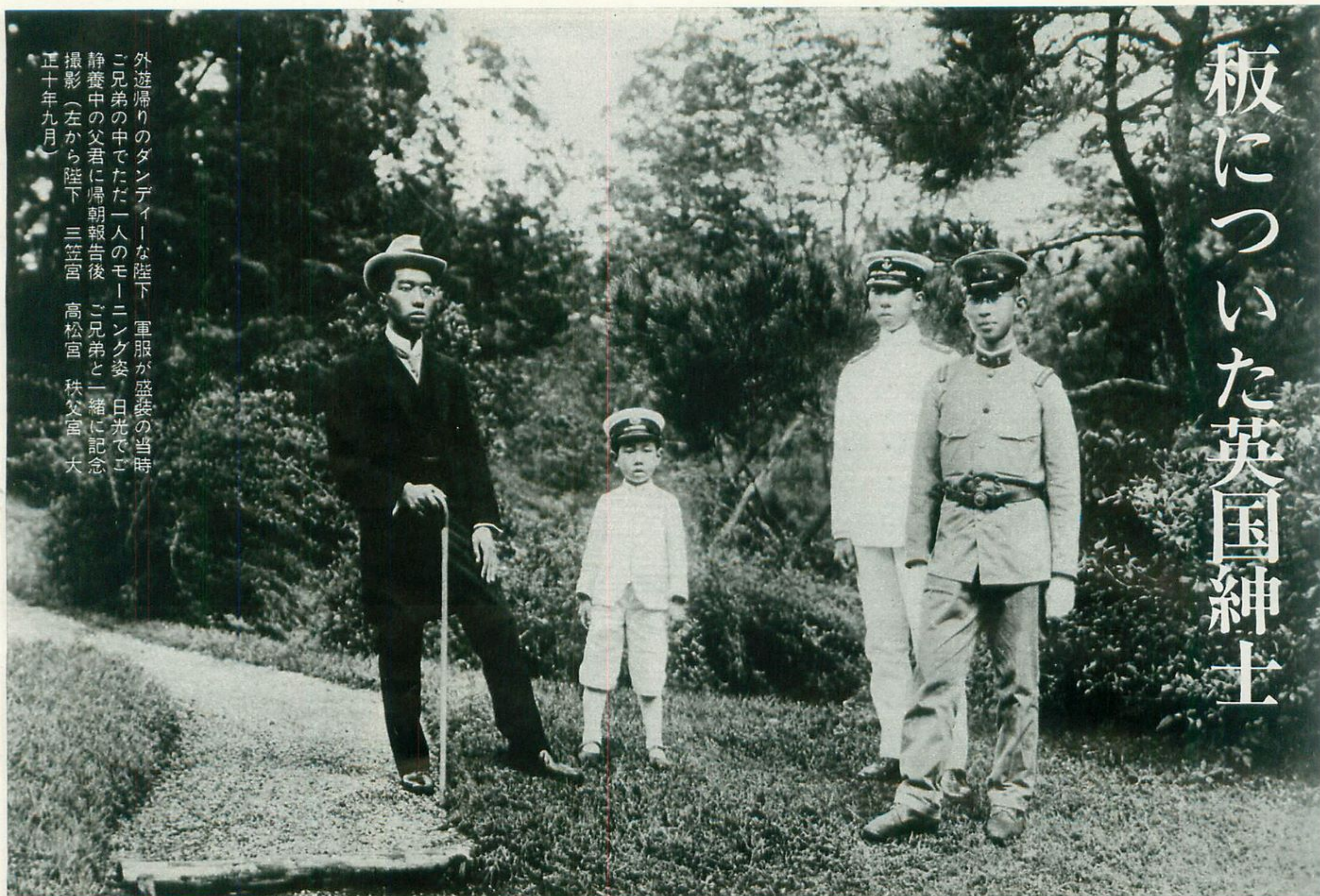
当時の英国皇太子（のちのウィンザー公）の訪日で　東京駅頭まで出迎えられ　再会を喜ばれる陛下　中央は山本信次郎海軍大佐（大正十一年四月）

陛下と軍服

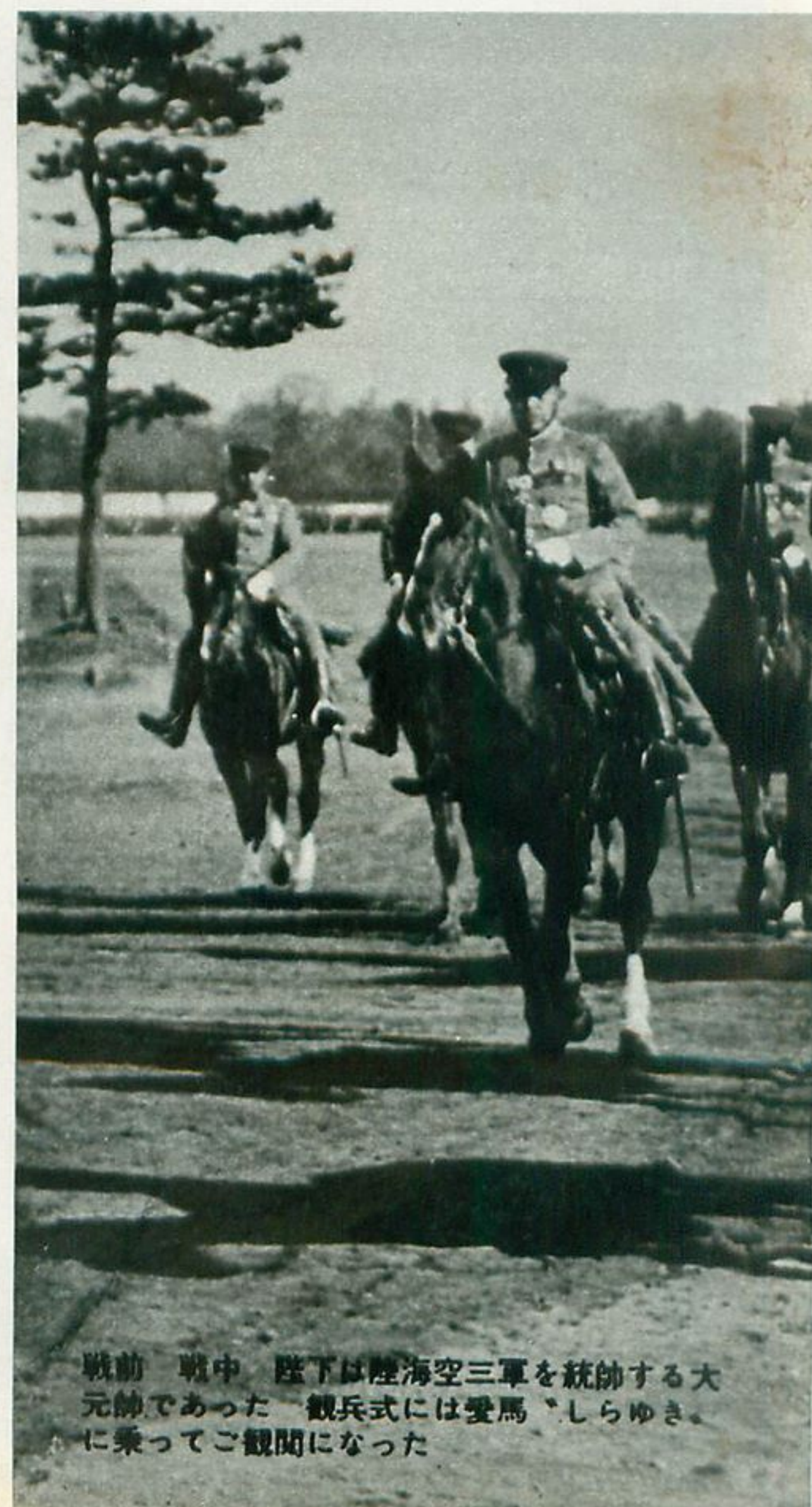
▲戦艦『三笠』保存式典当日　三笠の甲板上での陛下と東郷平八郎元帥　この時父君の大正天皇はすでにご病気だった（大正15年11月）

▶大正元年９月　満11歳で陸海軍少尉に任官された　皇太子さまにも　浩宮さまにも似ていられる（陸軍少尉大礼服を召された当時の陛下）

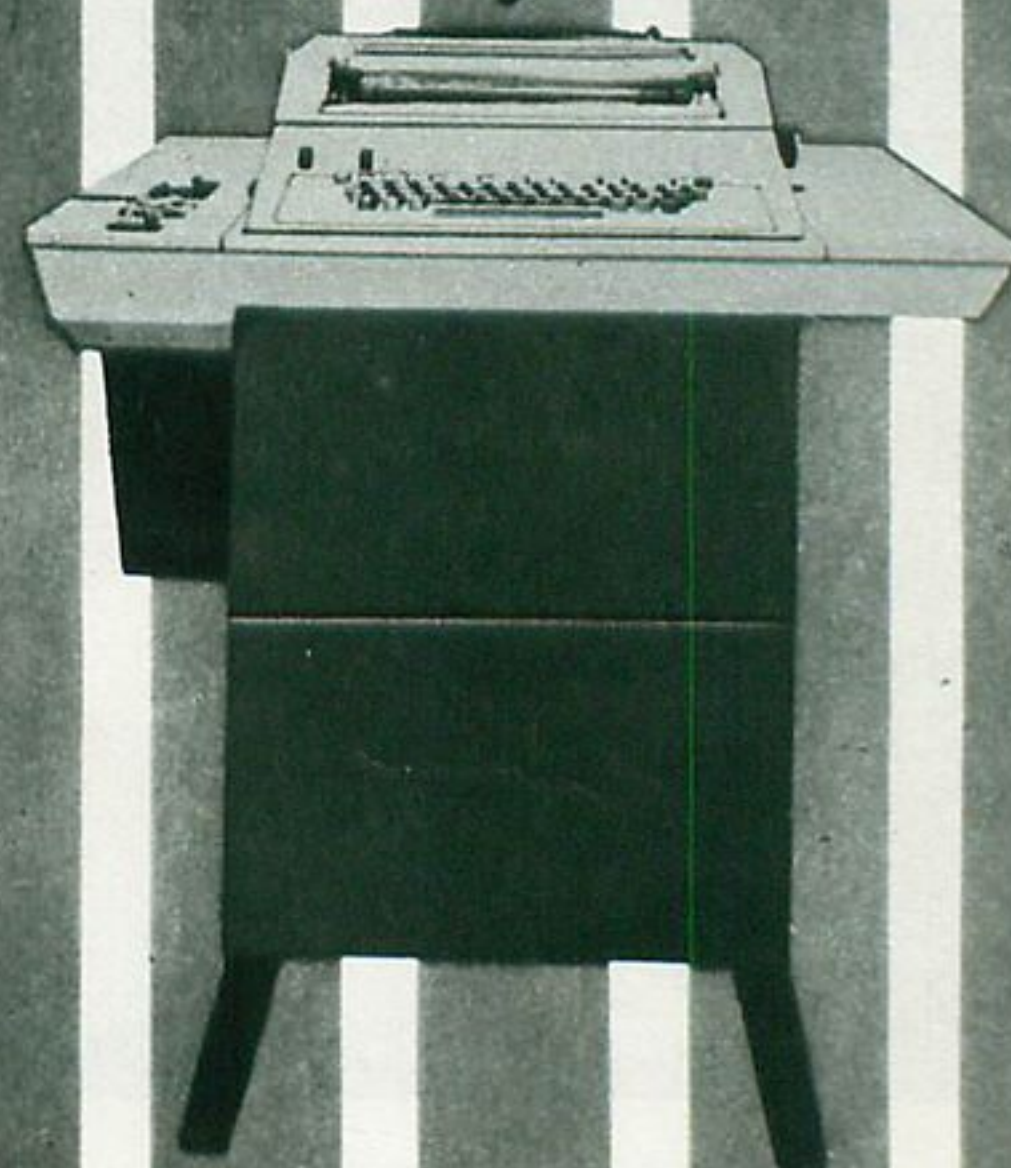
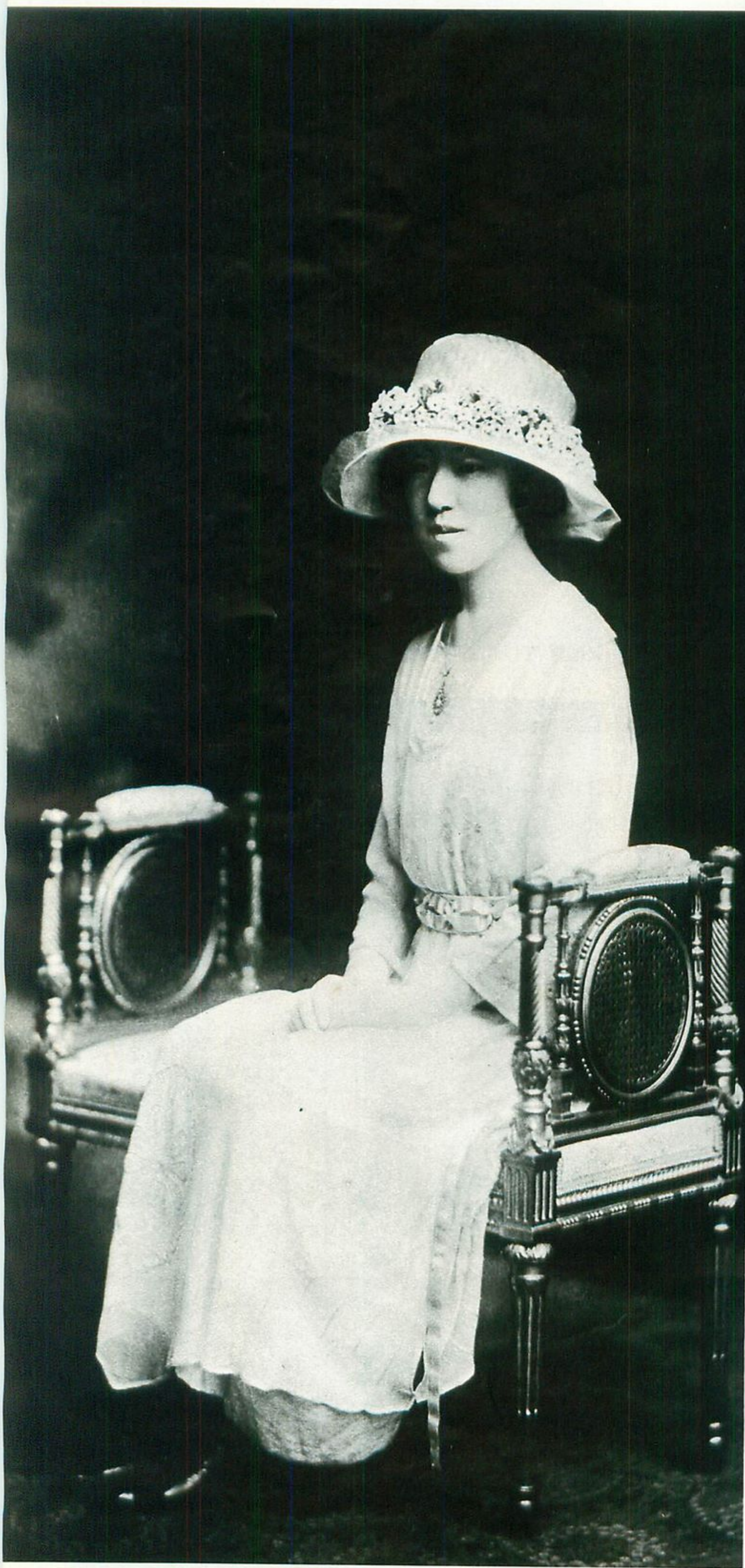
大正10年３月　皇太子だった陛下は軍艦で訪欧の途へ　５月にはロンドン入りされ　英国陸軍大将の服装で記念撮影

大正９年10月　満19歳　海軍少佐の服装がりりしい

板についた英国紳士

外遊帰りのダンディーな陛下　軍服が盛装の当時ご兄弟の中でただ一人のモーニング姿　日光でご静養中の父君に帰朝報告後　ご兄弟と一緒に記念撮影（左から陛下　三笠宮　高松宮　秩父宮　大正十年九月）

板についた〝英国紳士〟ぶりは　コウモリがさにレーンコートの外出姿にも…（大正11年4月）

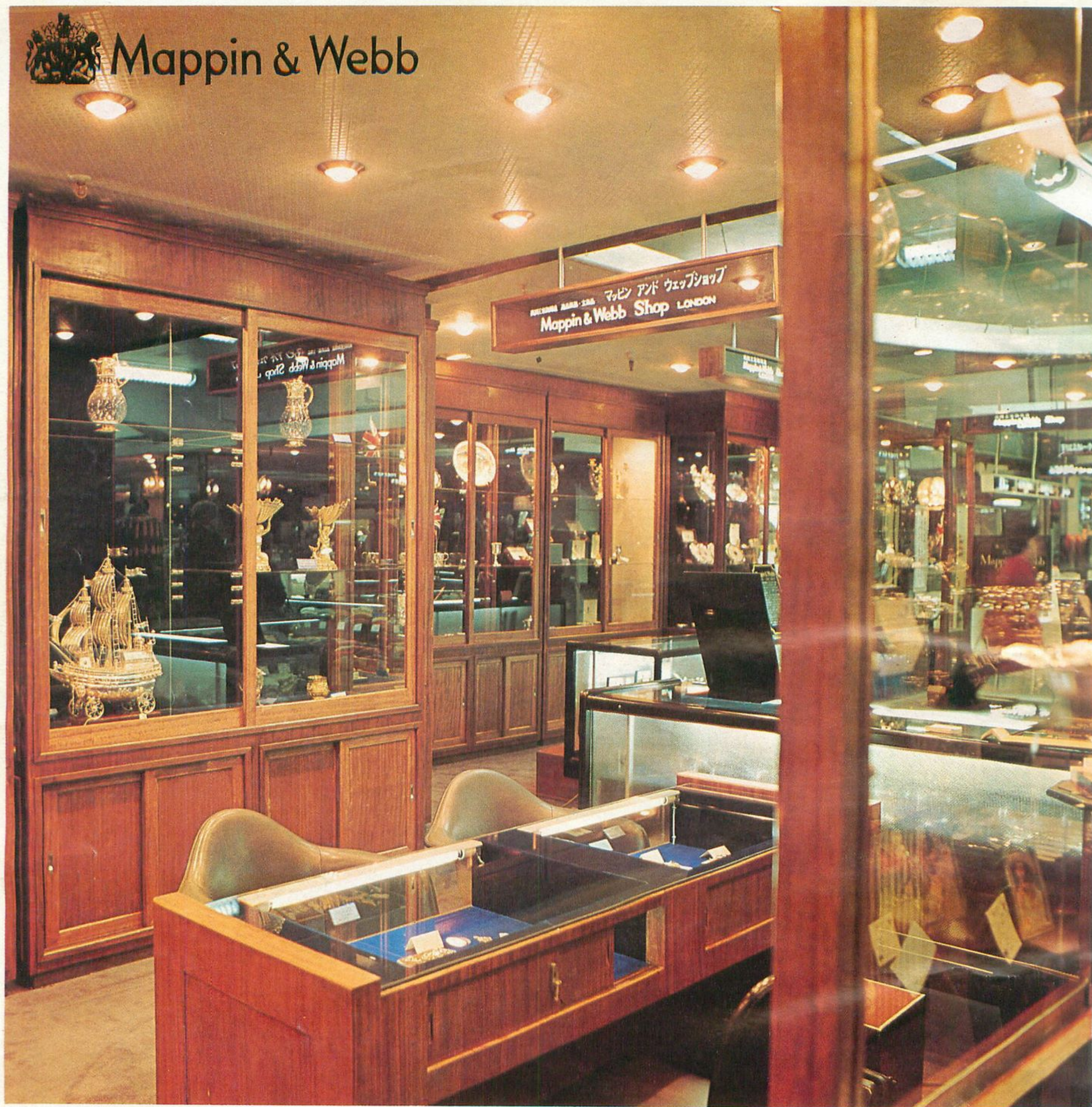
ステッキ　ソフト　手袋…　ご外遊で身についた〝若きクラウン・プリンス〟のおしゃれぶり（大正11年11月）

戦前　戦中　陛下は陸海空三軍を統帥する大元帥であった　観兵式には愛馬〝しらゆき〟に乗ってご観閲になった

トップモードの皇后さま

久邇宮邦彦王の第一女王としてお生まれになった皇后さま　まだ10歳のころのお写真

若き日の皇后さま　当時のトップ・モードの洋装
だったのだろう

大正６年　満14歳の皇后さま　翌年に陛下とのご
婚約が内定したのだから　これは秘蔵の『お見合
写真』だといえる

▶28歳の誕生日を記念してのお写真　当時　皇后さまの誕生日を『地久節』と呼んでいた（昭和7年2月）

右下：38歳の皇后さま　関西ご旅行の際　京都御所紫宸殿前庭で（昭和16年5月）
下：袿袴（けいこ）姿の皇后さま　同じ年の洋装の時と趣が異なって見える（昭和16年9月）

Mappin & Webb

英国王室ご用達160年の伝統を誇る
銀製品の名門が日本橋三越に華麗に登場！

マッピン＆ウェッブショップ
●日本橋三越本店6階 特選売場

気高く優雅なデザインが、世界の国々で尊ばれているマッピン＆ウェッブの銀製品、英国の職人気質が守り続けられている銀工芸の粋をアンティークシルバーウェア・宝飾品から現代のモダンなシルバーウェア・ファッションジュエリーまで一堂にとり揃えました。

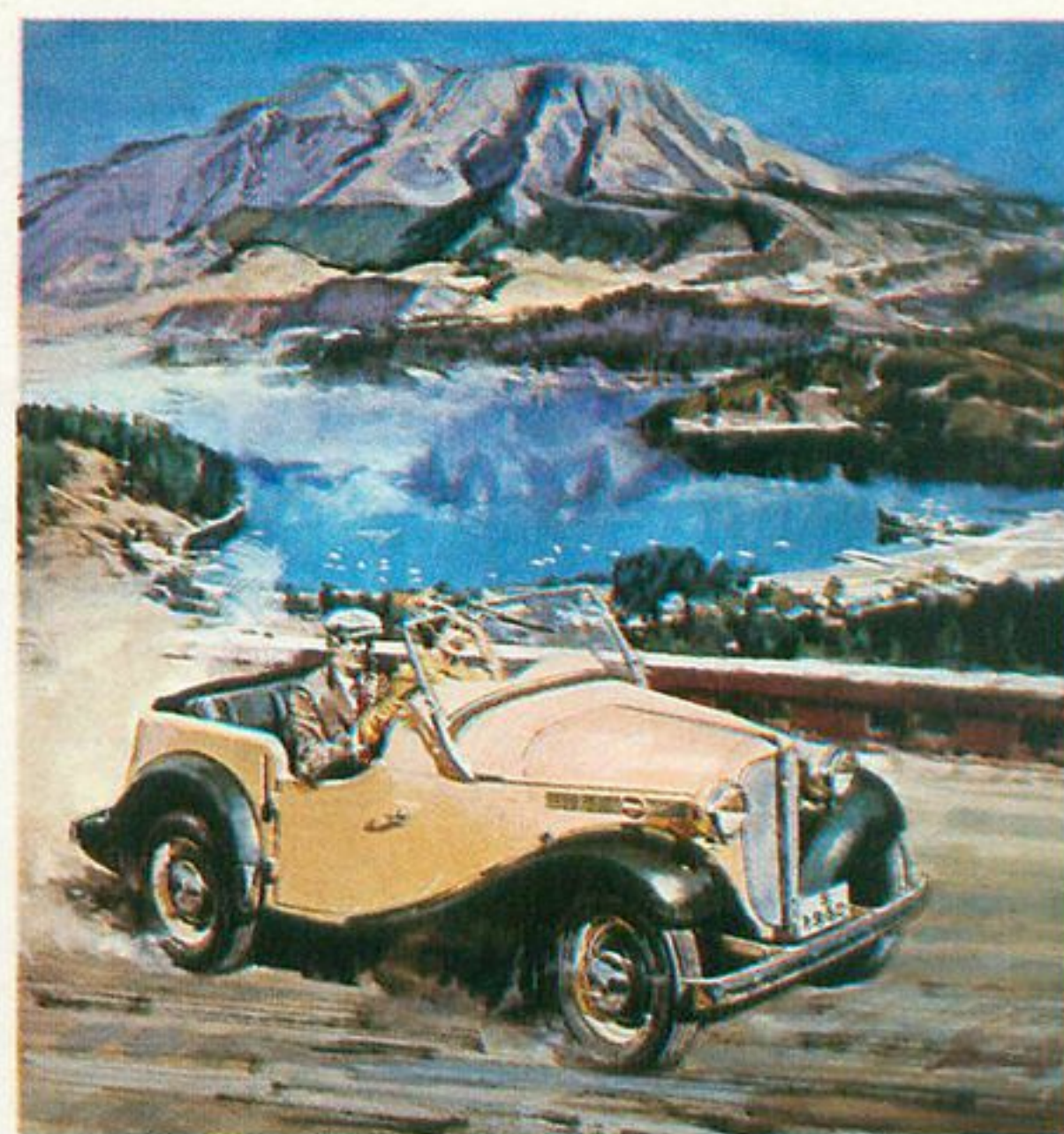
銀製コーヒーセット……………………………380,000円
アンティークK18モザイクデザイン・ネックレス・イヤリングセット（1840年の作）………………1,500,000円
ほかに銀製食器・銀製宝石箱・ファッションジュエリーなど陳列。

日本橋
三越
電話 東京(03)241局3311
中央区日本橋室町1－7

陛下と風雪を共にされた皇后さまには　いま年輪に刻まれた気品が漂う　左ヒジ下に輝くのが　日本の女性の最高勲章「勲一等宝冠章」（昭和四十五年一月）

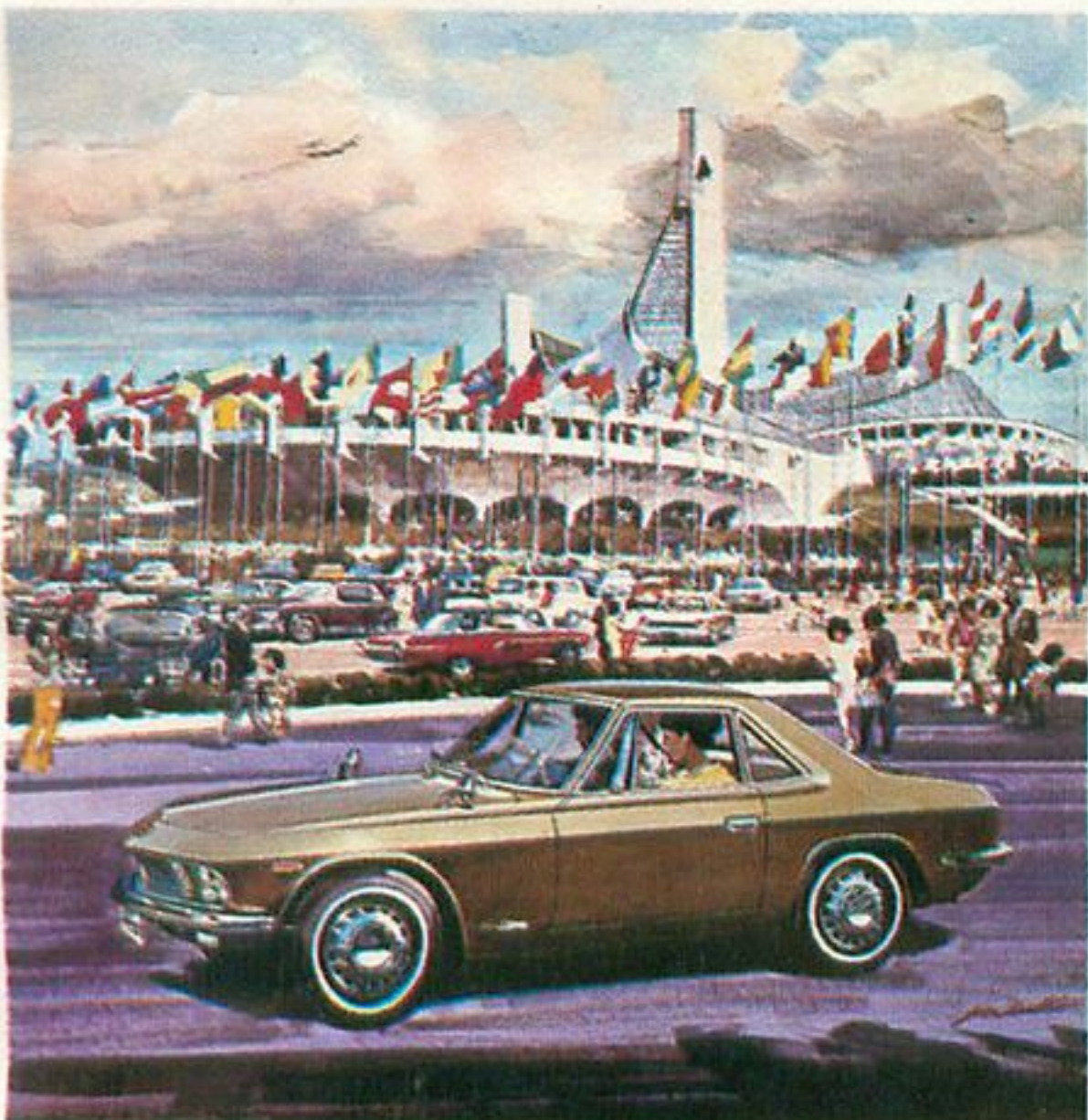
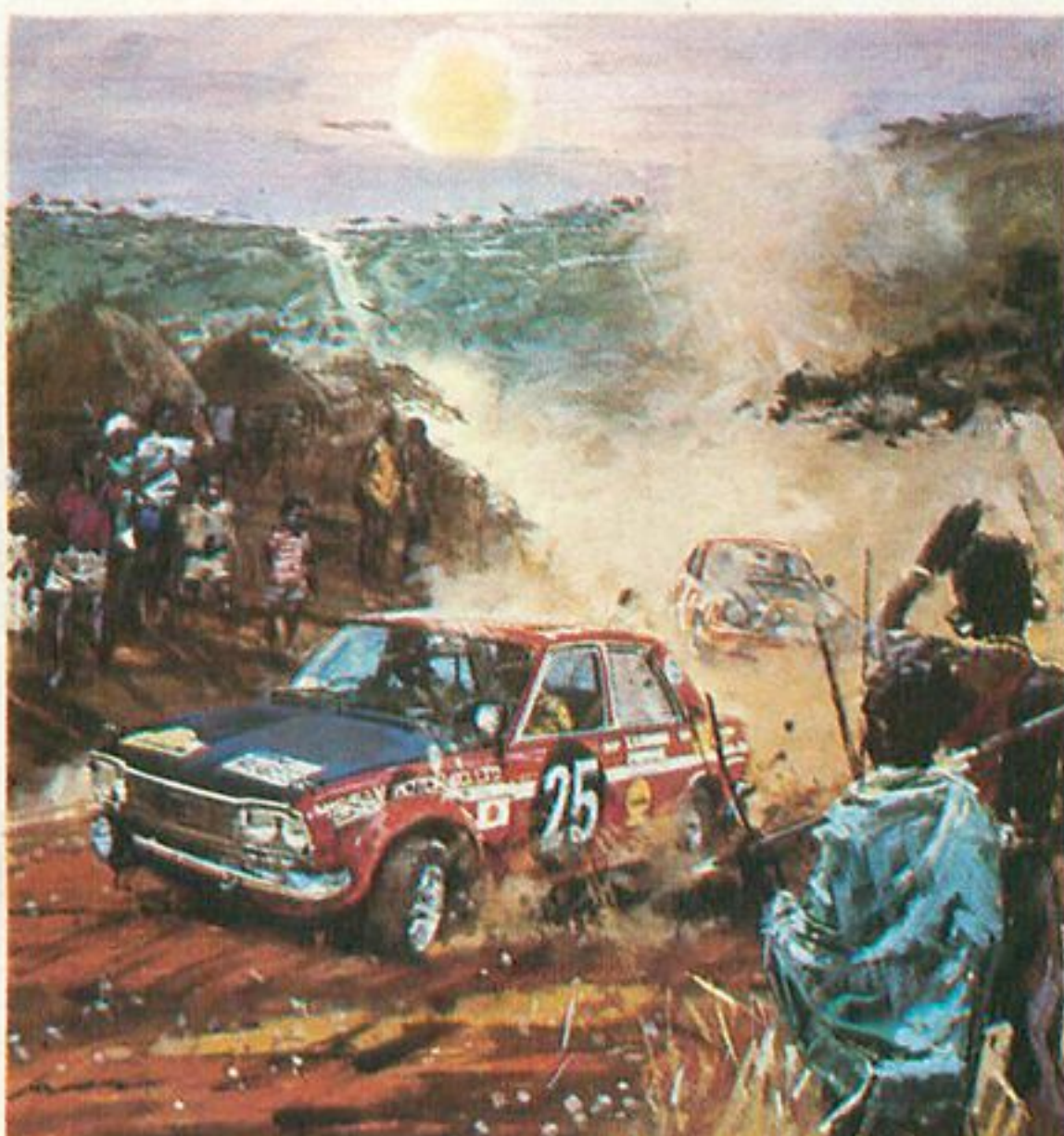
いつも変らぬ風格と威厳　にじみでるお人柄のよさは　国民の敬愛の中心である　首にかけられた大勲位菊花章頸飾はじめ　数々の勲章が光を添える（昭和四十五年一月）

1932年　ダットサン1号車

1937年　戦前の名ダットサン

1952年　戦後初のスポーツカー・ダットサンスポーツDC-3

1958年　ダットサン210・初めて豪州ラリーを制覇

1959年　走るベストセラー、ブルーバード

1963年　第1回日本GPとフェアレディ1500

1965年　永遠の名車シルビア

1969年　ブルーバードSSS、サファリを制す

昭和史を走り通して…

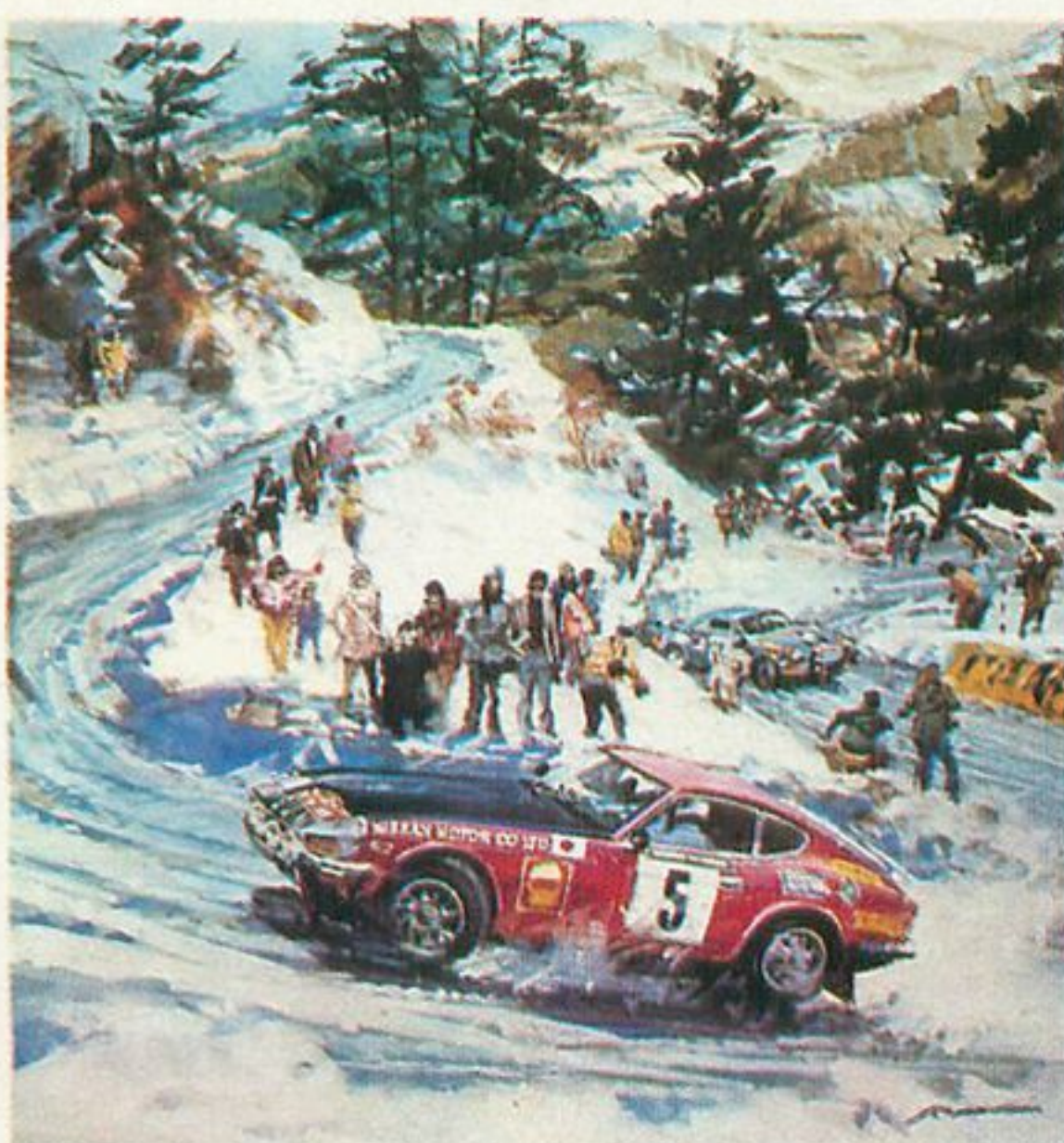
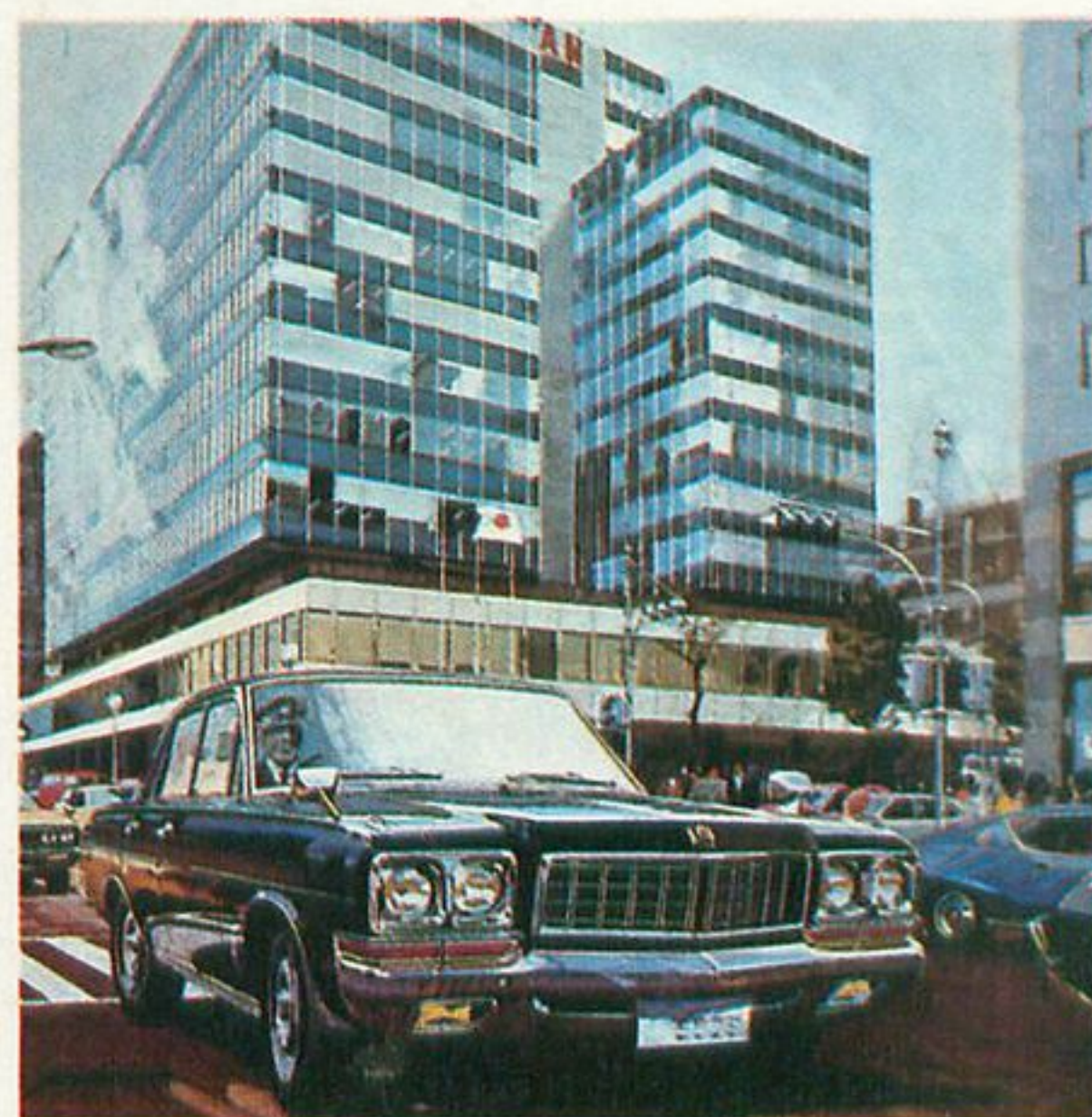
昭和48年12月26日、日産自動車は、創立40周年を迎えました。長い間にわたって親しまれてきたクルマメーカーとして、常に未来に向って走り続けてきました。この間、みなさまからいただいた信頼のレッテルは、いわば日産自動車の財産です。

そして――――――また新しい時代をめざして。

人とクルマの明日をめざす

NISSAN

日産自動車

1970年　最多勝記録をぬりかえ続けるスカイライン

1972年　フェアレディ240Z、モンテカルロを席捲

1973年　日本を代表する最高級車プレジデント

思い出のヨーロッパご訪問

両陛下は昭和四十六年九月二十七日から十八日間　ヨーロッパ七ヵ国を訪問され　各地で皇室外交をくり広げ　親善の実をあげられた　天皇さまは皇太子時代に訪問されたこともあり思い出もひとしお　各地で　ヨーロッパは初めての皇后さまに説明されるなど　お二人にとって思い出多いご旅行だった。

可愛いい子供たちからお土産のブドウを贈られ「ありがとう　ありがとう」と何度も繰り返された　皇后さまは日本にいるお孫さんたちを思い出されている風情だ（昭和46年10月10日＝スイス・ローザンヌ近くのガンボー村）

ご訪欧のハイライト　ロンドンご到着――エリザベス女王ご夫妻とともにビクトリア駅からバッキンガム宮殿に向かわれた馬車列はけんらん豪華なパレードだった（昭和46年10月5日）

ミロの「ビーナス」に魅せられる両陛下　ルーブル美術館での両陛下は　予定時間を過ぎても熱心にご鑑賞になった（昭和46年10月３日）

▶ローレライで知られるライン下りがご訪欧最後のお楽しみだった　岩膚にはえる草木はすでに秋色（昭和46年10月12日）

▼最初の公式訪問国はベルギー　ブリュッセル王宮で開かれたボードワン国王主催の夕食会には正装でご出席　左から王弟アルベール殿下、ファビオラ王妃　天皇陛下　皇后陛下　ボードワン国王パオラ妃殿下（昭和46年９月29日）

明日への一滴

昔、私たち人類は、"医学・薬学"
と呼ばれるものがなかった時代
にも、いろいろな薬を発見し、
使っていました。

自然を利用した草の葉や木の
根の、いわゆる薬草です。

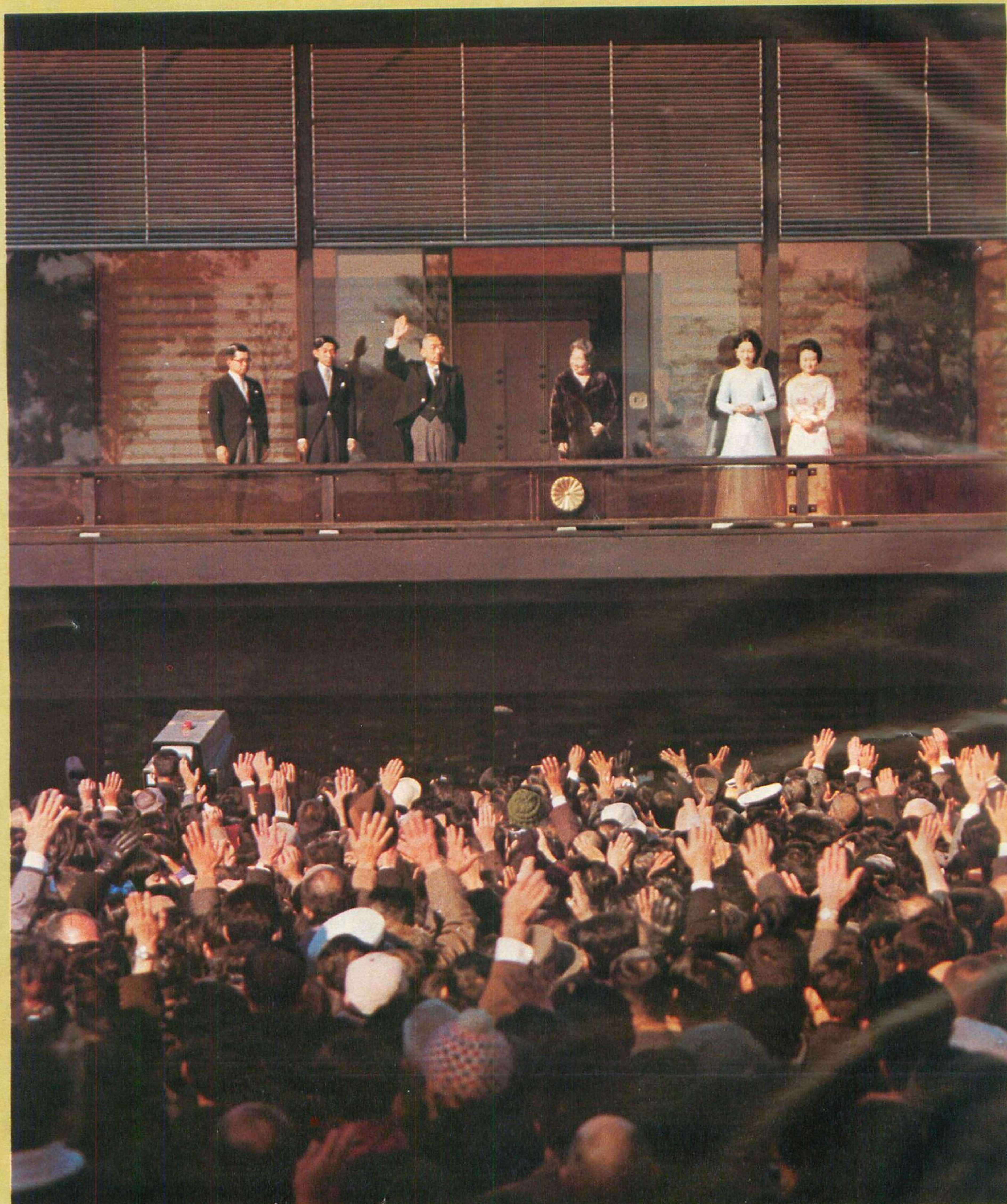
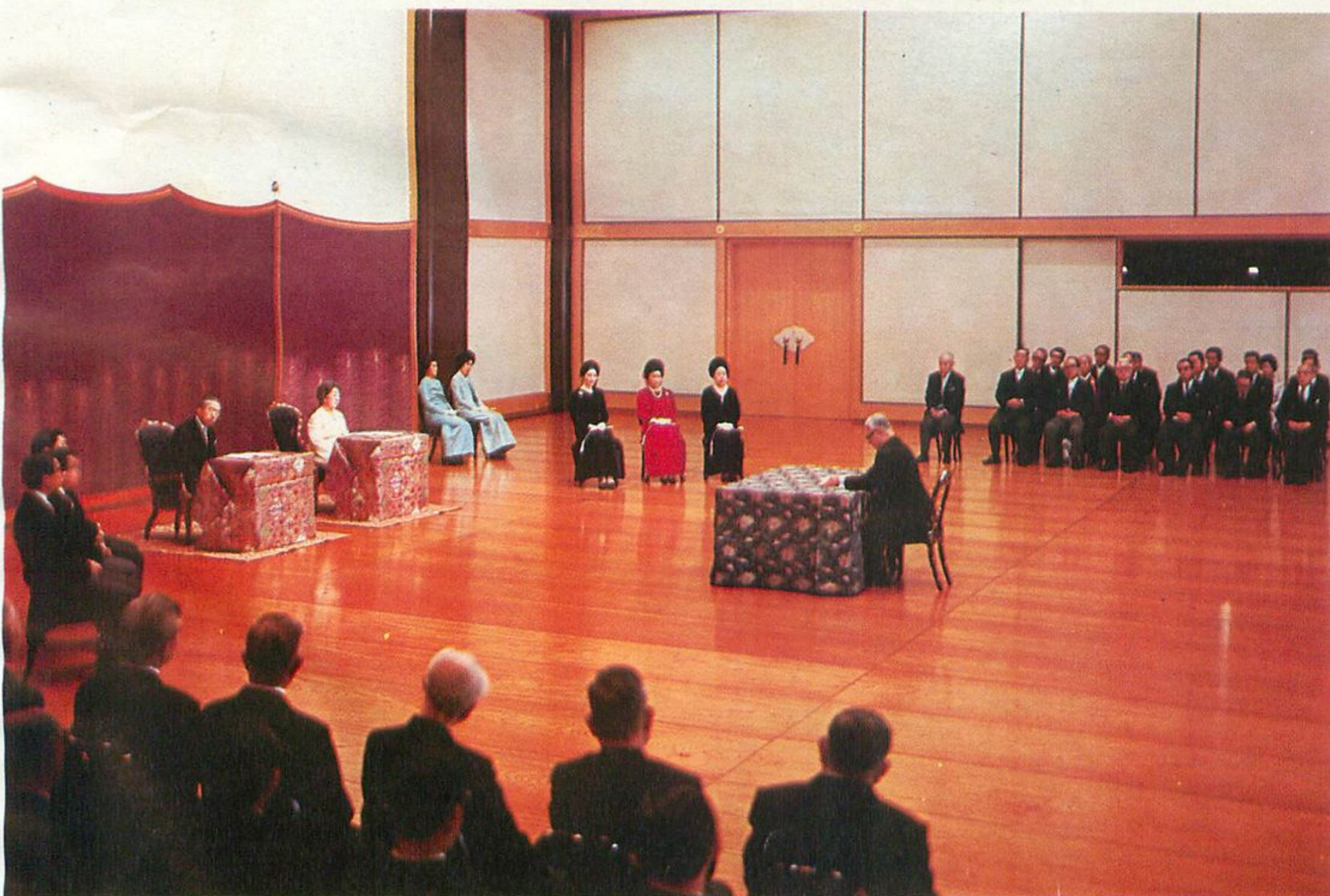
それは、今日の薬学の第一歩と
なり、いらい、数々の薬が発見
され、つくられてきたのです。

今、私たち人類は、"医学・薬学"の
めざましい進歩により、数多くの
病気にうち勝つことができます。
人類の歴史が残してくれたこの
尊い遺産をひき継ぎ、健康な
日々を願って明日への一滴を
つくりつづける……

このこころこそ、私たち第一製薬
のかけがえのないエネルギー源
なのです。

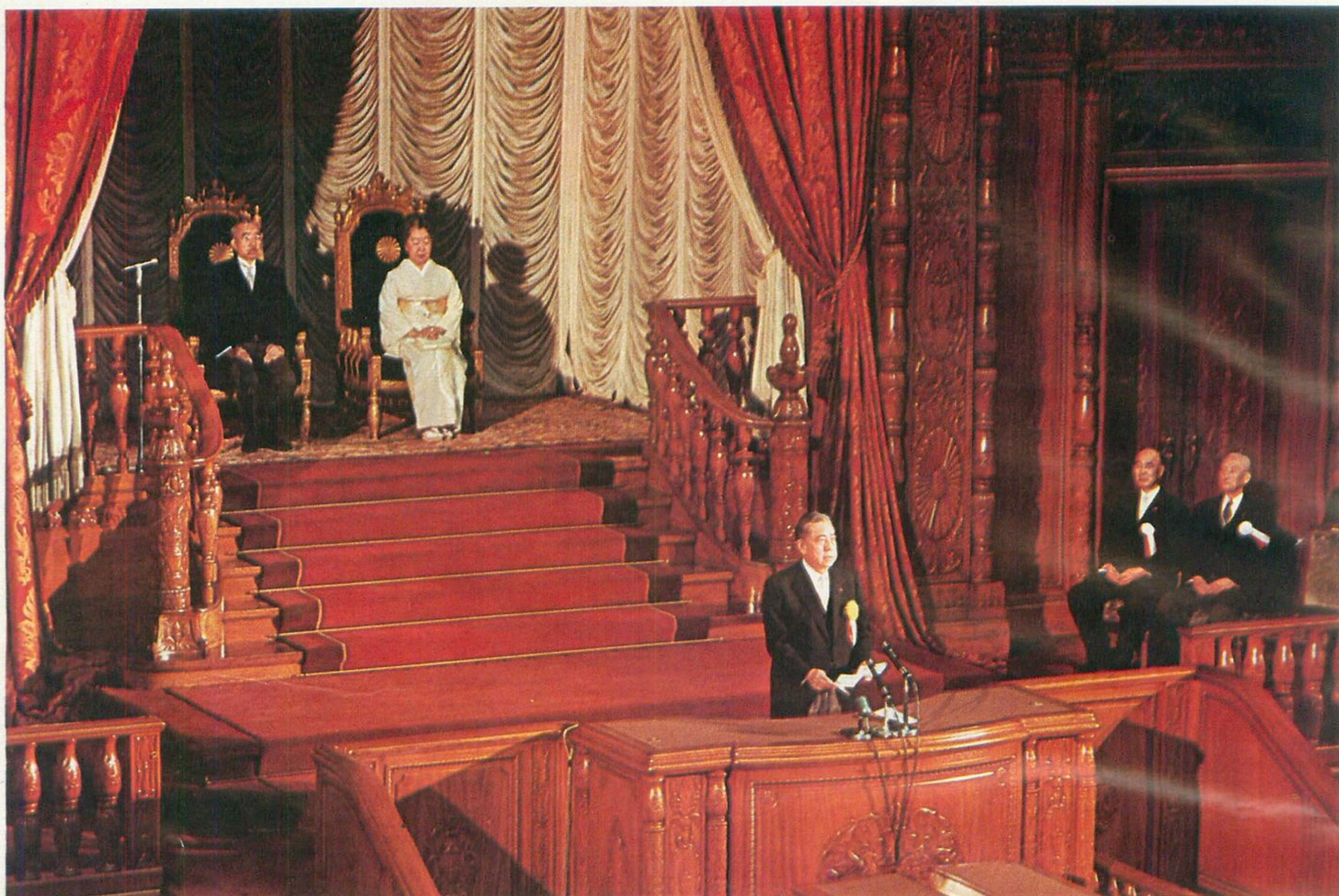
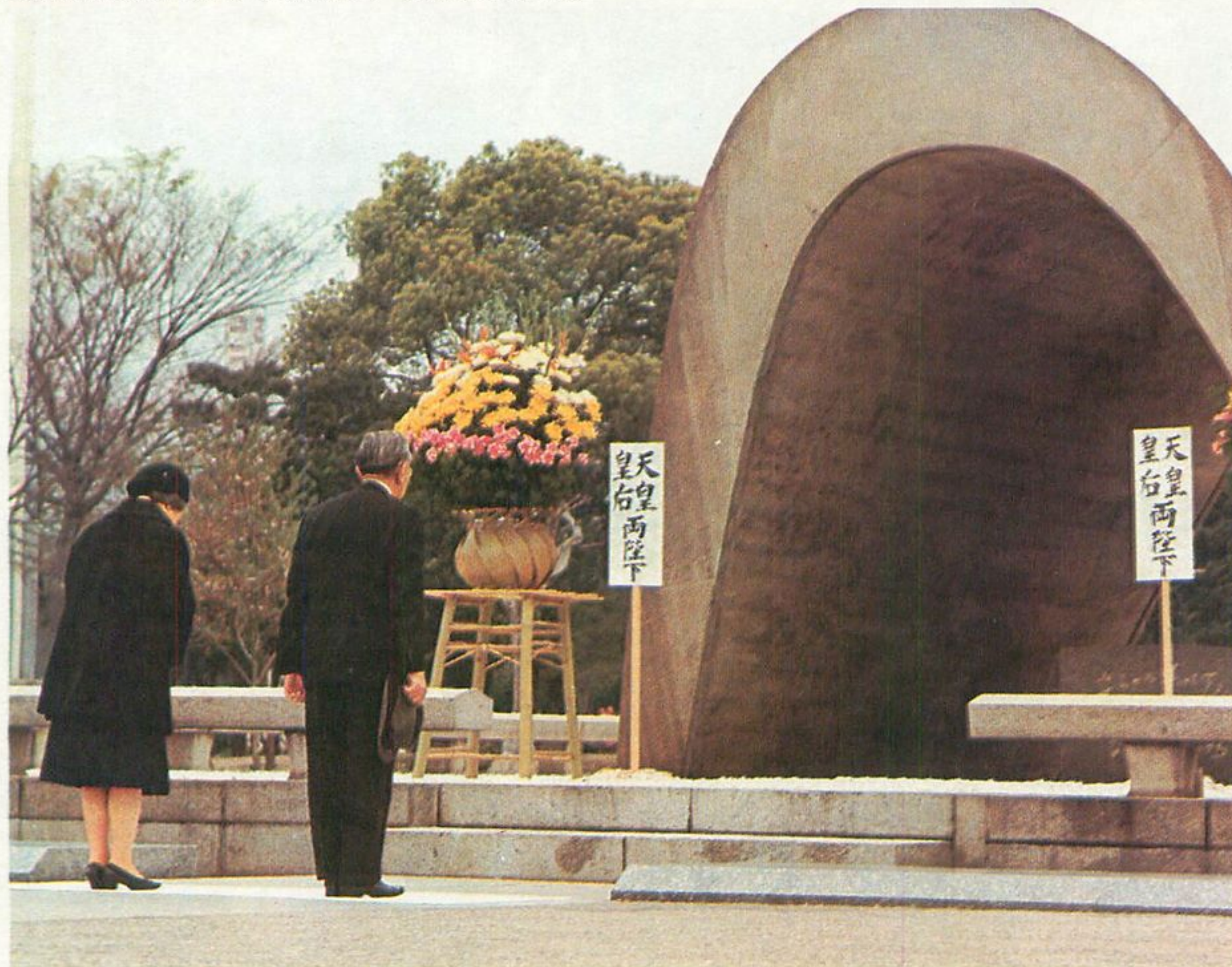
第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

陛下のご日常

象徴天皇のご日常はなかなかお忙しい　陛下は毎朝　吹上御所から宮殿に〝ご出勤〟になり　憲法に規定された公務につかれる　お仕事は　すべて内閣の助言と承認によるものではあるが　法律の公布　外交文書の認証　叙位叙勲など署名　押印されるなどさまざま　このほか国賓らのご接待をはじめ皇室外交の面でもご多忙である　一方　宮中伝統の行事　天皇家の神事も大切にされるだけに　陛下の一年は日程がぎっしり詰まっている

新春と天皇誕生日に行われる皇居への国民参賀は　天皇と国民を結ぶ親しみある行事として定着した（昭和44年1月）

皇室には　古式豊かな行事が数多く残されている
これは昭和四十八年〝歌会始の儀〟室町時代その
ままのどかな朗唱で次々に披露される詠進歌に
陛下は耳を傾けられる

明治天皇が学問振興を目的に始められたのが「講
書始の儀」　講師には自然・社会・人文科学の権
威者が選ばれる（昭和四十八年一月）

英国のアレキサンドラ王女をお迎えして　陛下主催の夕食会　会場は宮内庁三階の仮宮殿だった（昭和三十六年十一月）

〝皇室外交〟戦後生まれた言葉の一つである　国際親善に両陛下は精いっぱい努力されている　タイのプミポン国王ご夫妻と歓談される両陛下（昭和三十八年五月・仮宮殿西の間）

国会開会式に出席された両陛下（昭和45年11月）

広島の原爆慰霊碑に黙とうを捧げられる両陛下
（昭和46年４月）

毎年めぐってくる終戦記念日　８月15日　戦没者の霊前で「往時を思い胸の痛むをおぼえる…」と頭を下げられた陛下　胸の中に去来するものは…
（昭和48年８月15日＝日本武道館で）

▶防寒帽・防寒コートの陛下のお姿は珍しい　札幌の冬季オリンピックで　再びオリンピックの開会を厳粛に宣せられた（昭和46年２月・開会式）

◀ミュンヘン五輪は公務の許す限りテレビ中継をご覧になっていた陛下　優勝した日本体操チームと談笑された（昭和47年９月）

◀千葉国体の開会式　全国の若者がつどうスポーツの祭典に出席するのが毎年　陛下のお楽しみのひとつだ（昭和48年10月）

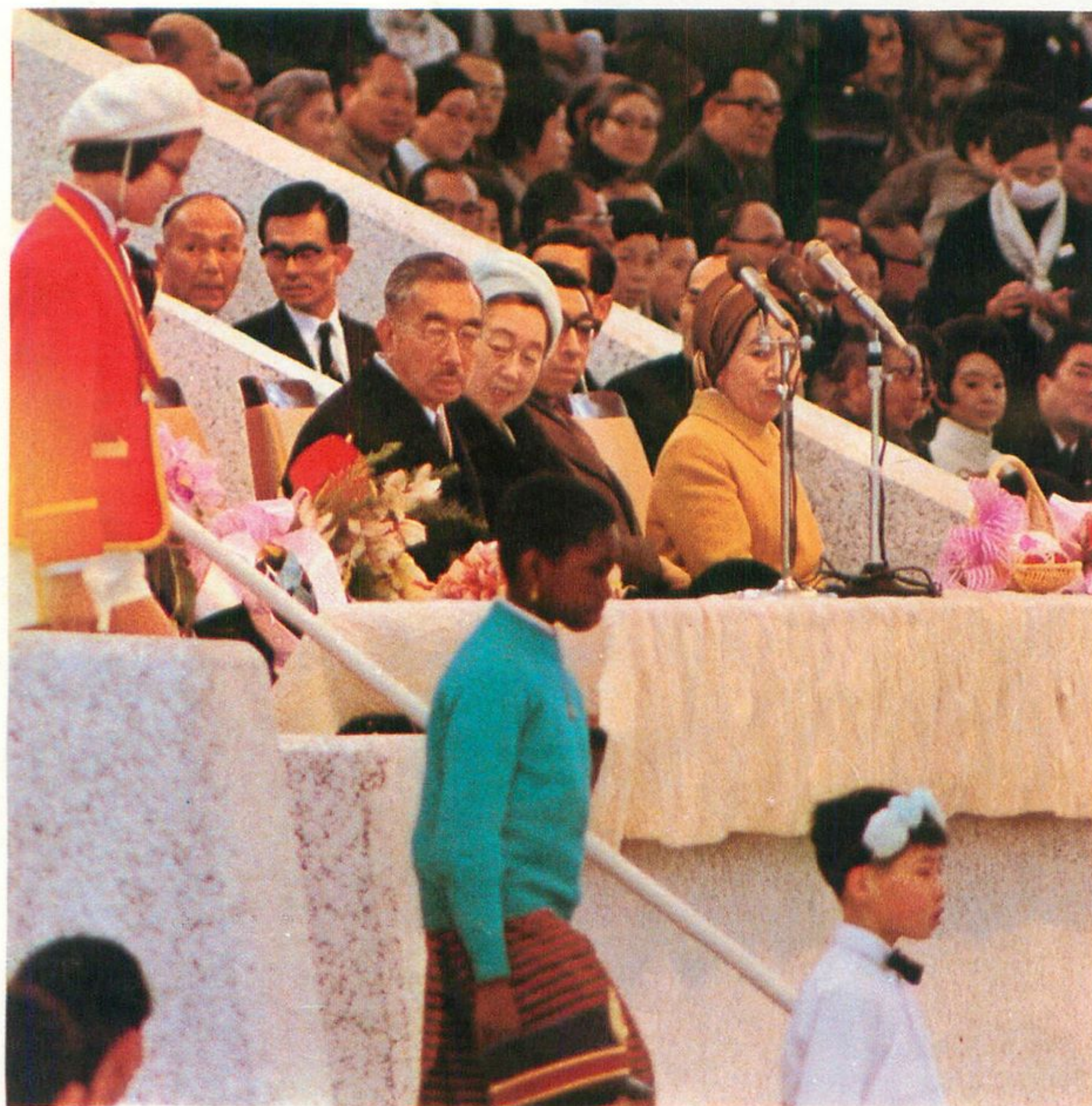
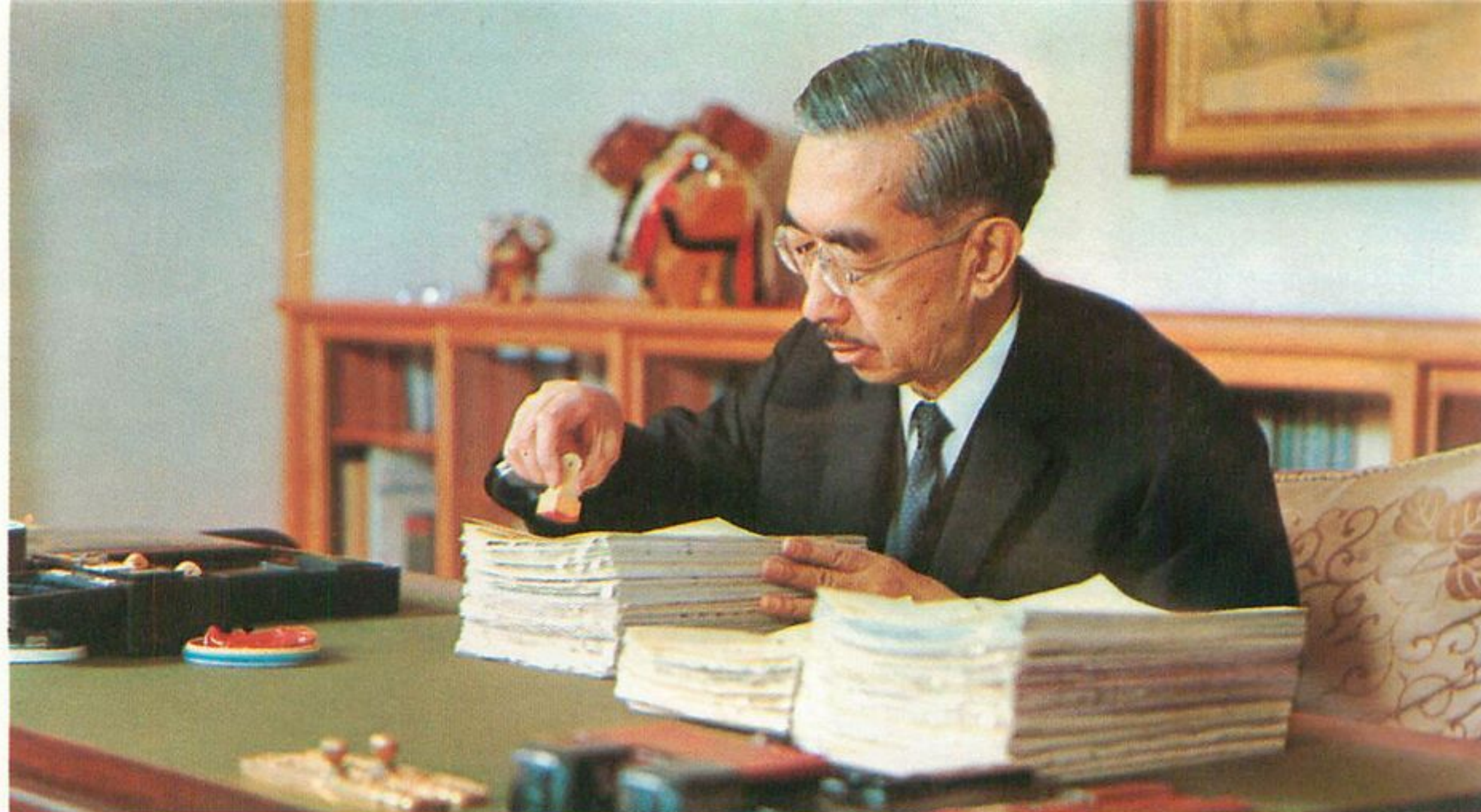
▶東京オリンピックの名誉総裁として開会を宣せられた陛下は　宮内庁の記者団に『できるなら全種目見てみたいものだ』と述べられた（昭和39年10月・東京オリンピック開会式）

いつでも どこでも だれとでも ゆたかな心のふれあいを――
Green Communication

肩がふれあう隣りの人よりも近くにいるのが電話の相手。

たとえどんなに遠く離れていても電話はその隔たりを感じさせません。電話は、まさにコミュニケーションの原点。NEC日本電気の各種通信機器がお役に立っています。**電話交換機、搬送装置、マイクロウェーブ通信装置**…など、情報化社会に欠かせないものばかりです。よりスムーズで確かなコミュニケーションをとおして、人と人、人と社会のふれあいをより豊かに…これもNEC日本電気がめざすグリーン・コミュニケーションのひとつです。NEC日本電気は、人間尊重と自然調和をふまえたグリーンな社会を求めて、エレクトロニクスの総合力を駆使し、皆さまのお役に立つよう努めてまいります。

NEC
日本電気

『天皇の国事行為』は憲法第七条によって定められてある　山積みした書類の決裁も陛下のお仕事のひとつ（昭和44年4月・宮殿表御座所菊の間）

大阪・千里丘陵を会場にした大阪万国博　全世界の子供たちが両陛下に花束の贈り物　それを万雷の拍手が包んだ（昭和45年3月）

カナダ館での両陛下の反応は二人二様　飾らないお人柄のにじみ出たスナップ（昭和45年3月・万国博）

植樹祭で全国を巡られる両陛下　昭和43年は秋田県の予定だったが三陸沖地震のため両陛下は行かれなかった　そこで皇居・吹上御苑で鉢植えに植樹秋田県知事に贈られた

喜劇の人気者故柳家金語楼師匠と談笑される両陛下　かつてエノケンとも談笑されたが　TVの喜劇番組は愛好されているようだ（昭和43年5月・赤坂御苑・春の園遊会）

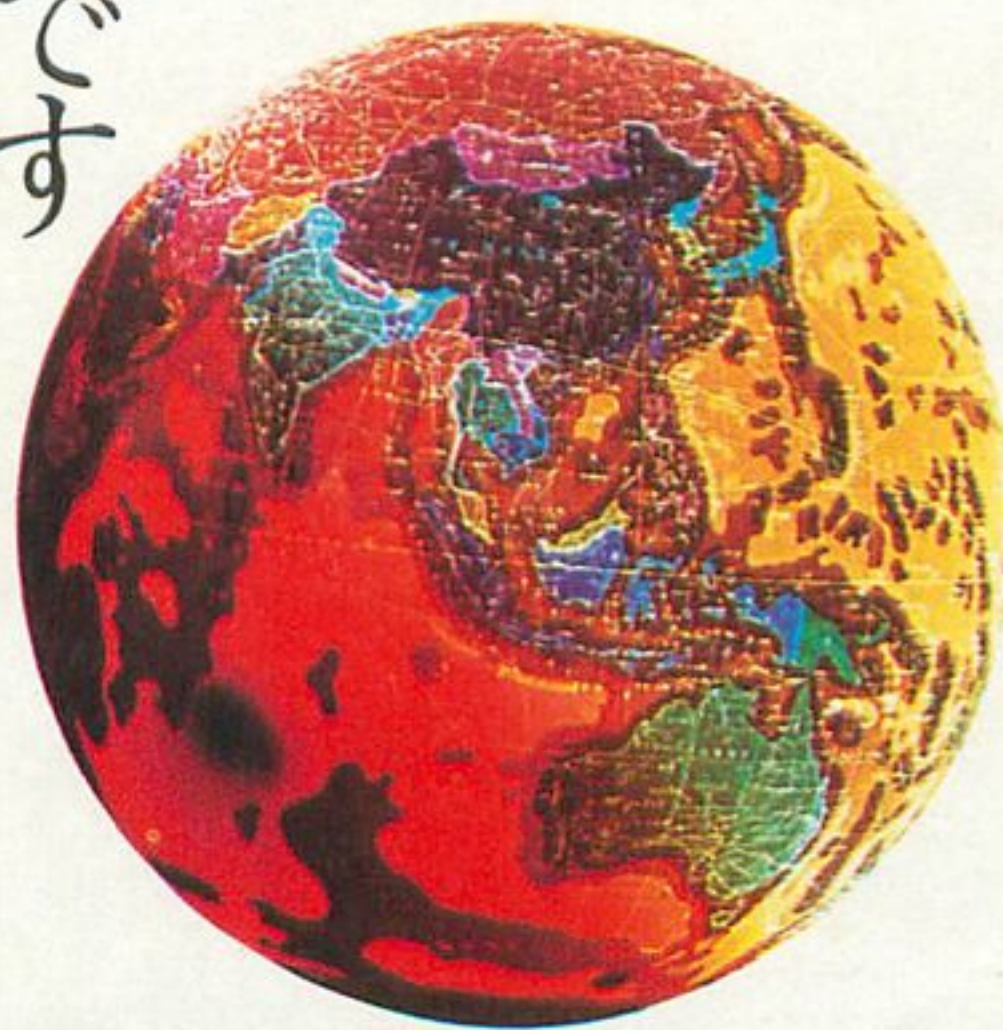
主婦連副会長の高田ユリさんと　ハプニングの〝物価談義〟　さすがツワモノの高田さんも恐縮した（昭和48年10月・赤坂御苑・秋の園遊会）

安全はいまや地球的な研究テーマです

豊饒のなかの大きな曲り角

もともと進歩は正しいことです。科学技術の向上はつねに〈善〉と受けとめられてきました。現在はどうでしょう。私たちの生活周辺に安心できない科学の産物がさまざまあることを知ると、科学技術のあり方について改めて考えざるを得なくなってきました。時代のこの大きな曲り角に立ってタケダはいま、地球上に住む生物、そして人間の安全について、足もとからジッと見つめ直しています。

安全すぎるという言葉はありません

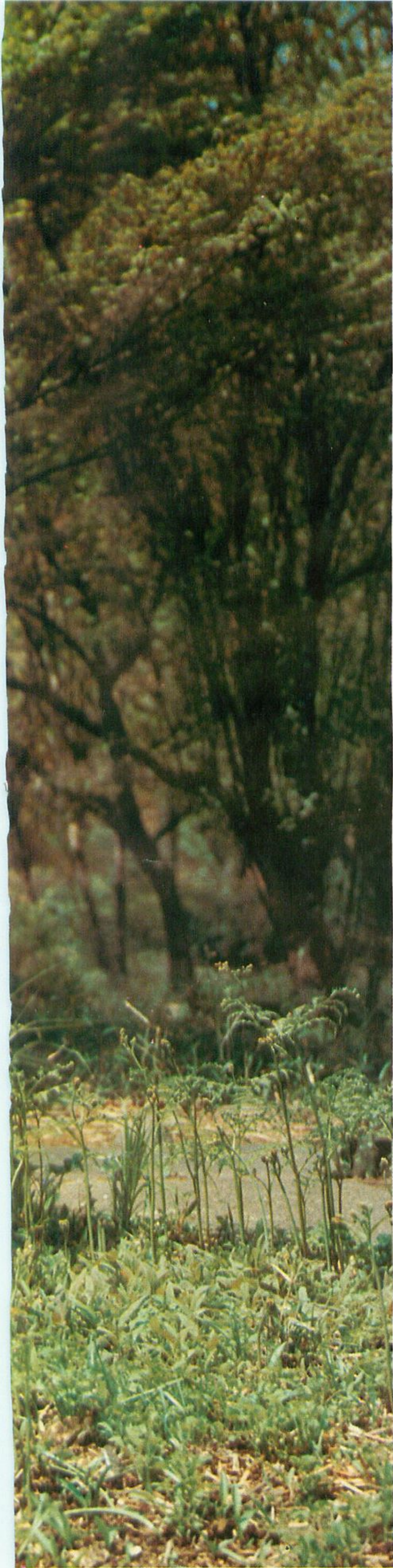
技術を社会が冷静にチェックしなければならない七〇年代。プラスの面だけを重視し、その副次的に生じるマイナスの影響に目をつぶった科学技術の存在は許されません。社会が安全を問題にする以前から、人命に直接かかわる医薬品は、どの工業分野よりも深く広くその解明に努めてきました。しかし、この地球的な研究テーマに、さらに大きな努力を必要としています。タケダはここに全勢力を打ちこみます。研究者・技術者はもちろん、生産に携わるすべてのスタッフは、〈人間の幸せとは何か〉を自らに問いかけながら、厳密と細心、厳格と慎重、この言葉のもつ真の意味を、心の奥深くに刻んでゆきます。

生命への畏敬をこめたライフサイエンスを

生命現象を解明し、生命と環境との関係を総合的に究明する〈ライフサイエンス〉、これからの技術革新の指針となる科学です。しかし、いのちの根源に結びつく科学であるだけに、その応用にはどこまでも慎重な配慮と心構えが必要です。人のいのちの計り得ない重みをひしひしと感じつつ、タケダは〈すべてのいのち〉のよりよき存在のために、ライフサイエンスを着実に探求しつづけます。

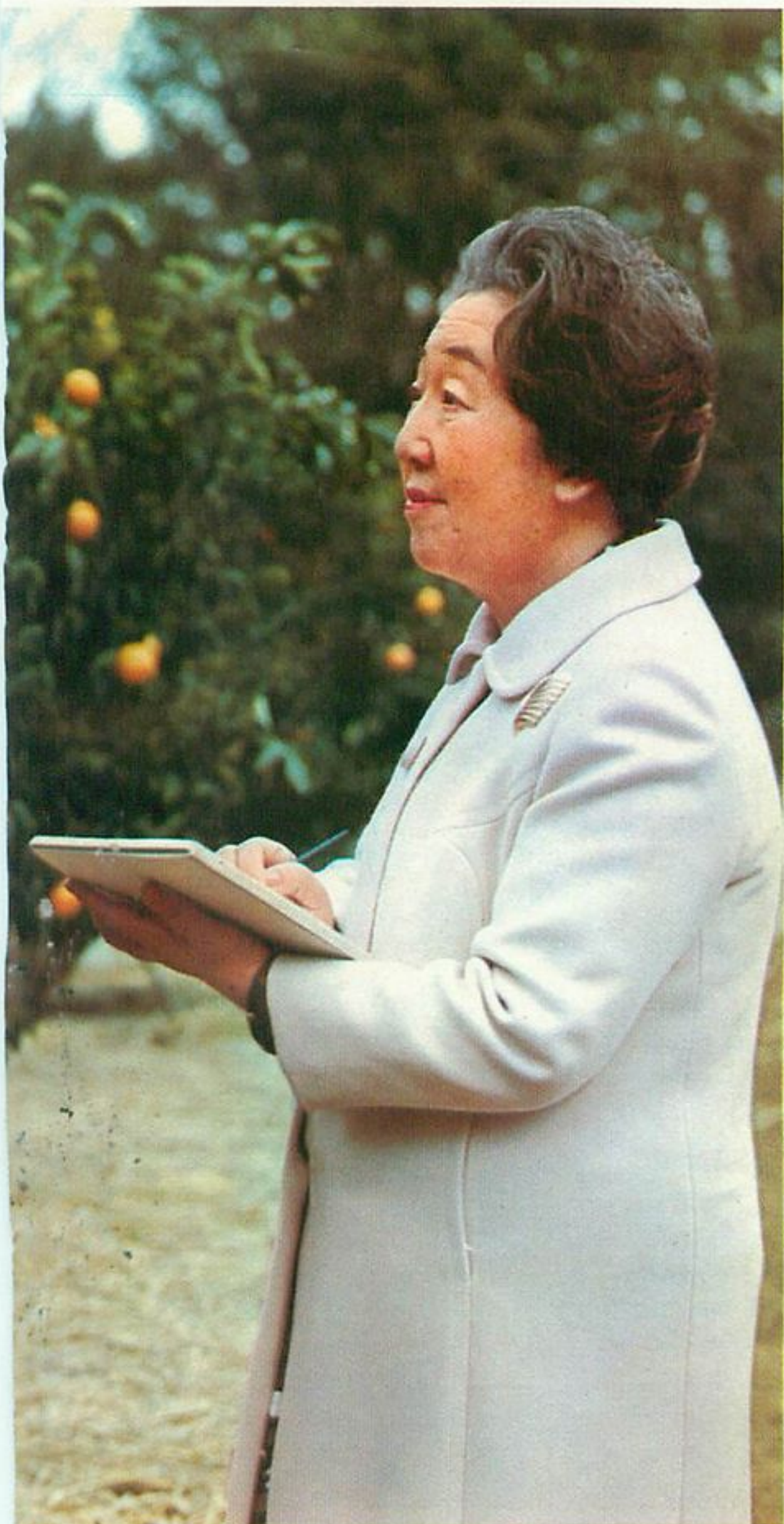
武田薬品工業株式会社

私的な日々

明るいクリーム色の鉄筋コンクリート二階建て　皇居吹上御苑にある　この建物が　両陛下のお住まい　吹上御所　南面の庭は　皇后さまが大切にされているバラ園　武蔵野を思わせる御苑で　古希を過ぎたお二人の静かな生活が営まれている　そして　那須　下田の御用邸に出かけて自然と〝対話〟される植物観察や海洋生物採集を何よりの楽しみにされている

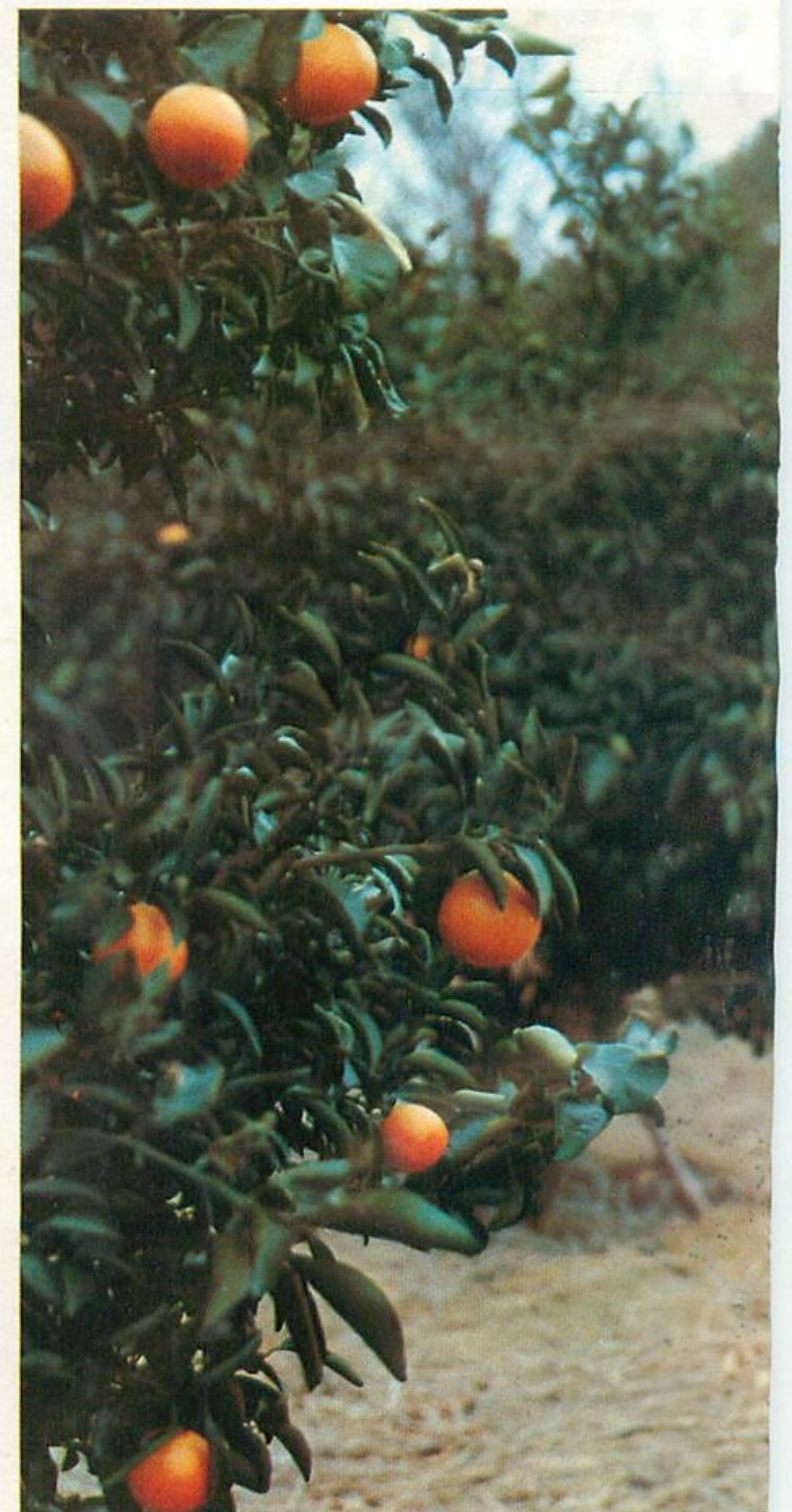
栃木県那須の丘陵へ野鳥観察に出かけられた両陛下（昭和48年8月）

葉山の岩礁で皇后さまの貝採取を手伝われる陛下（昭和43年６月）

農耕民族日本の伝統は　宮中でも陛下のお田植えに残されている
（昭和48年５月＝皇居内生物学研究所前の水田）

吹上御苑での野草摘み いかにも和やかな老夫婦といった光景である 戦中 戦後の食糧難時代には 皇后さまが摘まれた野草が食卓にのぼったこともある
(昭和48年 4 月)

吹上御所の南面にバラ園がある 皇后さまが丹精込めて育てられたバラは毎年 美しい花を咲かせる
（昭和42年３月）

▶皇居内の御養蚕所　ここで毎年　皇后さまは蚕を育て　勤労の尊さを体験される　出来た絹地は国賓として迎えた人たちにも贈られる（昭和40年6月）

昭和８年３月に撮影された皇后さまの写真　３枚のフィルムを入れ換えて撮影　あとで合成した珍しい写真である　この年12月　皇太子さまがお生まれになった　皇后さまは当時30歳

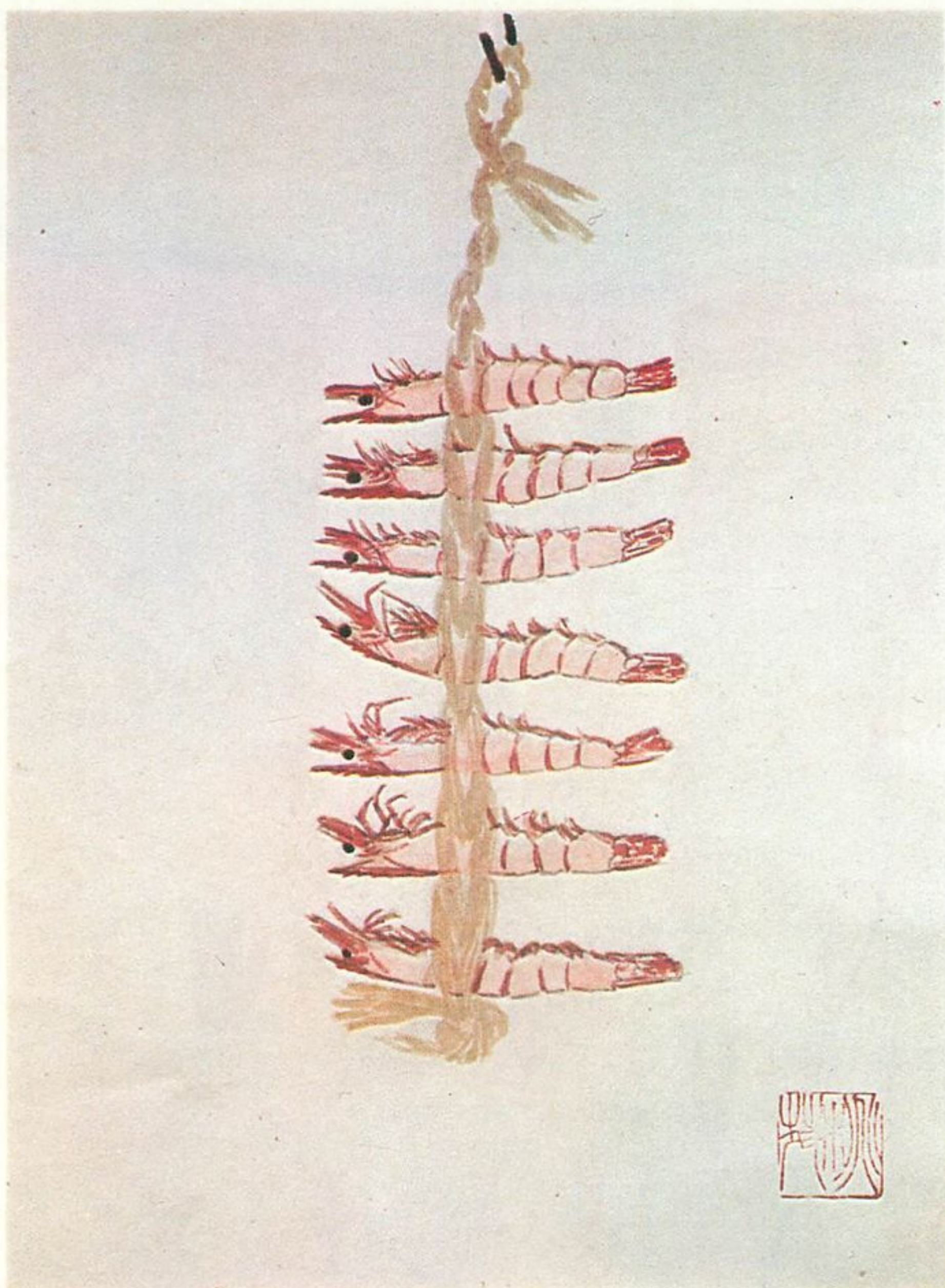
▼皇后さまは『桃苑』の雅号で長年絵筆をとられている（昭和48年２月・須崎御用邸）

天皇陛下の著書

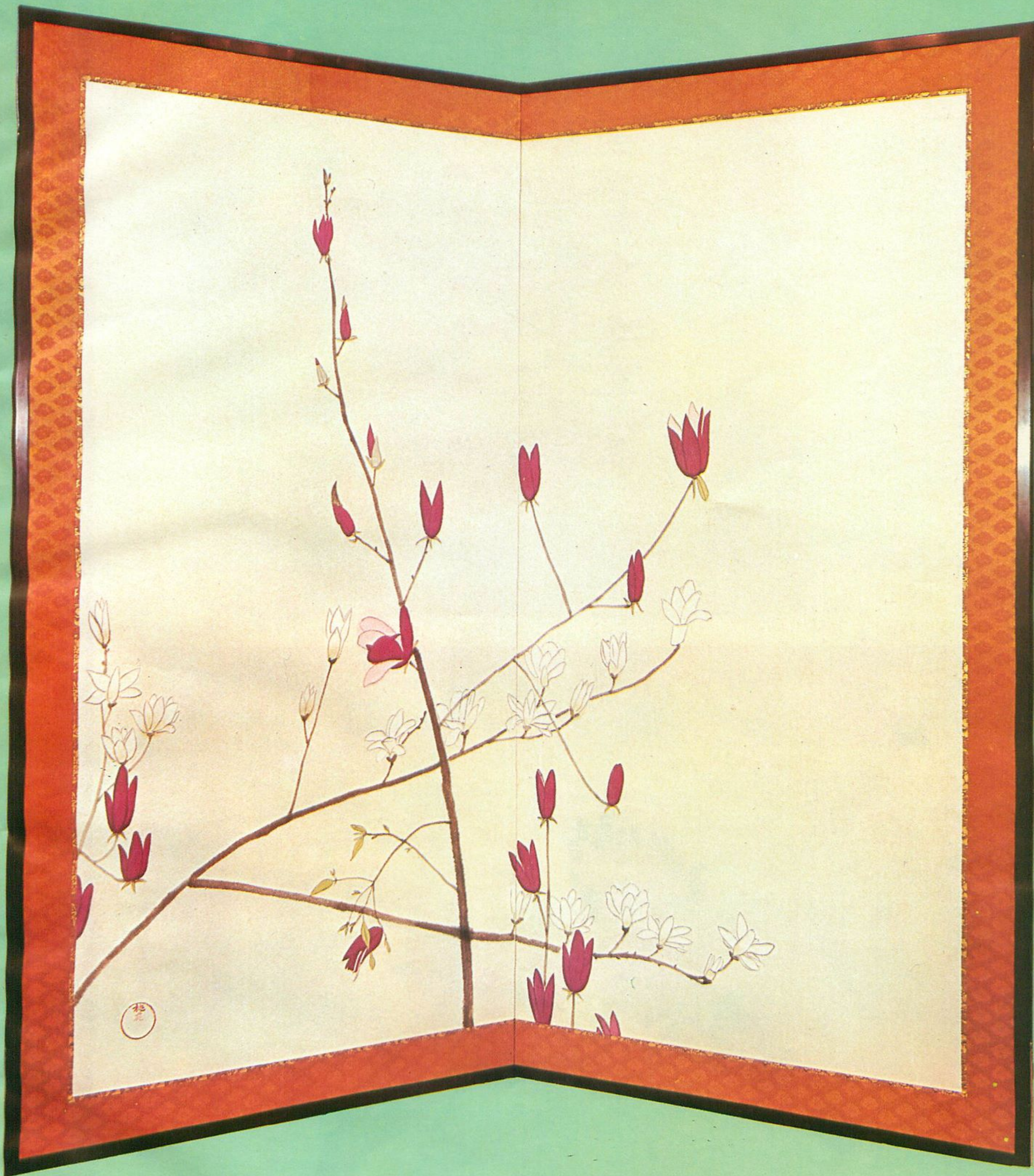
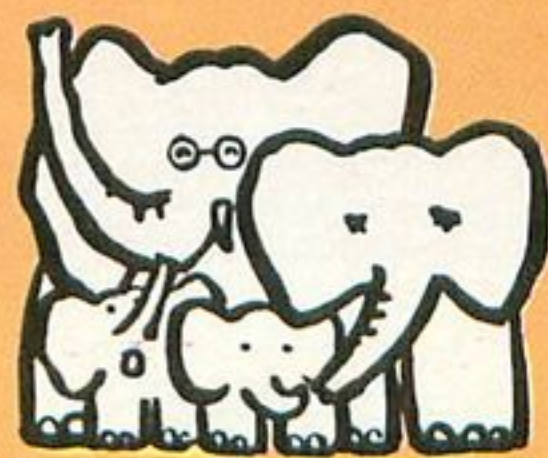
那須の植物
生物学御研究所編
本書は　植物研究にも御造詣の深い
天皇陛下御自身か
那須地方をくまなくお歩きになられ
みずから　採集に　観察にあたられた
植物誌である
■別冊〈追補〉付
三省堂・750円

相模湾産蟹類
生物学御研究所編
The CRABS of SAGAMI BAY
丸善株式会社

相模湾産蟹類
生物学御研究所編
The CRABS of SAGAMI BAY
丸善株式会社

分類学という生物学のなかでも最も地味な研究が
陛下のご専門　長年の採集結果が整理され　生物
学御研究所編として出版されている

皇后陛下の作品

くりや

迷鳥

春たけなわ

天皇・皇后両陛下金婚式記念メダル

天皇・皇后両陛下は昭和49年1月26日、金婚式をお迎えになります。
主要日刊新聞社で結成する全国新聞社事業協議会は記念メダルを発行して祝意を表するとともに、
この益金を医療・福祉事業に寄付します。各方面こぞってのご支援を切に望みます。

全国新聞社事業協議会

表　面

裏　面

●受益団体

特殊法人 日本赤十字社
財団法人 藤楓協会（救癩機関）
財団法人 結核予防会
財団法人 高松宮妃癌研究基金
恩賜財団 母子愛育会

純白金（30mm・30g）……150,000円
純金（30mm・26g）……75,000円
純銀（55mm・80g）……10,000円
銅（55mm）……3,000円
3点セット（金・銀・銅）……88,000円

国際金価格相場の変動により定価の変更もありえます。

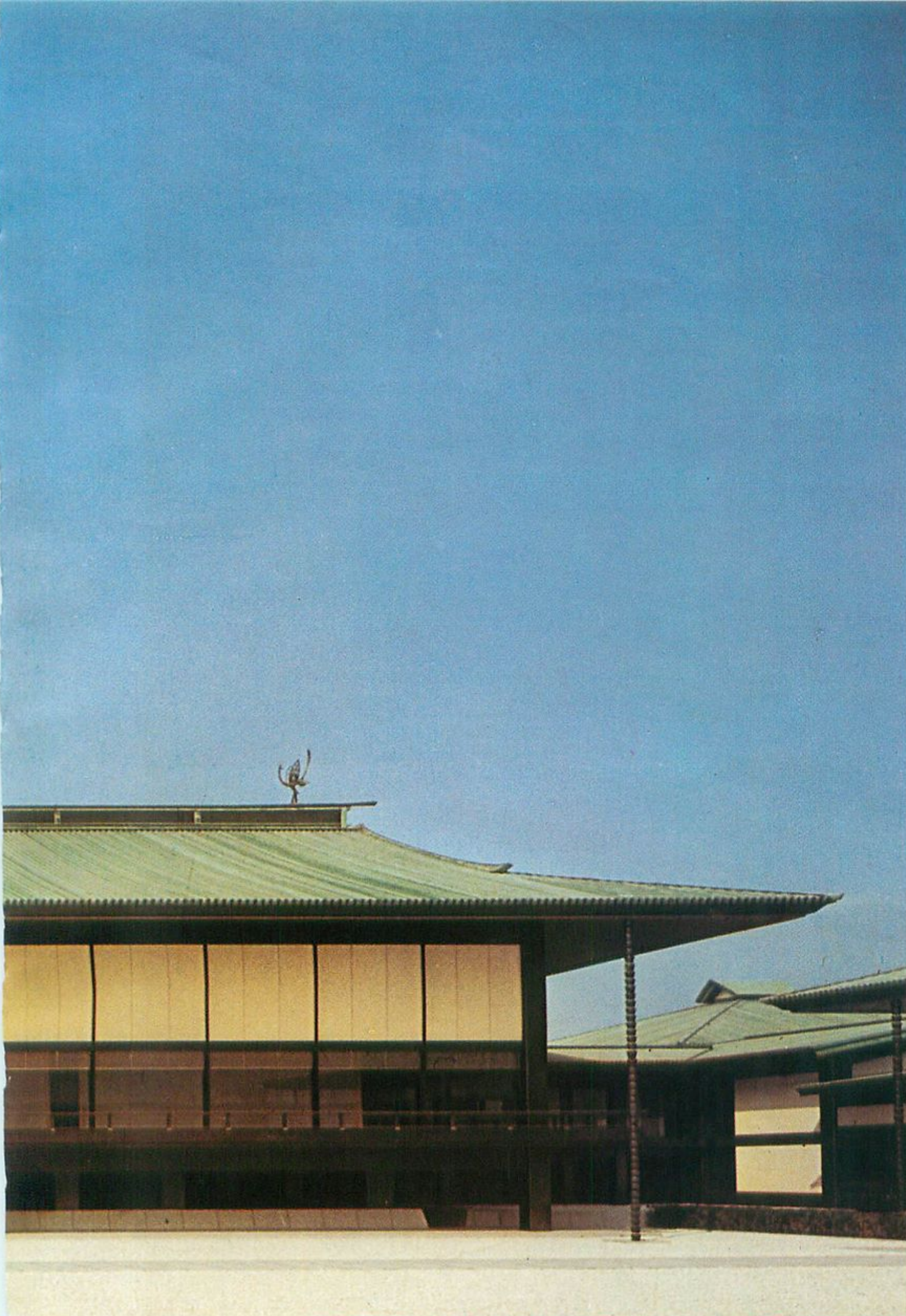
●大蔵省造幣局検定極印入

好評発売中――――

●発行／全国新聞社事業協議会
●企画／（株）共同通信社開発局
東京都港区赤坂1～9～20
（共同通信社内）
TEL 03(585)8261～2

新宮殿

〝威厳より親愛　荘重より平易〟を設計理念に　昭和四十三年に完成した皇居新宮殿
大気汚染の都心の一角にさわやかなたたずまいを見せ国民の心のオアシスとなっている

◀宮中儀式の行われる正殿正面　中庭から見たもので京都御所紫宸殿が忍ばれる風格

▼長和殿南溜　南車寄せから入った吹き抜けのホール　約 500平方メートル　階段を上がった絵は　東山魁夷画伯作の「朝明けの潮」

思い出のアルバムから

この五十年　天皇　皇后として　また父として母として　そして何よりも人間として喜びと悲しみ　苦しみと楽しみを共に分けてこられた両陛下　数々の思い出が　いま走馬灯のようにお二人の中に…　国民と共に終戦直後の食糧難に立ち向かわれた日々　若き血をたぎらせた早慶戦ご観戦、一般見物客と一緒にご覧になった大相撲　そして長女故東久邇成子さんを最期まで見守られた徹夜の看病…　思い出のアルバムは尽きない　これからも　どんどん増えることだろう

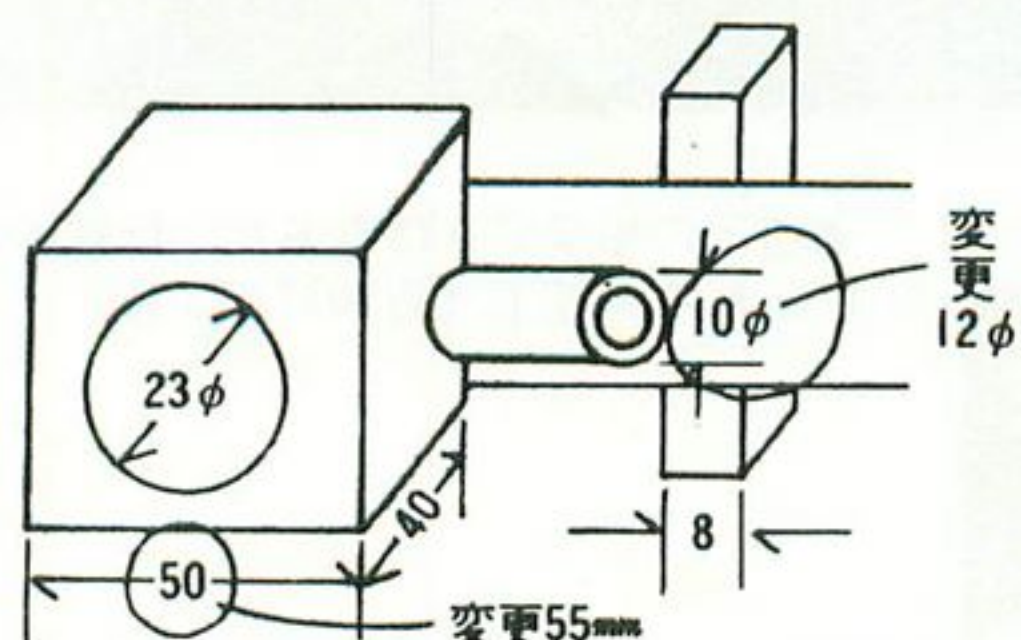
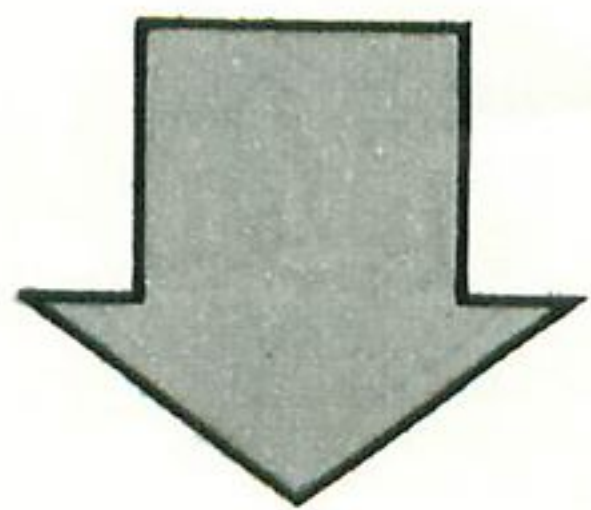
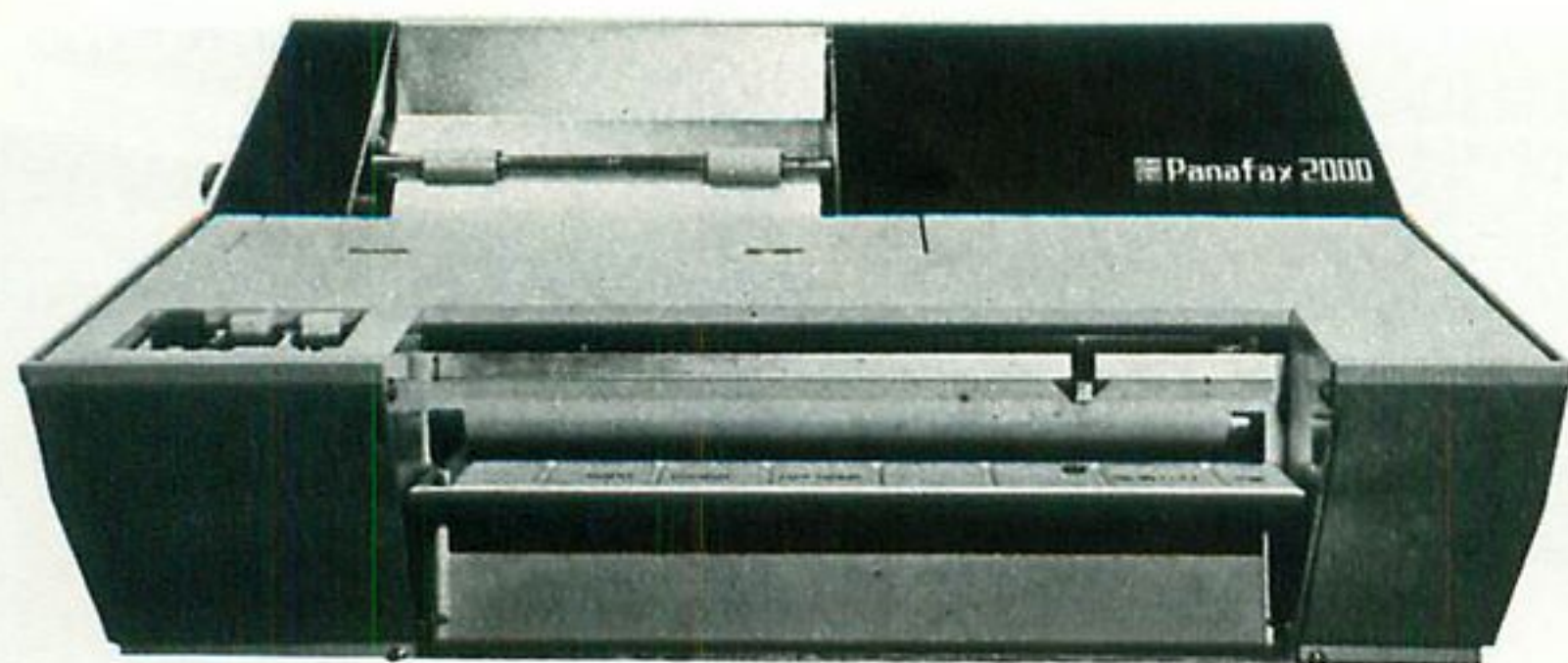
国賓出迎えの羽田でのほほえましいスナップ　後方の外交団代表も思わずネクタイに…（タイ国プミポン国王陛下来日の時・昭和38年5月）

▲貞明皇后と両陛下を中心に記念撮影のご一家　左から独身時代の孝宮（鷹司和子）　義宮（常陸宮）　東久邇盛厚　照宮（同成子）　皇太子　順宮（池田厚子）　清宮（島津貴子）の各宮さま（昭和22年）

◀陛下の笑顔　〝戦後〟　と呼ばれた時代もようやく過ぎ　悲願とされていた戦災地ご視察も終えて　ご表情は明るい（昭和32年12月）

満10ヵ月の〝ナルちゃん〟をあやされる〝おジジさま〟（昭和36年1月）

女のお子さまが続いて　親王さまご誕生を願われていた皇后さま　その願いがかなって　皇太子さまをおだきになり　お喜びが表情ににじみ出ている（昭和九年七月）

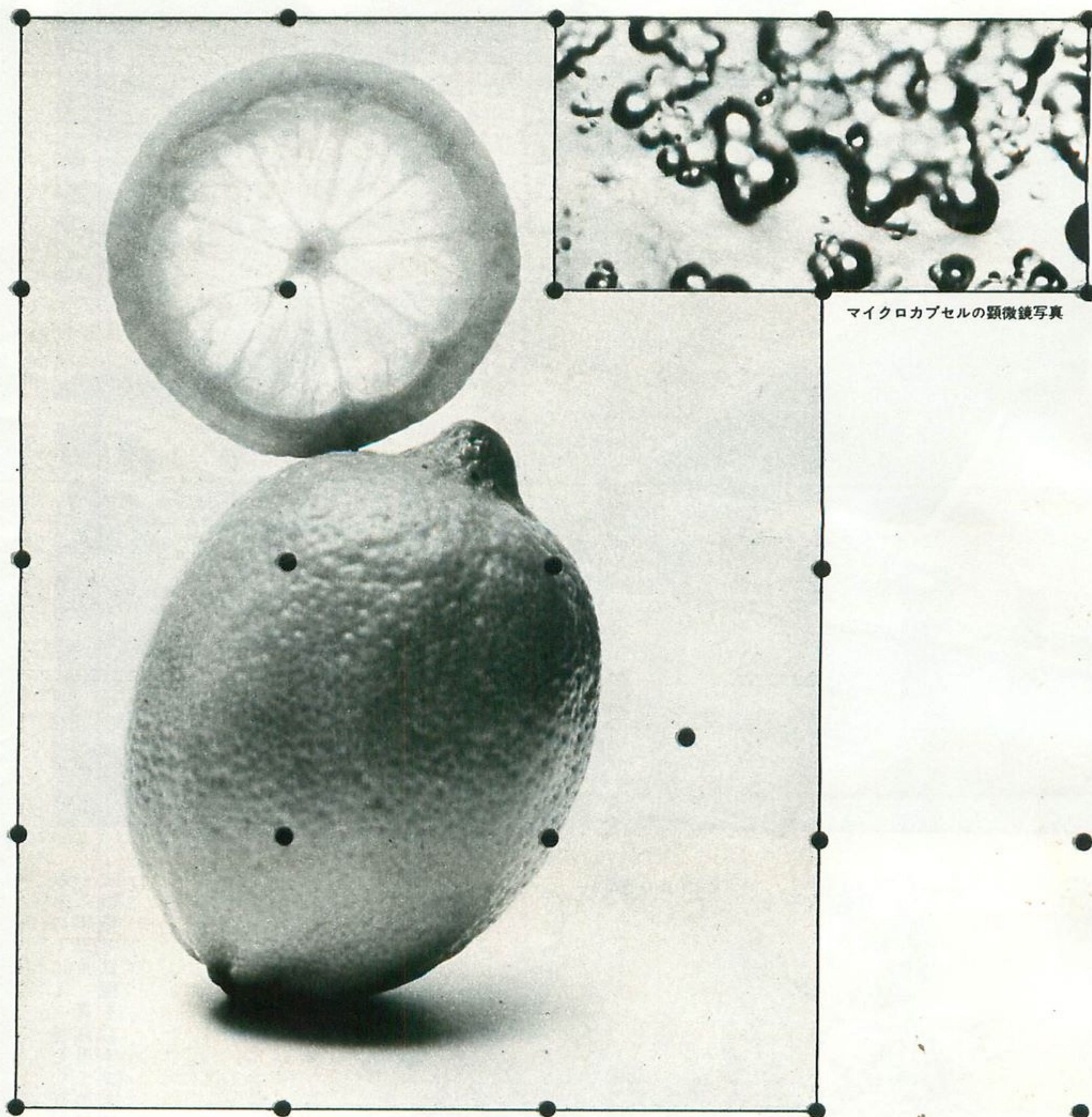
昭和36年７月　第一皇女で東久邇盛厚氏と結婚されていた成子さんが亡くなられた　ご両親は徹夜のご看病　翌朝　宮内庁病院を出られるお二人の髪の乱れが　深い悲しみを伝える

▲昭和21年11月3日〝象徴天皇〟を定めた新憲法にご署名（仮宮殿・公務室）

▼不敬罪事件で有名な〝食糧メーデー〟の後　陛下は全国に『とぼしきをわかち　苦しみを共に…』と放送された（昭和21年5月）

▶昭和25年秋の早慶戦をご覧になられたとき　この時代はまだ戦後の混乱は終わらず　この年朝鮮戦争がぼっ発した　野球は庶民の最大の娯楽でもあった（神宮球場）

◀陛下の相撲好きは有名だ　柏鵬のあいさつを受けられる両陛下（昭和37年5月）

▶ユーモリストの故吉田茂元首相の言葉に　陛下も就任早々の佐藤前首相も思わず破顔一笑（昭和39年11月・赤坂御苑・秋の園遊会）

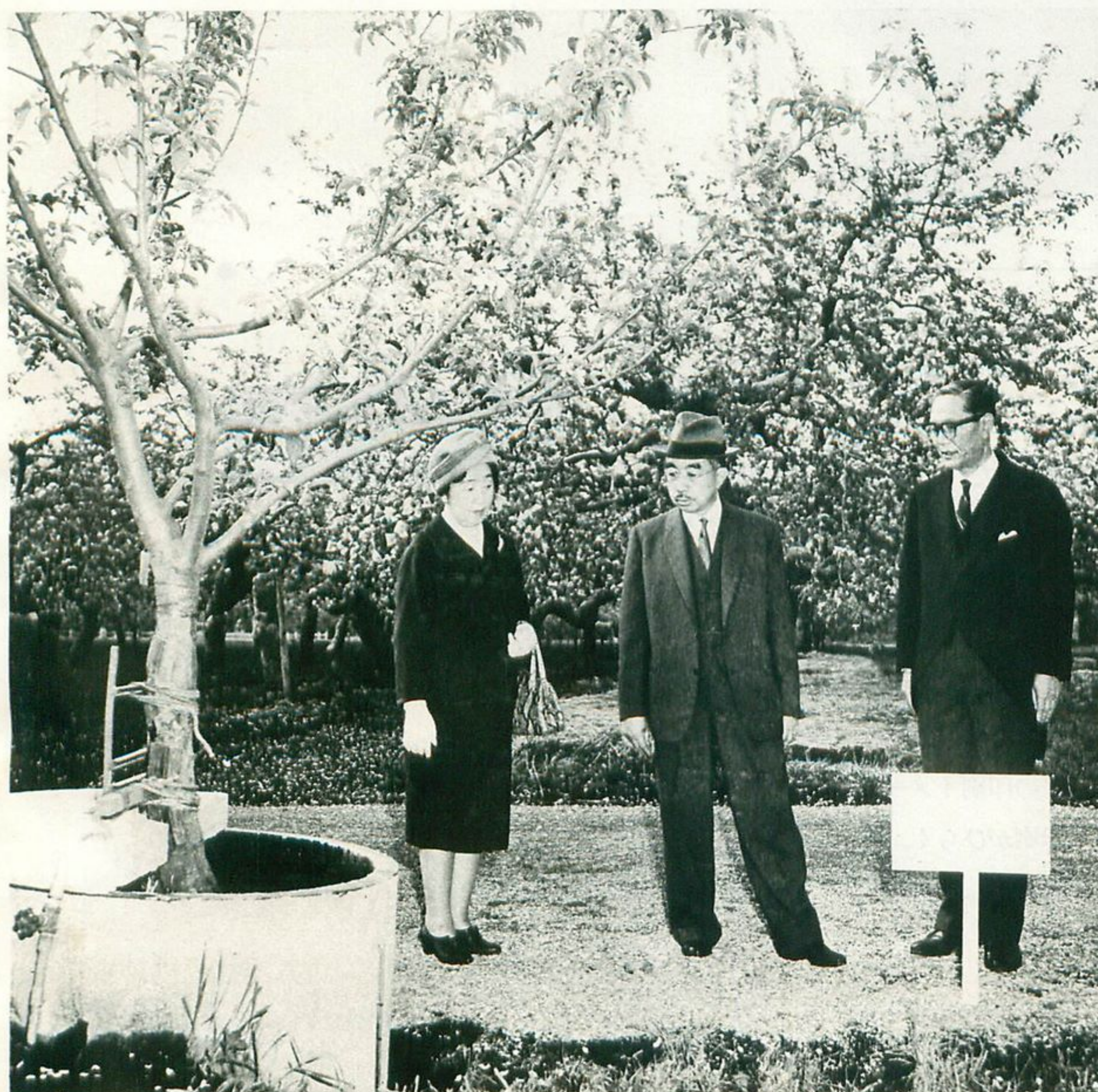
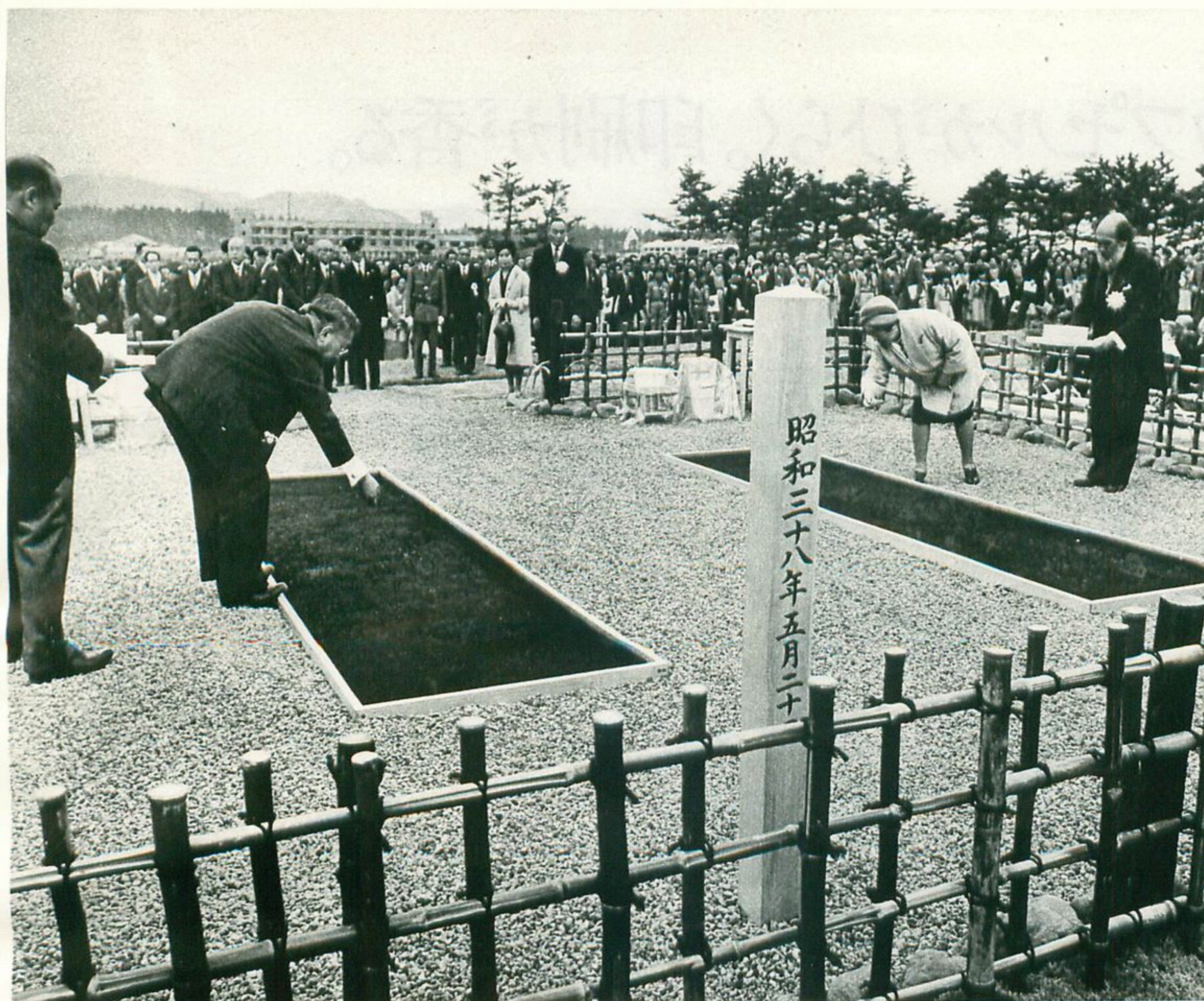
カプセルがひらく。印刷が香る。

マイクロカプセルの顕微鏡写真

たとえば，レモンの印刷面から，あのさわやかな香りが立ちのぼってきたら，どんなに素敵なことでしょう． この印刷の夢を，大日本印刷の技術が実現しました． 香りの大量印刷《セントプリント》． 直径20ミクロン（0.02mm）という微小なマイクロカプセルに香料を封入し，これを，あらかじめ印刷された絵柄に刷り重ねる方式． 香りを半永久的に印刷面に保つことができ，好みのときにツメなどでこするだけで，カプセルがひらき，なかの香りがほのかに立ちのぼるのです． 《セントプリント》は，視覚主体であった従来の印刷イメージの変革． 世界最大の総合印刷企業・大日本印刷がひらく，新しい経験の世界．

新しい世界をひらきます

dnp 大日本印刷

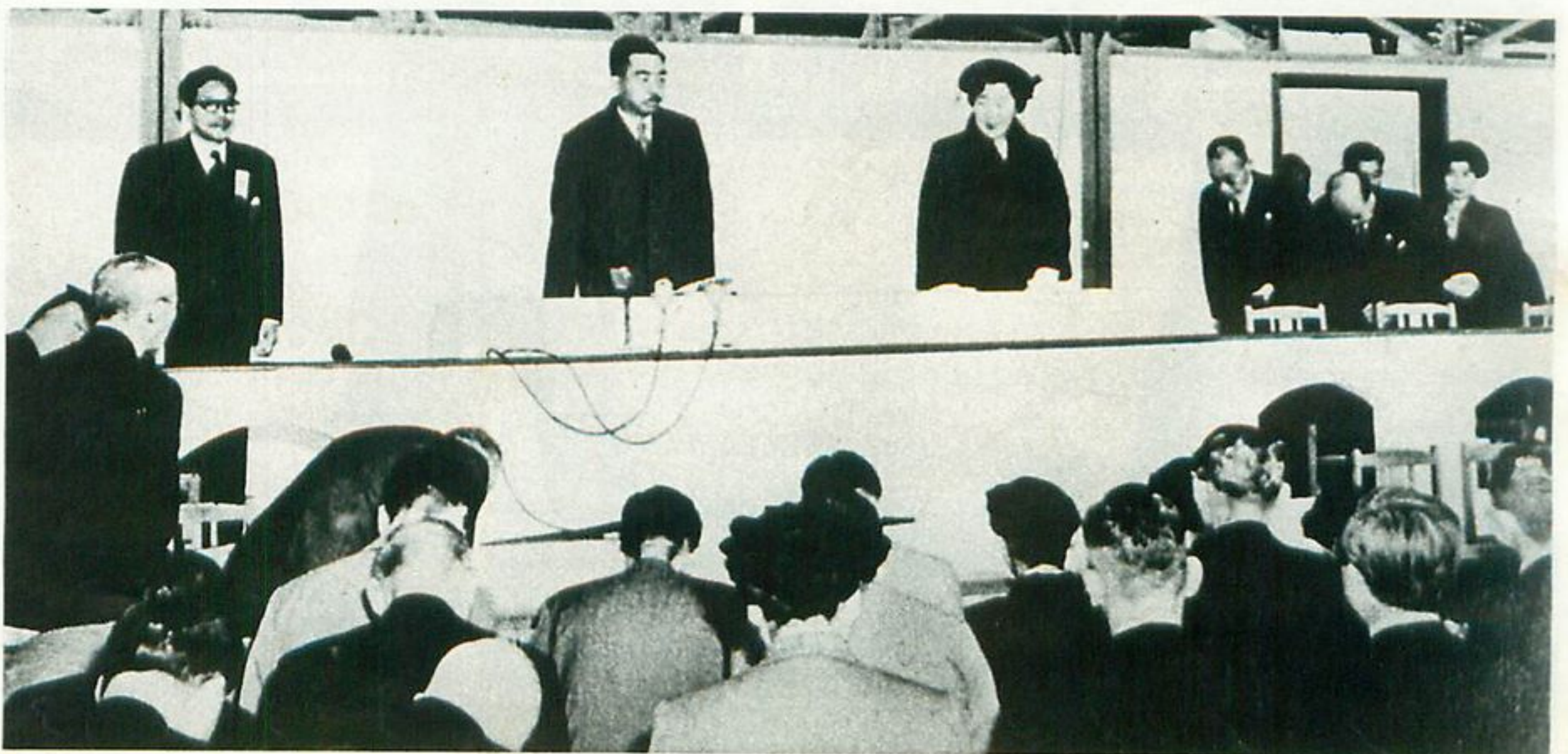
地方ご旅行

戦前　戦時中の陛下が地方を旅されたのは　ほとんどが陸軍特別大演習ご統監のためだった
しかし　終戦直後　戦災地復興状況を視察された〝背広の天皇〟は戦災者　引き揚げ者を励まし　国民の中にはいって「日本再建のためにがんばってください」と声をかけて回られた
いまは年二回　植樹祭と国民体育大会で出かけられる地方ご旅行を楽しみにされている

みちのくにも　美しい新緑の季節が訪れた昭和三十八年五月　青森県での植樹祭にご出席　県林業試験場では種をお手まきになった

青森県の特産はリンゴ　水栽培での育成をご覧になる両陛下（青森県リンゴ試験場で　昭和三十八年五月）

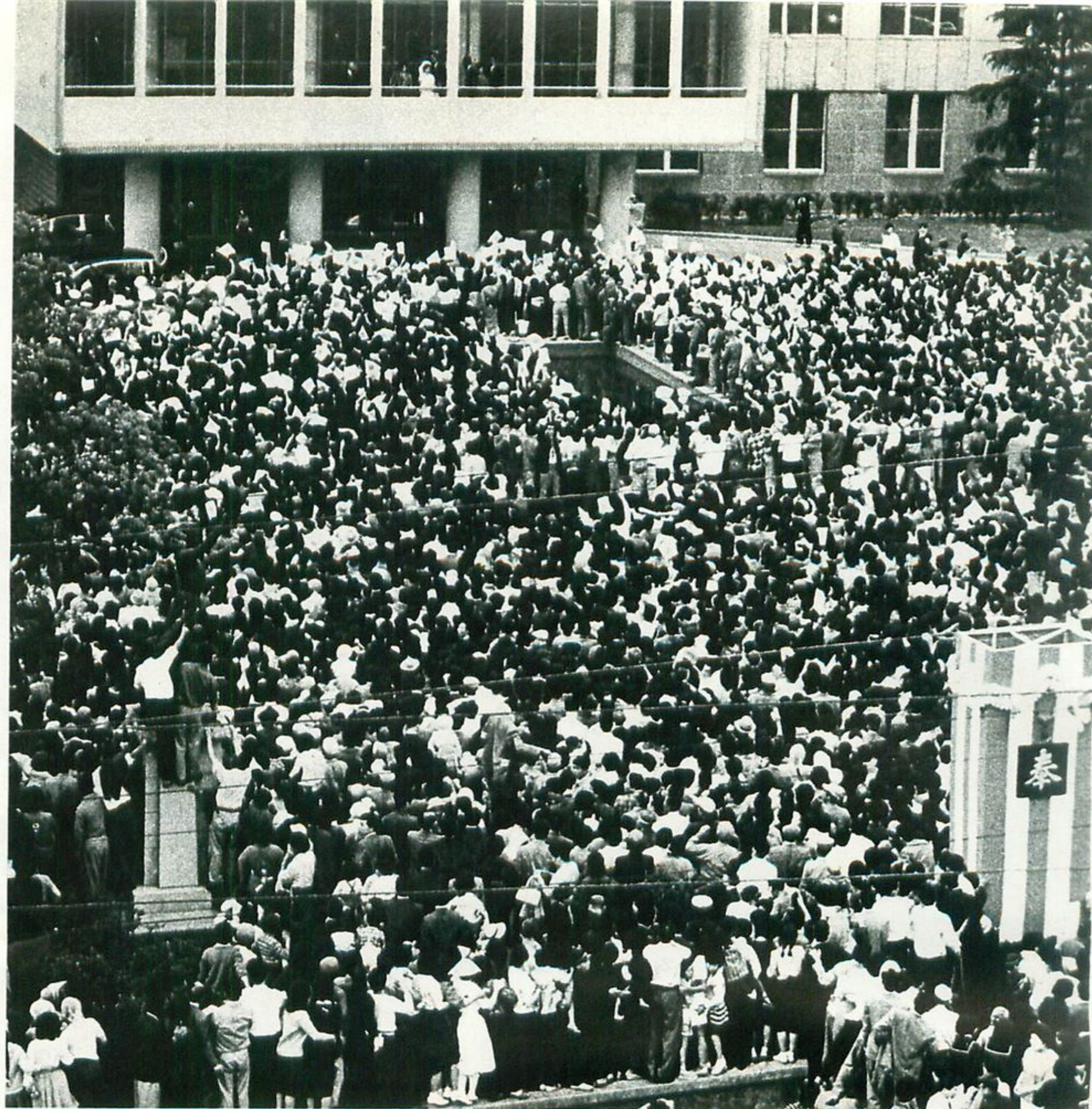
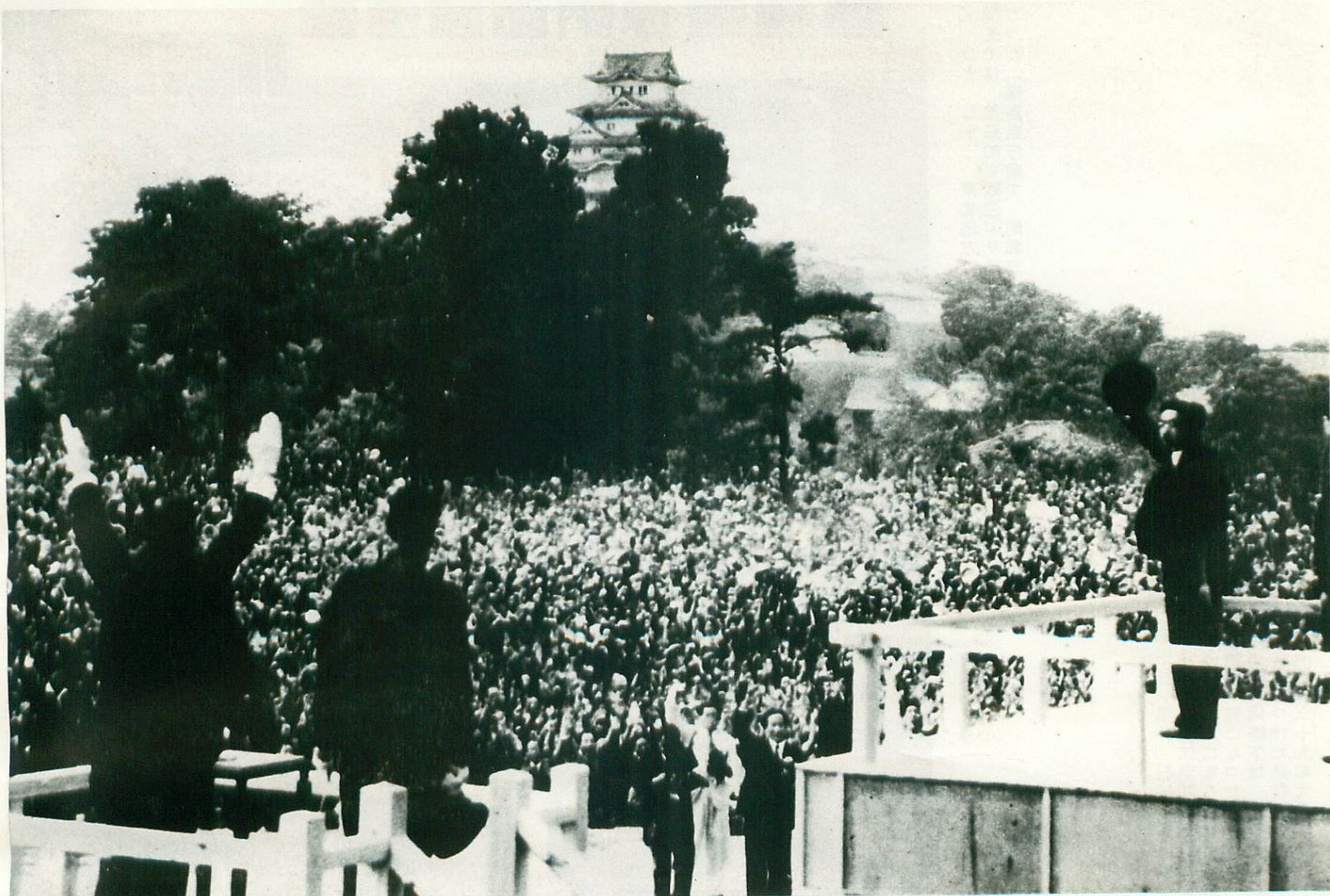
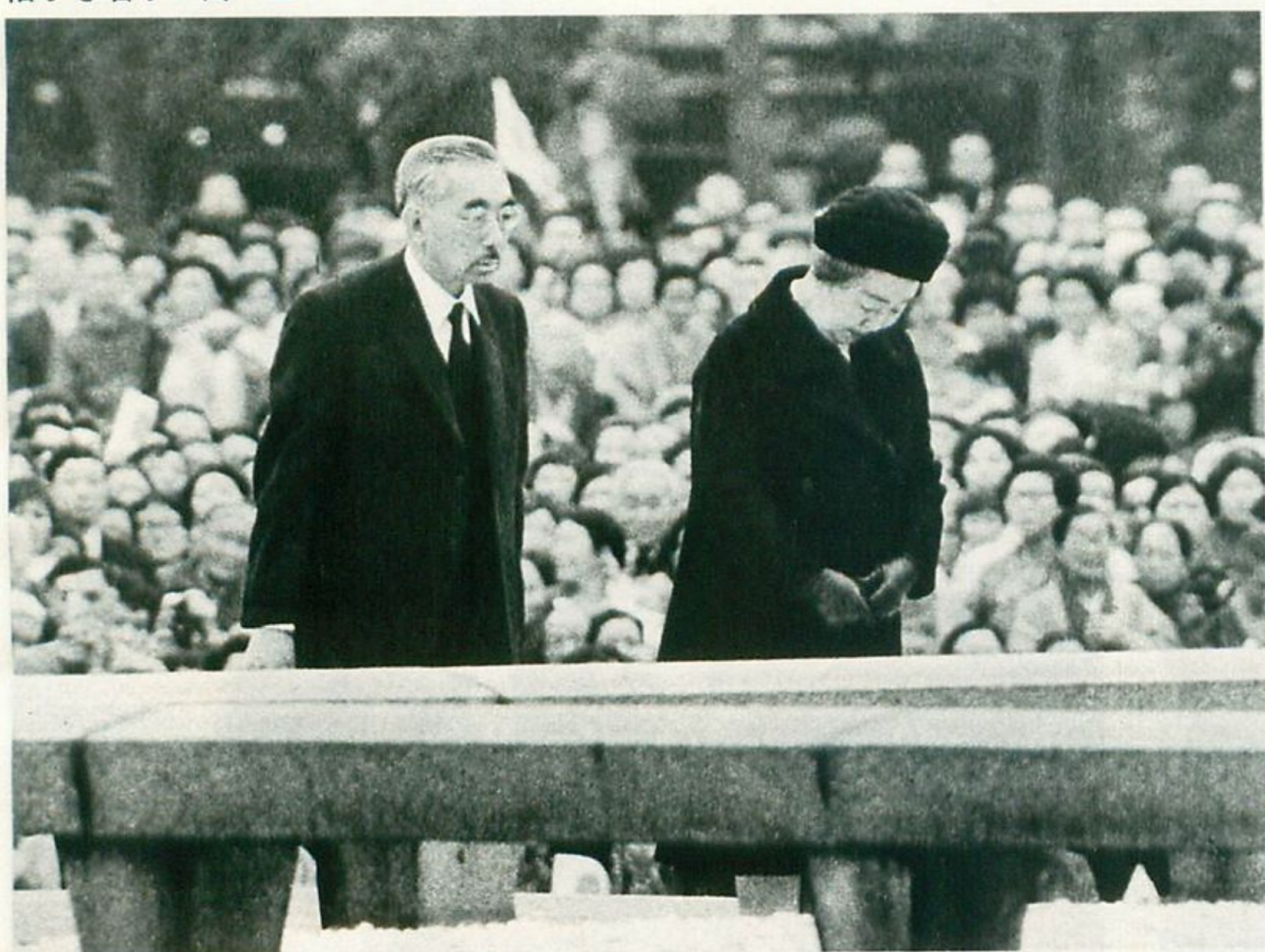
終戦直後の地方ご旅行では　陛下が積極的に声をかけられ　初めて見る〝背広の天皇〟に国民の側が戸惑った　急ごしらえの秋田市営住宅前で子供たちと交歓される陛下　ハンカチ片手に涙を流す老婆の姿も…（昭和22年8月）

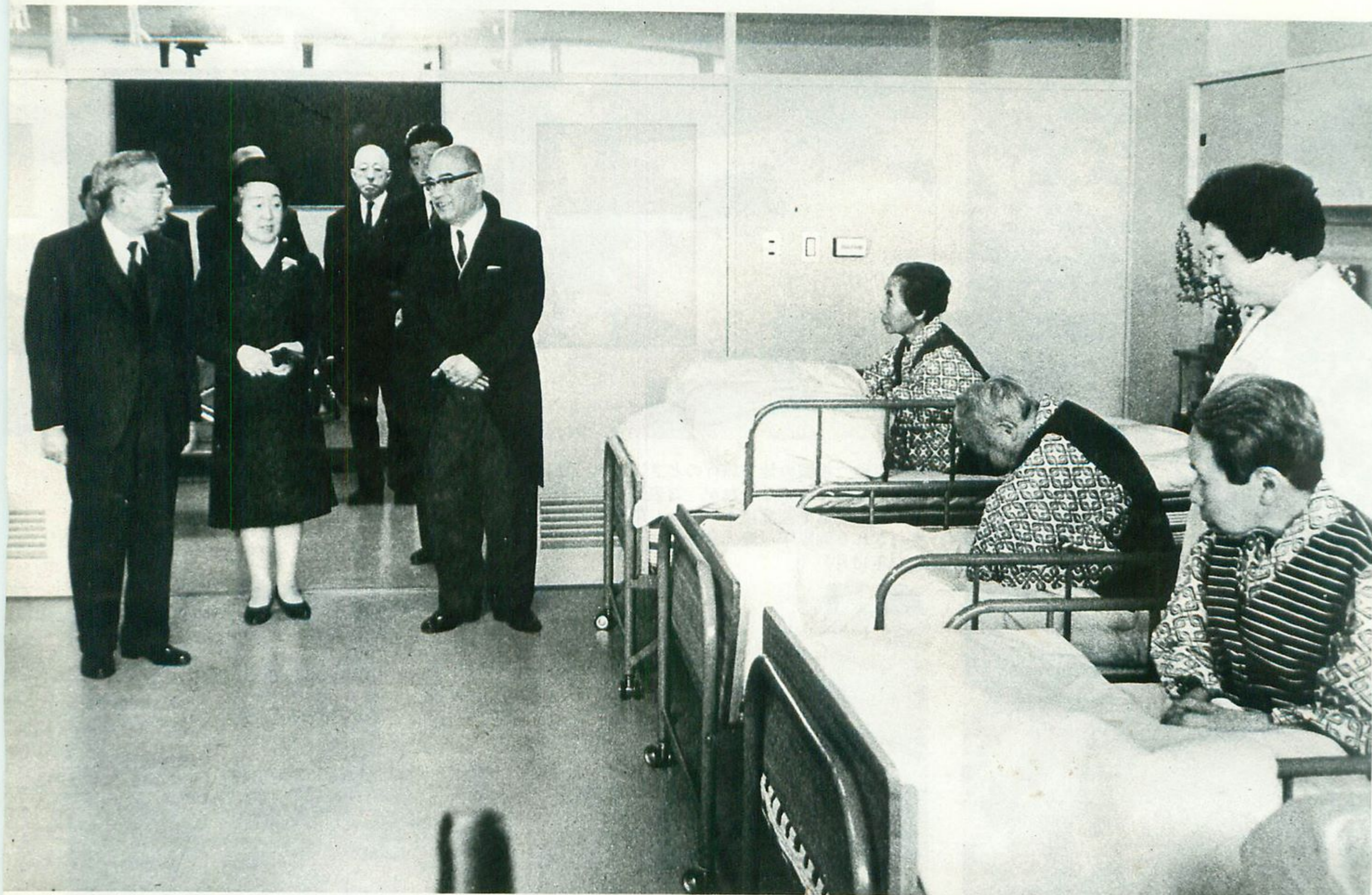
南部鋳造で伝統の鉄器づくりを興味深くご覧になる両陛下（昭和45年10月）

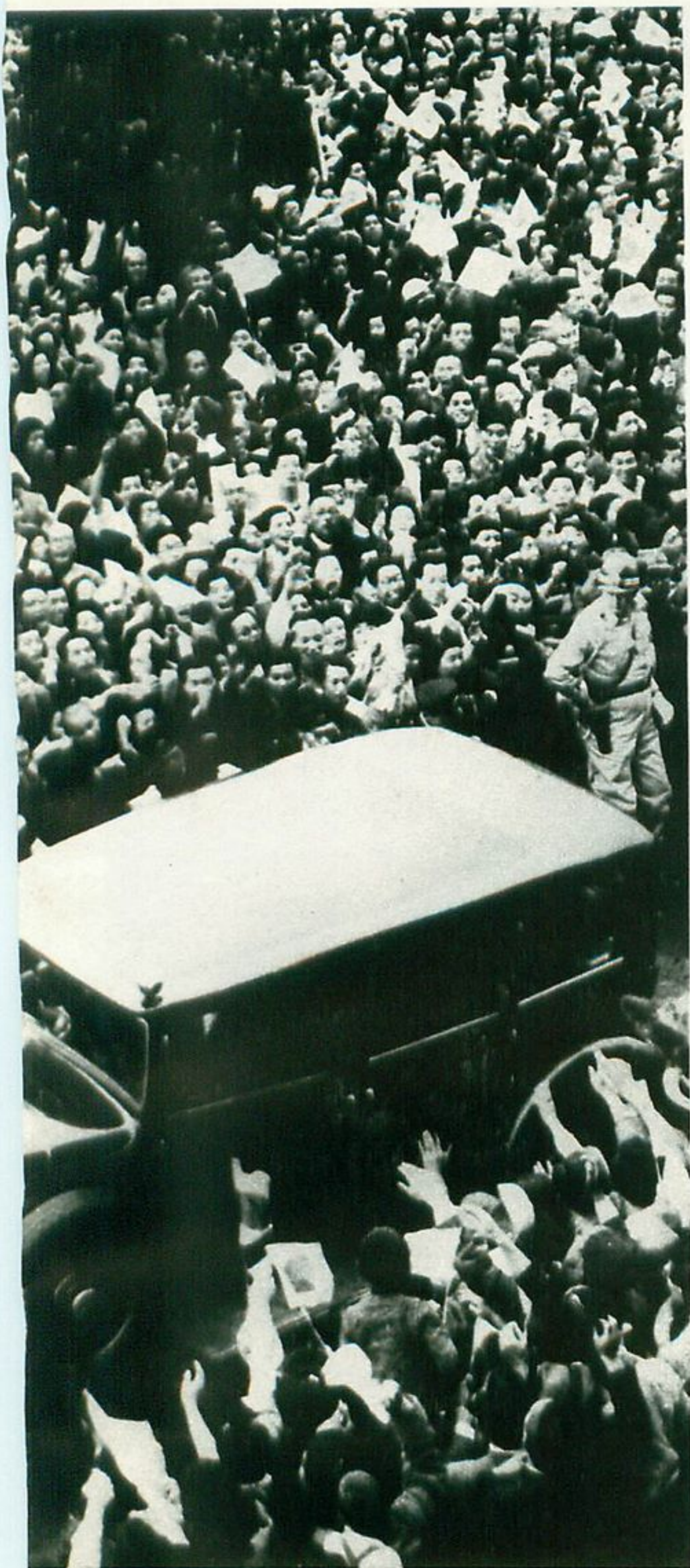
年々　施設が整備され　デラックス化する国民体育大会　だが初めのころは　両陛下をお迎えするロイヤルボックスも簡素をきわめた（東北国体開会式・福島市信夫丘陸上競技場　昭和27年10月）

人波に押され　陛下のソフトが右に左に揺れる　MPが仕方なくピストルを空に向けて発射　やっと人垣にすき間ができて　大阪府庁にたどりつかれた（昭和22年6月）

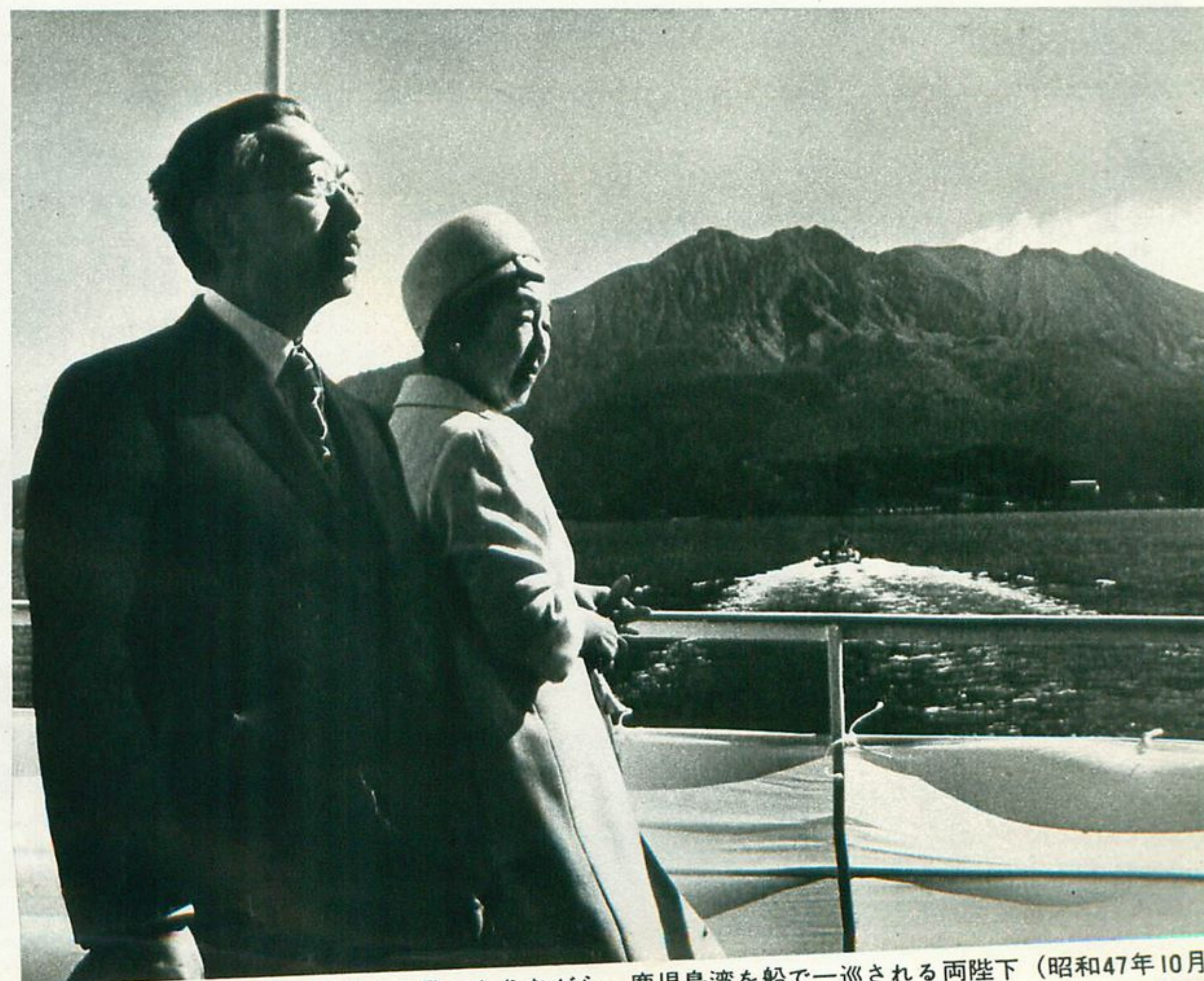
日本三景の一つ　天橋立の絶景を成相山・傘松公園展望台からご覧になる両陛下（昭和37年4月）

皇室にとって京都は最もゆかりの深い地　戦後のご旅行でも大宮御所を宿舎に関西方面に出かけられた（小雨にけむる平安神宮で　昭和42年4月）

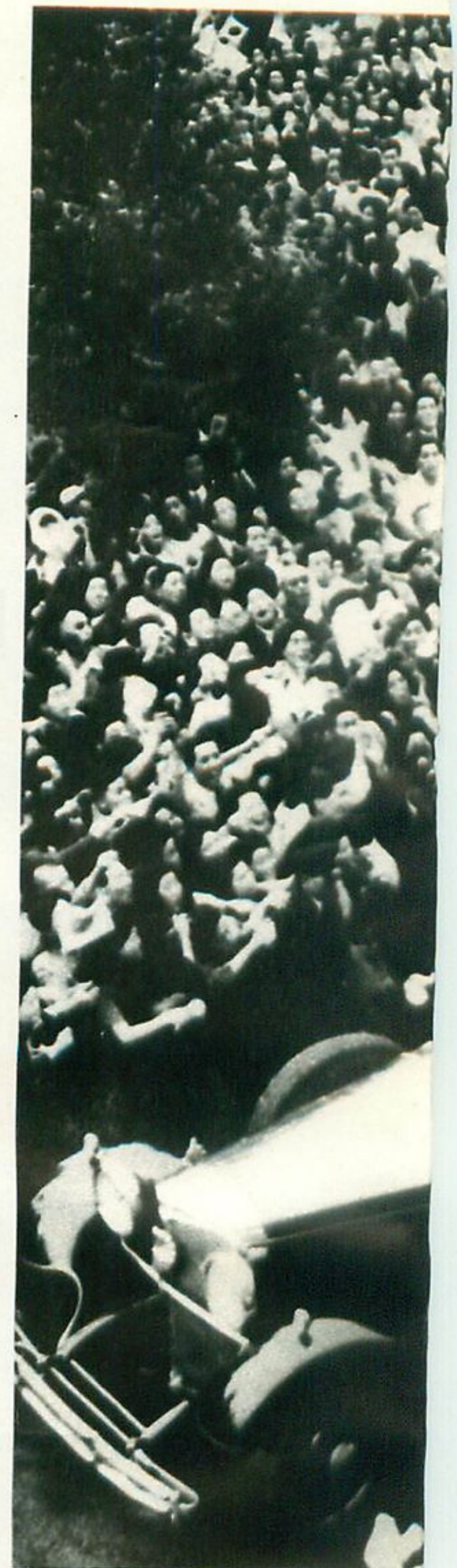
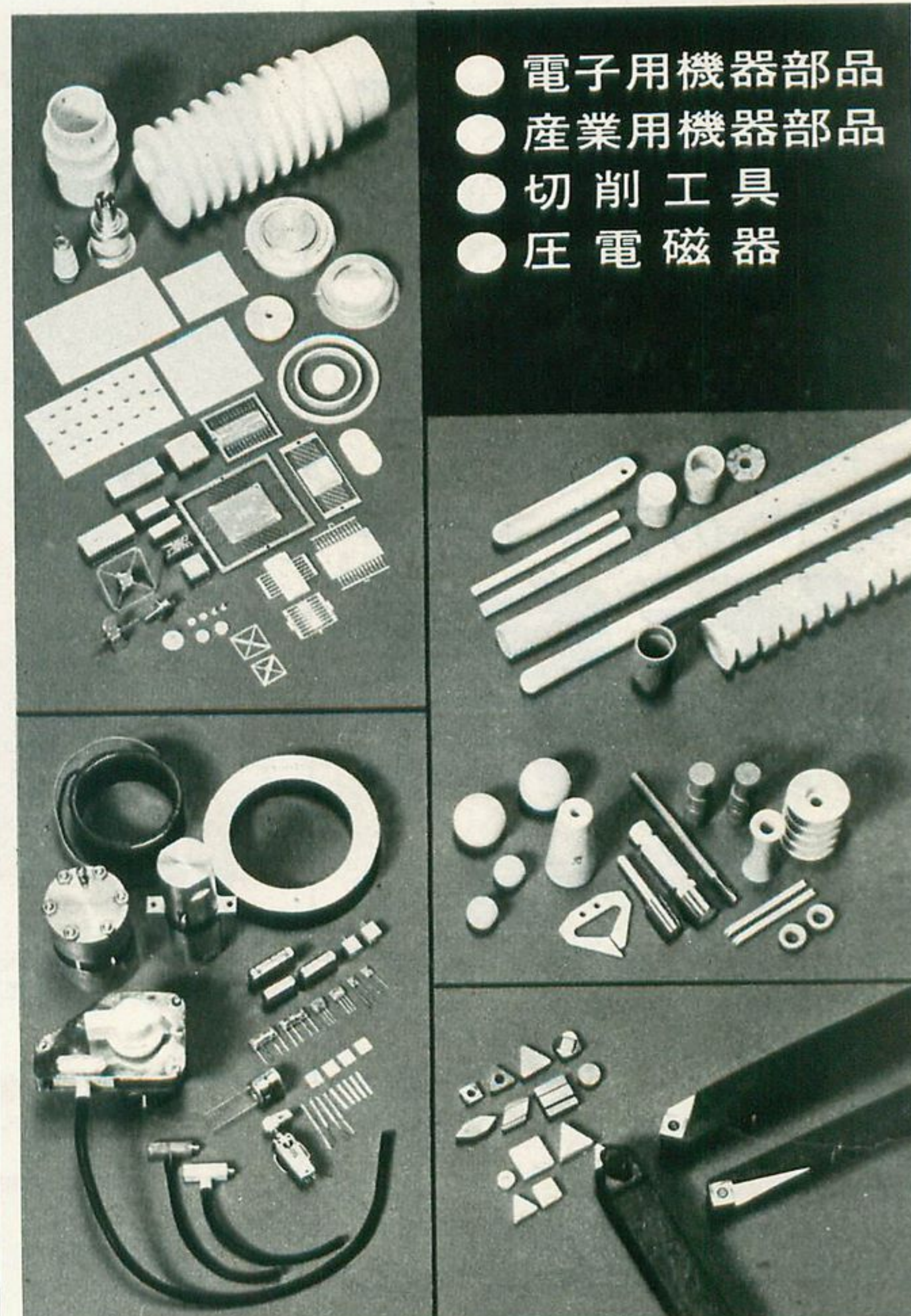
人 ひと ヒト… 東北地方でも 両陛下のご訪問先では 熱狂的な歓迎ぶりに お二人はお喜びだった（福島県庁前で 昭和三十五年五月）

右下：昭和二十二年十月 福井 石川 富山の三県を視察された陛下は 石川県江沼郡西谷村菅谷群部落の炭焼小屋へお立ち寄りになり 次々に出来上がる炭の梱包作業をご覧になった
左下：新潟国体にご出席の両陛下は 立ち寄られた新潟大学で 見事な花をつけた県特産のユキツバキをご覧になった（昭和三十九年六月）

帽子を右手に高く上げられる陛下独特のポーズ　姫路城を背景に　市民は熱狂的に歓迎した（22年6月）

何度か広島を訪問された両陛下だが　戦後26年たった昭和46年4月　初めて広島市平和公園の原爆慰霊碑にご参拝　原爆犠牲者の霊に黙とうをささげられた

出船　入り船　世界を結ぶ大型外航船でにぎわう神戸港の活気に両陛下もご満悦（神戸・摩耶ふ頭で　昭和42年4月）

「早く元気になってください」— 広島・原爆養護ホームで 病室を回り 患者を励まされる両陛下（昭和四十六年四月）

原爆被災から二年しかたっていないので ご訪問を中止されるようにとの声もあったが 陛下は予定を変更されず 広島市内の爆心地近くで 市民の歓迎を受け 被災者を励まされた（昭和二十二年十二月）

▲戦災地ご視察の地方旅行のときに比べ　陛下の髪はすっかり白くなったが　ご表情はきわめて明るい　鹿児島で薩摩焼きのすかし彫りの名人芸に感心される両陛下（鹿児島県文化センターで　昭和47年10月）

▼四国4県開催の第8回国体開会式にご出席の途中　両陛下は　波静かな瀬戸内海を宇高連絡船で渡り　高松に着かれた（昭和28年10月）

噴煙をなびかせる桜島をご覧になりながら　鹿児島湾を船で一巡される両陛下（昭和47年10月）

▲天皇旗をなびかせたロールスロイスが初めて天草五橋を渡り　両陛下は島民の歓迎と美しい景観に大喜びだった（天草四号橋で　昭和41年10月）

▶最徐行のお車が　たびたび止まって人垣を縫う　迎えられる天皇さまも　迎える市民も表情は明るい　終戦までは考えられない光景（熊本市役所前　昭和24年5月）

愛媛県興居島で島民総出の見送りに　伝馬船から帽子を高く差し上げて　おこたえになる天皇陛下（昭和25年3月）

天皇　皇后両陛下
金婚式記念写真集

天皇、皇后両陛下は昭和四十九年一月二十六日、ご結婚五十周年の記念日をお迎えになる。一般でいう金婚式である。まことにおめでたい限りで、心からお喜び申し上げたい。

両陛下が婚儀を挙げられたのは、あの関東大震災の翌年に当たる大正十三年（一九二四年）一月。それからの五十年。両陛下は国民と共に激動の半世紀を歩んでこられた。そして迎えられる金婚式は、お二人にとって感慨ひとしおのものがおありだろう。

ここに、思い出の歳月を写真特集に収録した。両陛下のアルバムであるばかりでなく、戦争と平和に色分けされた日本の記録でもあろう。

天皇皇后両陛下五十年の歩み

苦楽わけ、互にいたわられて——

動乱、戦争そして平和でつづる半世紀

たのしげに雉子のあそぶわが庭に
　朝霜ふりて春なほ寒し
（昭和三十一年）

武蔵野の草のさまざまわが庭の
　土やはらげておほし立てきつ
（同三十七年）

武蔵野の面影を残すといわれる皇居、吹上御苑。お堀と松の緑に囲まれ、外界と隔絶した広大な御苑は、いま、静かな冬のたたずまいをみせ、野鳥が遊び、野草が芽吹く日も近い。天皇、皇后両陛下のお住まい、吹上御所はここにあり、二首の和歌は、天皇陛下が御苑の自然を詠まれたものである。

正月を迎えると両陛下の日常はなかなかお忙しい。新年の宮中行事が元日未明の四方拝に始まって歳旦祭、新年祝賀の儀、一般参賀、元始祭から講書始、歌会始と続く。

中旬、やっと静かな吹上御所で二人だけの生活に戻られる。そしてお迎えになるのが一月二十六日の結婚記念日。その記念日も、ことしは数えて五十回目。ご結婚当時、二十二歳だった陛下は、いま七十二歳、十二単の晴れ姿で皇居にはいられた皇后さまは七十歳である。過ぎ去った半世紀の日々を感慨深く思い起こされることだろう。

◉ご新婚時代

大正十三年一月二十六日朝、実家の渋谷・久邇宮邸をあとにされた良子女王は、菊を白く浮き出させたエビ色の唐衣、ツルの模様を散らした表衣に桐と鳳凰の絵模様のある白地の裳のご盛装。宮中・賢所前の朝集所には秩父宮はじめ皇族方、清浦奎吾首相ら約千人が列席、垂纓の冠に黄丹袍の装束で笏を手にされた皇太子裕仁親王がまず賢所へ、続いて良子女王も回廊を渡って進まれた。賢所内陣で「良子女王と結婚する」旨の告文を皇太子が奏され、外陣でご神盃の儀があり、賢所大前の儀が滞りなく行われた。このあと皇霊殿、神殿にご参拝、皇太子は陸軍中佐の制服、良子女王は水色のローブ・デコルテに着替え、車で東宮仮御所（赤坂離宮）に入られた。そして、ようやくお二人の新婚生活がスタートした。

ようやく、というのは朝から続いたご婚礼の儀式が長かっただけでなく、良子女王が皇太子妃に内定後「宮中某重大事件」が起き、また、関東大震災でご婚儀が延期されたりしたからである。

久邇宮邦彦王の第一女、良子女王が東宮妃に内定したのは大正七年一月で、当時、陛下は十六歳、皇后さまが十四歳の時、ご結婚の六年前のことだった。そして翌八年六月、宮内省からご婚約成立が正式に発表された。ところが、大正九年にはいって「宮中某重大事件」が政界最上層部で取りざたされだした。良子さまの母である俔子妃の里方、島津家に色盲の遺伝因子があると、医学雑誌に発表されたのがきっかけで、これを重大視した元老山県有朋が学者の報告書を添え、婚約辞退を要請する手紙を久邇宮家に送って事態は深刻化した。

結局、大正十年二月、宮内省が「良子女王東宮妃ご内定のことに関し世上種々のうわさあるやに聞くも、右ご決定は何ら変更あらせられず」と異例の発表をして、この事件は落着した。一般国民には、この発表文が何を意味するのか見当もつかなかったが、長州閥の元老山県が島津家（薩摩）から嫁を迎えている久邇宮家への挑戦で〝薩長の争い〟とみる者もいた。

この騒ぎのあと大正十一年九月、一般の結納に当たる納采の儀があり、ご結婚は翌十二年十一月二十七日と決まったが、その直前の九月一日に関東大震災が起きた。皇太子は、首都の大惨事に「予定通り結婚式を挙げるにしのびない」と延期を申し出られて、二カ月後の大正十三年一月二十六日に行われたのだった。

◉仲むつまじく

こうした結婚前のご苦悩があったためか、それまでたびたびデートを重ねるといったお二人ではなかったのに、新婚早々からの仲むつまじさは側近で評判になった。ご婚儀のあった翌二十七日、おそろいで沼津御用邸で静養中の大正天皇をご訪問になった際、汽車が東京駅を出てから沼津に着くまでの車中、終始二人きりで歓談され「よくも話題が尽きないものだ」と侍従らを驚かせたという。東宮仮御所だった赤坂離宮の庭を、手をつないで散歩されたのも新婚時代、よく見かけた光景だったそうだ。

同年夏、福島県翁島に出かけられたのは、いわばお二人にとっての〝新婚旅行〟。陛下が手綱を取り、横に皇后さまを乗せて馬車を走らせたり、東屋から静かに広がる湖水と遠景の山波をいつまでもながめられていた。猪苗代湖―。そこは〝若き日〟の思い出の地だったのだろう。昭和三十六年、吹上御所が出来上がる時「どんな絵をおかけしましょうか」と側近がうかがうと「何か風景画を、そう猪苗代湖のあたりがいいね」と陛下がおっしゃったそうだ。御所の一階から二階へ通じる階段の踊り場には、いまも東山魁夷画伯の描いた〝猪苗代湖〟が掲げられている。

◉大きい外遊の影響

新婚生活に入られた陛下は、すでに摂政宮として国政の重責を担われていた。大正十年十一月、大正天皇の病状が思わしくなく、国事執行は不可能と診断され、皇室会議で皇太子の摂政宮就任が決まった。この年、大正十年は、陛下にとって大きな出来ごとが相次いだ。二月、良子女王とのご婚約に変更ない旨の決定があり、同月末、東宮御学問所での七年間にわたる学業を終えられた。そして三月、横浜港から軍艦香取で半年に及ぶヨーロッパご旅行に出発された。感受性の最も強い十九歳から二十歳にかけての青春期。ご外遊で数多くのものを吸収され、いまも「これまでで最も楽しい思い出だ」と述べられている。

物の考え方ばかりでなく、生活様式も、この外遊でお受けになった影響は大きい。朝食にトースト、ハムエッグといったメニューを続けられ、寝間着をパジャマで通しておられるのもすべてそれからのことである。

ご結婚の翌年、大正十四年十二月六日、お二人の間にお子さまが生まれた。照宮成子内親王（故東久邇成子さん）。陛下は二十四歳で父親に、皇后さまは二十二歳で母親になられたわけである。

当時、社会情勢は混乱、普通選挙法が国会で成立する一方で、治安維持法が公布され、労働農民党が結成当日解散させられるなど、左翼、労働運動の弾圧がきびしさを加えた。

◉〝若き天皇〟の苦悩

大正天皇の容体は大正十五年秋から一段と悪化、十二月二十五日早朝、療養先の葉山御用邸で崩御。四十七歳。皇室典範の規定により皇太子裕仁親王が践祚、二十五歳で第百二十四代の皇位を継承されて、年号は「大正」から「昭和」へ―皇太子妃良子さまは皇后となられた。そして、わずか六日間だった元年から〝激動の昭和〟が始まった。

昭和二年三月、金融恐慌による銀行休業続出、同年五月、第一次山東（中国）出兵、昭和三年三月、共産党員大量検挙、同年六月、張作霖爆死事件、治安維持法強化、同年七月、特高警察、全国に設置…。思想弾圧と軍部の独走が相次ぎ、昭和三年十一月十日、京都御所で即位の大礼を挙げられるまでに国内、外で重大事件が続発した。

こうした事件のなかで、特に陛下を激怒させたのが張作霖爆死事件だった。「満州某重大事件」と、当時一般に呼ばれていたもので、中国の東北省（旧満州）に実権を持つ張作霖が、関東軍参謀河本大作大佐らによって、奉天駅直前で列車を爆破され、暗殺されたが、田中義一首相は陛下に「犯人は日本軍人らしい」とだけ述べ、真相を説明しなかった。陛下からたびたび調査結果を報告するようにとの催促があったにもかかわらず、事件から一年近くたって「犯人は日本軍人ではなかったが、関東軍としても責任を回避できないので関係者を行政処分にしたいと存じます」といった旨を報告した。この報告に「最初の話と違うではないか」と陛下は詰問され「田中のいうことなど再び聞くことはいやだ」と側近に漏らされた。この言葉を伝え聞いた田中首相は辞意を固め、内閣は総辞職した。

国際信義の低下を心配されての詰問が、内閣総辞職

という事態を招いたことで、陛下は「君主が首相を弾劾してやめさせるというのは、立憲君主としての道を逸脱したものだった」と自己批判されたという。この事件がきっかけで、天皇の発言は極度に慎重になった。二十八歳の〝若き天皇〟のご苦悩は、結果的には軍部の専横、暴走を一段と強めさせた。

◉即位の大礼

昭和三年十一月十日、皇室典範の定めによる即位の大礼が京都御所で行われ、ケンラン、豪華な宮廷絵巻が繰り広げられた。皇位は大正天皇崩御と同時に継がれたが、即位の継承をご先祖と国民に知らせるのが、この儀式である。

十一月六日朝、陛下は大元帥の正装で六頭立て馬車に乗って皇居をご出門、濃紺のローブ・モンタントの皇后さまは四頭立ての馬車。近衛兵が整列する中を東京駅に向かわれ、神鏡をまつる賢所とともに宮廷列車で京都へ—そのころは、東海道線も京都まで長時間かかる時代で、名古屋でご一泊、七日午後二時、京都にお着きになった。即位を知らせる紫宸殿の儀は、十日午後二時から始まった。束帯、黄櫨染御袍の陛下が紫宸殿の高御座につかれて、即位の礼を行う旨の勅語を読み上げられた。高御座の右手やや後方に五衣、唐衣姿の皇后さま。庭には錦地に縫い取りのある色とりどりの旗が秋空にはためき、殿上に大礼使長官の近衛文麿公爵ら束帯に身を固めた文武百官、それに大礼服、袿袴姿の皇族、高官、外国使臣と夫人が並び、儀式はまさに圧巻だったという。

お住まいを赤坂離宮から移られた皇居・吹上御苑に昭和三年、生物学御研究所が完成した。木造平屋建ての簡素な研究所で、いまも陛下は、ここで生物学の研究を続けておられるが、生物に興味を持たれたのは初等科、つまり小学校のころからである。

学習院初等科を卒業、東宮御学問所で中、高等教育をお受けになっている時代、生物学とともに歴史に対する関心も強かった。しかし、元老西園寺らが「日本の歴史を科学的な探究心で学ばれると矛盾をお感じになるから…」と歴史の研究を断念していただくよう進言したという。

生物学でも選ばれたのは分類学。「地味で時間のかかる分類学は、わたしのような立場の者に適している」というのが理由で、相模湾産の後鰓類と栃木県那須の植物分類をライフワークにされている。

戦後の昭和二十四年九月「相模湾産後鰓類図譜」を生物学御研究編として処女出版されてから、著書を次次に出され、海外の専門学者から高い評価を受けられている。しかし、自分の研究成果については「一生を終わってみないとわからない。その時点で、他の研究者が評価してくれると思う」と、いたって謙虚である。

◉皇后さまへの愛情

照宮さまに続いて、昭和二年九月十日、第二皇女久宮祐子内親王（翌三年三月八日没）同四年九月、第三皇女孝宮和子内親王（鷹司和子さん）同六年三月十三日、第四皇女順宮厚子内親王（池田厚子さん）と、女のお子さんがお生まれになった。元老西園寺や元宮内大臣田中光顕らは、内親王ばかりのご誕生は皇統上大問題であると心配、親王誕生をはかるため側室をおかれるべきであると進言しようとした。大正天皇のご生母は柳原二位局、明治天皇は中山一位局で、いずれも皇后さまではなかった。皇室では側室をおくことが異例でもなんでもなかった。

しかし、陛下は、この話を聞かれると「その必要はない。皇位は秩父宮が継げばよろしいではないか」とおっしゃったという。皇后さまに対する思いやりで、一夫一婦制を貫かれた。それだけに昭和八年十二月二十三日、皇太子ご誕生を心からお喜びになった。

◉泥沼の戦争へ

張作霖爆殺事件のあと、陛下が特に陸軍首脳に対し「今後、陸軍軍人がこのような誤りをしないように」と念を押されたが、昭和六年九月、満州事変突発、同七年一月、上海事変、同年五月に五・一五事件で犬養毅首相暗殺、同八年三月、満州をめぐる問題で、日本が国際連盟から脱退、そして同十一年二月、雪の降る〝帝都〟で起きた二・二六事件と、軍部の台頭、軍国主義への急速な傾斜、政党内閣の衰退、そして国際社会での日本の孤立化が目立ち、陛下のご苦悩は一層深まっていった。

二・二六事件の第一報を聞かれた陛下は「とうとうやったか」と、懸念していたことが現実になって、マユを曇らせられ、天皇親政による国家改造を目ざす反乱部隊に鎮圧命令を出された。この事件前、美濃部達

二・二六事件で緊迫する東京・赤坂付近

吉の天皇機関説排撃論が貴族院内外で高まり、それをきっかけに天皇神格化の動きが軍部、官僚、右翼で顕著になった。文部省が出した「国体の本義」には「わが国は現御神にまします天皇の統治したまう神国である」とあり、陸軍も「わが国体は万世一系の天皇、国を統治したまい…」との「国体明徴声明」を発表した。そして「皇軍」が「聖戦」と称して、同十二年七月、中国大陸を舞台に泥沼の戦争へと突入した。

このころから休日にゴルフクラブを振られる天皇、皇后両陛下のお姿は見られなくなった。それ以後、9ホールのゴルフコースのあった吹上御苑は雑木が生い茂って、武蔵野の面影をしのばせるいまの姿になった。また葉山での海洋生物ご採集もとぎれがちになった。

◉太平洋戦争突入

日中戦争から太平洋戦争へと軍国主義日本は突っ走る。昭和十六年四月から始まった日米交渉は難航した。同年九月七日の御前会議で開戦を前提にした「帝国国策遂行要領」が決まったが、この案に対し「戦争が主で、外交が従である」とご不満の陛下は、会議の席上「四方の海みなはらからと思ふ世になど波風の立ちさわぐらむ」と明治天皇のお歌を読み上げられた。立憲君主として、軍部に自重を求めようとされた、精いっぱいの意思表示であったのかもしれない。

近衛文麿に代わって東条英機陸軍大将が首相となり、同年十二月一日の御前会議で対米、英、オランダ開戦が決定された。そして、同年十二月八日、真珠湾奇襲。当初、日本に有利に展開した戦局は次第に逆転、ガダルカナル島撤退、アッツ島玉砕、サイパン玉砕、硫黄島玉砕、本土空襲激化、沖縄玉砕…と、敗戦必至の様相となった。

こうした戦局にもかかわらず、侍従武官を通じて陛下に届く戦況は有利なものばかり。大本営発表を信じ込まされていた国民同様、陛下も真相をご存知なかった。

軍部、政府に対する苦情を打ち明ける相手のない陛下が、政務室に一人閉じこもり「しからば大臣…」と詰問調のひとりごとを口にされたのはそのころである。食欲もすすまず、衰弱される一方の陛下。「あのころ、お上のお疲れになっているのが、一番心配でした」と、いまも皇后さまは思い出されている。

空襲で廃虚と化した東京

B29の東京大空襲があった同二十年三月十日、初孫の東久邇信彦さんが誕生。同年五月二十六日には皇居の宮殿も空襲のため炎上した。両陛下はそのころ、厚いコンクリートで固めた防空用住居「お文庫」を住まいにしておられた。

◉終戦をご裁断

広島、長崎への原爆投下、ソ連参戦…。戦争が決定的段階を迎えた同年八月、本土決戦で最後の活路を求

めようとする阿南陸相ら〝本土決戦派〟と日本に無条件降伏を要求するポツダム宣言受諾を説く東郷外相、米内海相ら〝和平派〟が対立、同月九日に開かれた最高戦争指導会議で両派同数となり、結論が出なかった。同会議では出席者の発言をお聞きになる立場の陛下は、鈴木貫太郎首相が「陛下のご意見をもって本会議の結論にしたい」と、ご裁断を求めたため発言された。「自分は外務大臣の意見に賛成である」―これで終戦は決定した。八月十日未明のことである。

そして国民は「何も知らないので、国民に呼びかけることがよければ、私はいつでもマイクの前に立つ」と話され、八月十五日正午、陛下のお言葉が電波にのった。国民が初めて聞いた天皇の声。それが敗戦の知らせだった。そして太平洋戦争に終止符が打たれた。国民は空襲のない日を迎えたのだった。

大本営地下防空ごう。お文庫と地下道で通じている防空ごうの会議室でただ一人、小型ラジオから流れる自分の声を聞かれた。そして、お文庫に戻られた陛下は、玄関に出迎える皇后さまに「良宮もラジオを聞いたかね」「はい…」皇居にも平和がよみがえった。陛下が四十四歳の時である。

◉再び〝いばらの道〟

無条件降伏、連合軍の日本占領、連合軍最高司令官の従属下におかれる天皇の地位…。すべてが日本にとっても、陛下にとっても初めての経験。天皇は新しい〝いばらの道〟を歩み始められた。

まず、敗戦国の元首として同年九月二十七日、連合軍最高司令官マッカーサー元帥を訪問された。日本の天皇が元首、国王でもない外国人のところへ出かけて行かれた例は全くない。三十分にわたる会見で「戦争の責任はすべてわたしにある。軍人、政治家を処罰しないでほしい」と述べられたという。玄関での送迎はしないといっていたマ元帥は、会見が終わると握手を求め、玄関まで見送った。

米大使館でマッカーサー元帥とご会見

二十一年一月、年頭詔書で自ら神格を否定された。陛下の〝人間宣言〟である。そして、同年二月十九日の神奈川県横浜、川崎両市を振り出しに、全国の戦災地視察に出かけられた。「戦争の道義的責任から全国を回って直接国民に接したい、との悲願を立てられたものだ」と、当時、側近は陛下のお気持ちを述べている。

横浜、川崎両市で戦災復興状況をご覧になり、引き揚げ者を励まして皇居に戻られた天皇のくつもワイシャツもほこりに汚れていた。陛下のことを案じて留守番されていた皇后さまが「まあ、お髪が大層乱れて…」と出迎えられると「これでいいのですよ。もう、こういう時代ですよ」―陛下は晴れやかなご表情だった。

「どうか日本再建のために…」と焼け跡のバラック小屋や農家、漁港を回って、国民を励まされる〝背広の天皇〟ご真影でしか見たことのない天皇陛下に国民の側が最初はとまどった。それが親しみに変わり「ああ、そう」天皇の口ぐせが流行語にまでなった。

しかし、占領軍総司令部の皇室に対する風当たりはきびしく、皇室財産の凍結、皇族の特権廃止などの指令が相次ぎ、天皇のご兄弟である三宮家（秩父、高松、三笠）を除く十一宮家が皇籍を離れた。また、天皇の戦争責任を追及する声が内、外で起きたが、マ元帥は日本占領政策から、証人としても極東国際軍事裁判に陛下が出られることに同意しなかった。

◉象徴天皇誕生

二十二年五月三日、新憲法が施行され、天皇の地位は「日本国と日本国民統合の象徴」と規定、〝象徴天皇〟が誕生した。そして同年六月二十三日の第一回国会で、天皇の一人称は「朕」から「わたくし」になり、二十五年七月十三日の国会開会式から「勅語」が「お言葉」に改まった。

終戦直後の耐乏生活は、その差こそあったが、両陛下とも同じで、陛下は仕立て直しの背広、皇后さまは、古い和服を改良したモンペに似た宮中服で通された。「一般国民も平服になったのに、良宮だけが戦時服ではいけない」と陛下がおっしゃって、公式の席で皇后さまが和服を着られたのは二十七年春、連合軍最高司令官リッジウェイ大将夫妻を招待された時だった。

ご一家にもようやく人間性が回復、二十三年三月、義宮（常陸宮）の学習院初等科卒業式には初めて父兄としてご出席、二十五年五月、第三皇女和子さんと鷹司平通氏の結婚式が東京・芝高輪の光輪閣で行われたときも、貞明皇太后とおそろいで、ご両親が列席された。この時、陛下は「平和であることはいいね」と漏

らされたそうだ。

天皇、皇后両陛下の結婚二十五周年を記念する銀婚式は戦後の混乱期である二十四年一月二十六日だったので、お祝いらしいお祝いもなく過ぎた。陛下は、二十七年五月三日、講和条約が発効した独立記念式典で「天皇退位説」を自ら否定するお言葉を述べられた。そして、悲願とされていた戦後の全国ご旅行は二十九年八月、北海道を最後に終えられた。両陛下にとって長かった〝戦後〟はようやくピリオドが打たれたといえる。

◉ご一家に〝春〟

三十一年十一月、戦後初の国賓としてエチオピアのハイレ・セラシエ皇帝陛下を迎えられ〝皇室外交〟が始まった。そのあと皇室のご慶事が続いた。三十四年四月十日、皇太子殿下と美智子妃のご結婚、三十五年二月二十三日、皇孫浩宮さまご誕生、同年三月十日、末娘貴子さんのご結婚、そして三十九年九月三十日、常陸宮殿下が津軽華子さんと結婚されて、両陛下のお子さまは全員独立された。

戦後初の国賓エチオピア皇帝とご歓談

三十九年十月、東京で開かれた第十八回オリンピック大会の名誉総裁として〝平和の祭典〟の開会を宣言された陛下の姿は、いかにも平和日本の象徴にふさわしかった。

陛下が満七十歳の古希を迎えられた四十六年九月、青春の思い出の地を五十年ぶりに訪ね、皇后さまとともにヨーロッパ七カ国を歴訪、親善を深められた。

天皇陛下は、政治に関する権能はいっさいお持ちにならないが、政府から送られてくる法律改正、認証などの公文書に目を通し、署名、御璽を押されるなどの公務が多い。毎朝、雨でも降らない限り九時半ごろ、吹上御所を出て、公務室のある宮殿に向かわれる。徒歩の時は御所から吹上御苑を通り、道灌堀の横を回って十五分の道程。時には皇后さまがご一緒のこともある。枯葉を踏んで歩くお二人の後ろ姿。それは、共に苦労を分け合った、仲のいい老夫婦といった光景である。

国のつとめはたさむとゆく道のした
堀にここだも鴨は群れたり

（浜田　寛記）

お歌にみる五十年の歳月

宮中の新春行事で国民に最もなじみのあるのは新年歌会始だろう。十年ほど前、歌会始で披露された入選歌に盗作が出たりしたこともあって話題になったが、室町時代からの伝統ある行事は、いかにものどかで浮世ばなれしたふん囲気を醸し出す。ここで最後に読み上げられるのが皇后さまと天皇陛下のお歌。

わずか三十一文字ではあるが、その時々のお気持ち、考え方、自然に対する情感が素直にうたい上げられている。日ごろ、陛下の心のうちを直接知ることができないだけに非常に興味深い。

陛下のお気持ちをうかがう数少ない機会が歌会始のお歌というわけだが、戦後は新聞、雑誌社の希望を入れて、新年号、元旦用の紙面で陛下のお歌が披露されるようになった。

だが〝生物学者天皇〟にとって、和歌を詠まれることは、どちらかといえば得意ではない。すらすらとはいかないが、一生懸命おつくりになるそうだ。ここで、陛下のお歌を時代を追って紹介してみよう。

とりがねに夜はほのぼのとあけそめて
　代々木の宮のもりぞみえゆく
（大正十年）

陛下が十九歳、皇太子当時にお題「社頭暁」に詠進された作品。この年、東宮御学問所での学業を終え、ヨーロッパ旅行に向かわれて、帰国直後、摂政宮に就任された。二十歳で国政の重責を担われたわけである。

世の中もかくあらまほしおだやかに
　朝日にほへるおほうみのはら
（大正十一年）

あらたまの年を迎えていやますは
　民をあはれむ心なりけり
（大正十三年）

大正天皇が崩御、天皇になられて初めて催された歌会始（お題「山色新」）は昭和三年。即位の大礼が挙行された年である。

山やまの色はあらたにみゆれども
　我まつりごといかにかあるらむ

このあと金融恐慌、軍部の台頭、満州事変、日中戦争へと日本は激動の時代にはいるが、平和を希求される陛下の心が、お歌ににじみ出てくる。

ふる雪にこころきよめて安らけき
　世をこそいのれ神の広前
（昭和六年）

夢さめて我世をおもふ暁に
　長鳴きどりの声ぞきこゆる
（昭和七年）

天地の神にぞいのる朝なぎの
　海のごとくに波立たぬ世を
（昭和八年）

静かなる神のみそのの朝ぼらけ
　世のありさまもかかれとぞ思ふ
（昭和十三年）

西東むつみかはして栄ゆかむ
　世をこそいのれ年のはじめに
（昭和十五年）

峯つづきおほふむら雲吹く風の
　はやくはらへとただいのるなり
（昭和十七年）

風さむきしもよの月に世を祈る
　広前清く梅かをるなり
（昭和二十年）

終戦――。平和がよみがえった中で、陛下は一つの悲願をたてられた。戦災の痛手を受けた国民を激励して回りたい、という全国行脚。昭和二十一年二月からスタートされた。

戦ひのわざはひ受けし国民を
　思う心にいで立ちて来ぬ

わざはひを忘れてわれを出むかふる
　民の心をうれしとぞ思ふ

国をおこすもとゐと見えてなりはひに
　いそしむ民の姿たのもし

いずれも、その年のお歌である。そして、視察された地方を詠まれた作品も数多い。

よるべなき幼児どももうれしげに
　遊ぶ声きこゆ松の木の間に
（昭和二十四年、福岡県和白村青松園）

名古屋の街さきに見しよりうつくしく
　たちなほれるかうれしかりけり
（昭和二十六年）

島々もかすかに見えぬ朝ぎりの
　深くこめたる松島の海
（昭和二十八年、松島にて）

あはれなる唖の子らをたくみにも
　教へみちびくいたづきを思ふ
（昭和二十九年、松山にて）

保育園のわらはべあまた楽しげに
　遊ぶを見れば心うれしも
（同年、高知にて）

終戦直後の〝暗い日本〟にあって、湯川秀樹博士のノーベル賞受賞は明るいニュースだった。

新聞のしらせをけさは見て嬉し
　湯川博士はノーベル賞を得て

賞を得し湯川博士のいさをしは
　わか日の本の誇りとそ思ふ
（昭和二十五年）

昭和二十七年、ようやく独立。陛下は、感慨ひとしおでその日を迎えられた。

風さゆるみ冬は過ぎてまちにまちし
　八重桜咲く春となりけり

国の春と今こそはなれ霜こほる
　冬にたへこし民のちからに

夢さめて旅寝の床に十とせてふ
　昔思へば胸せまりくる

昭和三十年八月十五日、終戦からちょうど十年経た日に那須御用邸で、陛下はこう詠まれた。

自然をうたい上げた作品も数多いが、さすがに那須、葉山の御用邸に滞在中詠まれたものが目立つ。

那須の山そびえてみゆる草原に
　いろとりどりの野の花はさく
（昭和三十八年）

わが船にとびあがりこし飛魚を
　さきはひとしき海を航(ゆ)きつつ
（昭和四十二年）

那須の植物、葉山での海洋生物ご採集を最も楽しみにされている陛下だが、皇后さまも〝門前学派〟と称されて、なかなか生物にはお詳しい。小船に乗り、沖へ採集に出かけられる陛下を見送られて――。

めづらしきさちを得ませと祈りつつ
　葉山の海に御舟おくりつ

ここで皇后さまのお歌を紹介すると…。

外っ国のワシントンなる孫の声
　テープの声をいま耳にしつ
（昭和四十一年）

末娘、島津貴子さんの一粒ダネ、禎久(よしひさ)ちゃんの声を吹き込んだテープが送り届けられた時のものである。

いまひといき心つよくとさとしつつ
　針のあと多き腕さすりやる

ひとときは涙にぬれしあこの顔
　やがて笑顔にかはりゆくかな

昭和四十一～二年ごろ、岡山で病床に伏せる池田厚子さんを見舞われた時の情景で、母親としての情感があふれている。医者が〝奇跡〟というほど、両陛下が見舞われるたびに病状が好転、厚子さんは元気になっていった。

ひと足も踏み出でがたき子らを見て
　わが足までもこほる心地す
　　　　（昭和三十年）

さちうすき人の杖とも柱とも
　なりていたはる人ぞたふたき
　　　　（昭和三十二年）

なぐさめむことの葉もなしいじけたる
　足にてゐがくをさな子を見て
　　　　（昭和三十三年）

鴨川の堤のほとりなつかしも
　をさなきころにすみしかの家
　　　　（昭和四十六年）

毎年、国民体育大会、植樹祭ご出席をかねて各地方をご旅行になるのが、両陛下にとっては、またとないお楽しみである。再び陛下のお歌に戻ると――。

なつかしき猪苗代湖を眺めつつ
　若き日を思ふ秋のまひるに
　　　　（昭和三十七年、翁島にて）

松苗を天鏡台に植ゑをへて
　猪苗代湖をなつかしみ見つ
　　　　（昭和四十五年、福島県植樹祭）

猪苗代湖は大正十三年夏出かけられた、いわば〝新婚旅行〟の思い出の地である。

いにしへの書に名高き屋島見ゆる
　広場にきそう人のたのもし
　　　　（昭和二十九年、高松にて）

池の辺のそゞろありきに娘らと
　かたるゆふべは楽しかりけり
　　　　（昭和二十九年、岡山にて）

山崎に病やしなふ人見れば
　桜の花も美しからず
　　　　（昭和三十年、京都にて）

日影うけてたちかがよひぬ春の雪
　きえし山辺に植ゑたる松は
　　　　（昭和三十一年、宮城県黒川郡大衡村）

たたなづく六甲の山なみ近く見る
　広場につどふ若人のむれ
　　　　（昭和三十二年、神戸・王子陸上競技場の開会式）

夢さめし旅寝の床に鳥の声
　きこえて楽し宿の朝あけ
　　　　（昭和三十三年、岐阜の宿にて）

人の才を集めて成りし水底の
　道にこの世のいやさかゆかむ
　　　　（昭和三十四年、関門国道トンネルを見て）

暖かく秋田の人に迎へられて
　ここに正しくきそふ若人
　　　　（昭和三十七年、秋田国民体育大会）

ほととぎすゆふべききつつこの島に
　いにしへ思へばむねせまりくる
　　　　（昭和四十年、佐渡の宿にて）

春たけて空はれわたる三瓶山
　もろひとともに松うゑにけり
　　　　（昭和四十六年、島根・広島両県共催植樹祭）

まのあたり桜島みゆる秋晴れの
　広場にけふはひとびとつどふ
　　　　（昭和四十七年、鹿児島国民体育大会）

きのふよりふりいでし雪ははや晴れて
　万国博覧会の時はきたりぬ

アラスカの空にそびえて白々と
　マッキンレーの山は雪のかがやく

説明は不要だろう。前のは大阪で開かれた万国博覧会、後のはご訪欧途中、機中からご覧になったマッキンレー山脈を詠まれたものである。こうした自然や社会の出来ごとをうたい上げられたもののほか、象徴天皇としてご心境を詠まれたものもある。

日日のこのわがゆく道を正さむと
　かくれたる人の声をもとむる

皇后さまも、次のようにご自身を詠まれている。ご自分に厳しいお二人である。

いたらざることのみ多き年月を
　送りぬさらにあゆみはじめむ

末ながく

侍従長 入江相政

太平洋戦争がみじめな敗戦におわり、国中焦土となったあの頃、一体だれが現在の繁栄を予想したろう。朝はパン、昼はうどんかすいとん、夜は半搗米に麦で軽く一碗、それがあの頃の陛下のお食事。おかずももっと減らせ、もっと減らせでおききにならないから、お粗末この上もないものになってしまった。

陛下のパンをまっ白なのにするくらい、なんのこともなかったのだが、ふすまや豆かすみたいなものを、できるだけ多く混ぜて焼けとおっしゃるものだから、おいしいので有名だった御所のパンも、焦げ茶色のポソポソ、あわれ見るかげもなくなった。

われわれには進駐軍放出とかいうまっ白なのが、月に一度はめぐまれたのに、陛下のは三百六十五日ポソポソ。このごろはもう普通のになったが、昭和二十八、九年までは明瞭に黒いのだった。

われわれの昼の弁当も、大根の輪切りが五つ切れ。これが主食でもあり、副食でもあった。大根の五つ切れは、呑み込むに手間ひまはいらぬが、ただ、呑み込んだあとに訪れる本格的な空腹感のやるせなさ、よくも辛抱したものだった。

そういう時期に陛下は、少しでも早く日本全国をまわり、一人でも多くの人に話しかけたいと、地方巡幸をおはじめになった。

その時のお宿というのがまた、県庁だったり公会堂だったり学校だったりで、まともに人がとまれるようなものはあまりなかった。

今の女子高校、その頃の高等女学校の教室の板の間におやすみになった。われわれもその近くの教室に、今でなら宮内庁長官、その頃の宮内大臣、侍従長、侍従、侍医、そういう人たち五、六人も板の間に枕をならべた。

頭は疲れているがからだはそれほどでないから、深く眠ることができない。東北の夏の短か夜はあけやすい。突如としてエイッという気合。肝をつぶして一斉に起きあがった。たったひとりひげをはやして寝ている人。気合をかけたのはまさしくこの男。あまりの寝苦しさのためだったろうが、このようなことでむだに四時半におこされたわれわれ、もう寝直すわけにはいかなかった。

二十四年からは大体宿屋やホテルにお泊りになるようになり、二十八年ごろからは皇后さまもごいっしょということになって、いくらか「旅」の味がただようようになってきたとはいうものの、われわれの「旅」とはおよそ趣の異ったもの、すべてはむしろ「行事」といったほうがよかろう。

それにしても植樹と国体と、春秋二度の行幸、いずれも日本の発展に大きな意味のあるものだし、それだけにこれらのご旅行を、どんなにか楽しみにしていらっしゃる。

東京オリンピックに、あれだけの成果をおさめることができたのは、もとより日本の底力が物をいったのではあるが、年々の国民体育大会が、いつも大変な熱意を以て行なわれたことが根幹になっていたのはいうまでもない。

治山治水は陛下の年来のご悲願。国土緑化による民生の安定は最大のご関心事である。第一回の植樹行事は、二十三年に都下の青梅で行なわれたが、この時お植えになった三本の杉苗は、今ではもうふりあおぐほどの大木になった。

そして植樹行事は、それ以来年々欠かさず行なわれていて、その間には、見渡すかぎりのカヤ原、山火事の名所といわれたところへお植えになったこともある。そうしたら風の強い日には、村の青年が手に手にバケツをさげて見回りにいくようになり、山火事もあとを断ったという。こういうところに陛下のお仕事はあるというもの。

大公使を交換している国が戦前は三十三ヵ国だったのが、今日ではとうとう百ヵ国近くにまではねあがった。航空機の発達の関係もあって、これらの国々の元首が、総理が、外相が、蔵相が、さらには学者が、財界の有力者がというわけで、まさに千客万来。

新年とかお誕生日とかにいっぺんにたくさんの外国人にお会いになるのを別にして、小さなお部屋の中で膝つき合わせての一時間から二時間のご会見、そういうのだけで多い年には三百人、毎日必ず一人というような計算になる。精魂を傾けてやっていらっしゃるから、みんな満足して帰っていくようである。

戦争がすんだ頃は陛下もまだお若かった。朝八時にお宿をお出になり、夜十時近くなってまっ暗な夜道をお帰りというようなこともあったが、このごろはさすがにそんなことはなくなった。それはしかし陛下がお年を召したからではなく、それだけ世の中が整ってきたためである。

東京でも、朝から晩まで、行事でびっしりつまってしまうような日がある。そんな時にも「いそがしくてかなわない」というようなことは決しておっしゃらない。「きょうは大変たてこんできたよ」とお笑いになって、むしろ楽しんでいらっしゃるようである。

寒中や酷暑の葉山、三時間も四時間も、時にはお弁当持ちで五、六時間も海の採集をおつづけになるし、那須の山ではかけるようにして植物の調査を進めておいでになる。二、三年のうちにはまたいくつかの本をお出しになるだろう。

「戦前と戦後と、陛下はどうお変りになりましたか」というのは実にしばしば受ける質問である。そういう時私はいつでも「ちっともお変りになりません」と答える。戦前、戦後を通じて一貫してデモクラティックに暮らしておいでになるからである。

おからだにはなんの故障もない。存分に英気をお養いになって、末ながく世のために働いていただかなくてはならない。

（本稿は「皇室二十年」（共同通信社刊）のために執筆されたものを、筆者のご了解を得てここに転載しました。原文のまま）

天皇さまの対話

素朴な言葉にあふれる人間味

―「ああ、そう」が流行語に―

「本当に、いつの間にかそんな時期になったかと思って…。何だか恥ずかしいような気がします。しかし、お互い健康で（その日を）迎えられるのは感慨無量です」

四十八年九月五日、那須御用邸で、天皇陛下は金婚式をお迎えになる感想をこんなふうに漏らされた。

「感慨無量」とのお言葉に陛下のお気持ちがこめられている。しかし一方、明治、大正それに昭和一ケタ生まれの人たちにとっては、陛下が、記者団の質問にお気軽に答えられることそのことに、感慨無量だろう。

チチ、ハハは無事か

終戦まで天皇陛下のお写真を「御真影」と呼び、お顔は「龍顔」お声は「玉音」だった。戦前、戦時中、一般国民が陛下のお声を耳にすることは皆無に近かった。だが、昭和二十年八月十五日正午、陛下がお読みになった終戦詔書がラジオで流れた。「玉音放送」―「…朕ハ時運の趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス」。国民が初めて聞いた陛下のお声だった。

そして昭和二十一年二月、神奈川県川崎、横浜両市を皮切りに始められた戦災地視察の全国ご旅行で〝背広の天皇〟は戦災者、引き揚げ者に声をかけて回られた。「どうか日本再建のためにしっかりやってください」一生懸命、国民を励まされたが、それまでの四十年余、陛下に接する人々が用いる言葉は堅苦しい敬語ばかりで、そんな話し方しかご存知なく、庶民との対話をどう運んでいいのか戸惑われた。それに、もともと器用な方ではない。「今後、ますます努力してもらうことを希望する」「チチ、ハハは無事でしたか」―陛下も戸惑いながら語りかけられたが、独特な抑揚で言葉をかけられた国民の方も戸惑った。

「ああ、そう」陛下の口ぐせが、当時すっかり流行語になった。だが、そのことを陛下は気にされていたようで「ああ、そう」はだんだん聞かれなくなった。

「自分は言葉が下手だから…」と、側近に漏らされたこともある。しかし、素朴な語りかけは相手の胸を打った。

考えながら話されるので、どうしてもぎこちない対話になりがちだが、そんな時ばかりではなかった。昭和二十一年六月、千葉県銚子市の漁港では、ちょうど沖から帰ってきた漁船に大声で「とれたか！」とお聞きになった。日焼けした漁師が笑顔で「こんなにとれました」と、カツオのしっぽをぶら下げて、陛下にご

覧に入れた。それだけの対話だが、親しみがこもっていた。

栃木県の精銅所で労組幹部が「労働者の代表として自分に握手を賜わりたい」と申し出たことがある。陛下はとっさに「日本式にやりましょう」と軽く会釈して進まれた。どうなるかと息をのんでいた側近はホッとしたそうだが、相手を傷つけない機転のきいたご応対だった。

「昭和の初めから、このようだったらなあ」と、しみじみ漏らされたのは、昭和二十一年十月、名古屋で県庁前を埋めた歓迎の市民で、お車が身動きできなくなった時である。国民に囲まれてうれしそうな陛下。天皇神格化の時代を悔やまれたのだろう。だが、最近は、地方ご旅行の歓迎も形式的になり、国民との触れ合いはほとんどない。関係者は「世の中が落ち着いたから…」と説明するのだが…。

園遊会でいろいろな人に会われるのは陛下のお楽しみである

思い出のマ元帥訪問

天皇陛下との記者会見。終戦までは考えられないことだったが、戦後は、両陛下にお目にかかって、宮内庁詰めの記者がご日常の生活、生物研究などについて聞く機会ができた。首相の記者会見などと質が違って、お尋ねするテーマは限られているが、陛下の考え方、ご心境を知る貴重なひと時である。

毎年夏、那須御用邸にご滞在時に記者団とお会いになる。宮内記者会のメンバーがまず自己紹介するのだが、陛下をぐるっと半円型に囲むように並んだ記者一人一人に、顔だけ対されるのではなく、体ごと向き直って「うん」とうなずき、あいさつを受けられる。

ある年の会見で記者が、会見の口火にと、病気だった池田厚子さんの全快をお喜びするあいさつをした時のことである。陛下は、一歩前に踏み出され「その言葉ありがとう。国民みんなが心配してくれていたが、おかげでよくなった」と大声で、父親としての感謝を述べられた。その態度があまりにもおうれしそうで、簡単な気持ちで申し上げた記者が当惑したことがある。

「国民が力を合わせ、戦災復興に励んでくれたこととマッカーサー元帥に会ったことが戦後、最も印象深い。あのような東洋思想に精通した人が来てくれたことは、日本にとって幸福だったと思う」――戦後二十年たった昭和四十年夏、戦後の思い出をうかがったのに対し、陛下は、このように答えられた。「戦災復興に対する国民の努力…」は、予想できたお答えだったが、マッカーサー元帥との会見を挙げられたのは意外だった。当時発表された夏の略装で腰に手を当てた元帥とモーニング姿で緊張される陛下の記念写真に象徴されるように、勝者と敗者の明暗を分けた出会いと考えられていただけに…。

昭和四十六年夏の会見では、皇太子時代のご外遊が話題になった。「それまでは〝カゴの鳥〟の生活だったので、あの外遊で初めて自由というものを知った。外国での見聞が、それ以後のわたしの考え方に大きな影響を与えた。これまでで最も楽しい思い出だった」これが陛下のお言葉である。陛下がヨーロッパから戻られた当時、元老西園寺公望らは「わずか六か月の間に、自由主義の危険な思想をいっぱい詰め込んで帰国された」と嘆いていたのと対照的で、非常に興味深い。それに〝カゴの鳥〟といった表現が、あの謹厳な陛下の口から巧まず出たのも意外だった。戦前から、〝雲の上〟の生活がお好きでなかったのがよくわかる。

たてこんできたな……

―御用邸付近もずいぶん開発が進み、姿を消した植物もあると聞きますが…。

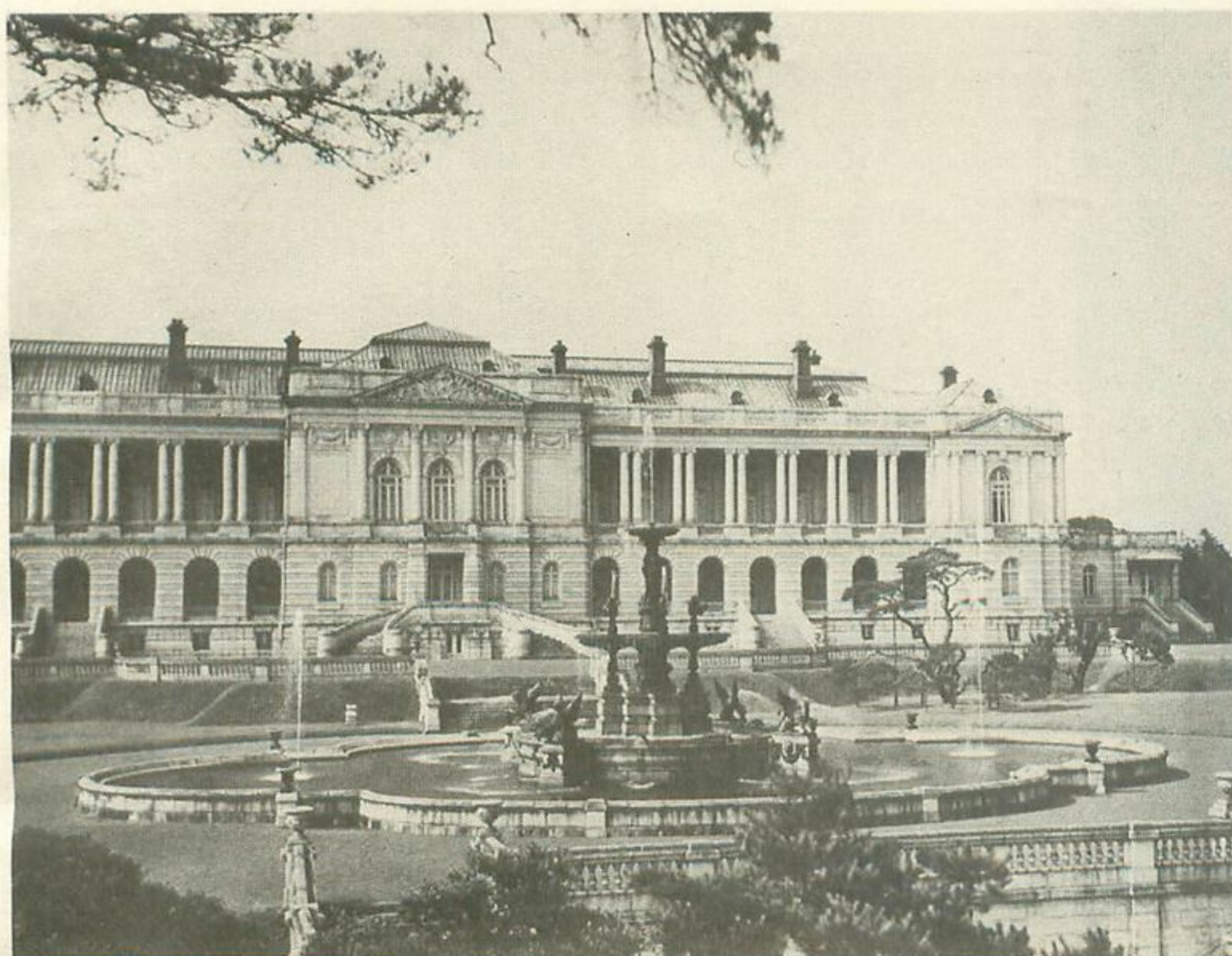
『確かにそういうこともある。開発が進むことは那須の人々の幸福のためだから結構なことだが、できれば万国博のテーマのように〝進歩と調和〟をモットーに進められるとよいと思う。』

四十八年九月行われた会見での陛下と記者団の一問一答の一コマである。

皇居の外での対話は、公式、非公式を問わず神経を使われる陛下だが、皇居で側近の侍従と対される時は、かなり気軽な会話も交わされるそうだ。

昭和二十五年ごろから、各新聞、雑誌社が、陛下のお歌を新年用の紙面に出したいと希望しだした。この旨を侍従が申し上げると、「そう方々から頼まれては、ヒロポンの注射でもしなくては…」と笑われたそうだ。

当時、作家太宰治らがヒロポンを盛んに打って執筆、話題になっていた。
また、陛下は政府から送られる書類に署名されるお仕事が毎日のようにあるが、生存者叙勲の前になると、机の上に書類が積まれ、夕方五時までには終わらず、〝残業〟ということもたびたびある。そんな時陛下は「やあ、たてこんできたな」とおっしゃって、それでも、きちょうめんに一枚一枚署名される。「たてこんできたな」といった言葉も、あの実直な人柄の陛下だからこそ、ユーモアたっぷりに聞こえる。
ソフトをワシづかみにして無雑作に振られる陛下。戦後二十数年、振り続けられても、一向にスマートさが身につかない態度。あの姿同様に陛下のお言葉には、いかにも飾り気のないお人柄がにじみ出ている。
（浜田　寛）

両陛下のお住まい

▲元赤坂離宮

▼吹上御所

◉赤坂離宮

「鉄筋コンクリートの小じんまりした建物に住みたいものである」—。天皇陛下は、ご結婚前の皇太子時代から、住居についてこんな希望を持っておられた。ヨーロッパを旅し、西欧の住居をご覧になって、その合理的なのと関東大震災で木造家屋のもろさを痛感されたからかもしれない。
だが、お二人の新居、東宮仮御所になったのは〝小じんまりした〟というご希望と違って豪壮な赤坂離宮だった。近く迎賓館として使用されるフランスのベルサイユ宮殿をモデルにした離宮は、十年の歳月と総工費五百十万円（当時）をかけて明治四十一年十二月に完成した。コメ一升（約一・六㎏）が四銭五厘の時代だから、そのデラックスぶりはほぼ見当がつこう。室内装飾は黒田清輝が担当、紫、紅色の大理石はイタリア、家具はフランス、そしてじゅうたんはイギリスから輸入した石造二層の広壮華麗な建築、内装だが、明治天皇は「そんなぜいたくなものは見たくない」と、ついに一度もご覧にならず、責任をとって田中光顕宮相が辞職したという裏話がある。
戦後、防空用のお住まい「お文庫」が狭くなったので、石渡宮相が赤坂離宮への転居を進言すると、陛下は「あそこは人間の住むところではない」と一言のもとに拒否されたそうだ。その「人の住むところではな

い」赤坂離宮に昭和三年九月、皇居へ移られるまで五年近く生活されていた。

◉皇居・奥宮殿

皇居でのお住まいは、表宮殿に連なった奥宮殿の常御殿（平屋建て）明治二十一年十月に完成した宮殿のうち、お住まいの奥宮殿は、ご転居前の昭和二、三年に大部分を洋風に改修した。この宮殿は昭和二十年五月二十五日、空襲により表宮殿とともに焼失した。

◉お文庫

米軍機の本土空襲が激しさを加えた昭和十九年冬、両陛下の待避される防空用のお住まいがお文庫。吹上御苑に出来た建物は「お文庫」などとわざわざ住居でないかのような名称で呼ばれた。空襲の対象になるのを避けるためである。地上一階、地下二階の鉄筋コンクリートだが、コンクリートの塊みたいで湿気がひどく、天井はいつも汗をかいていた。部屋は全部洋式で日本間は一つもない。ただ、一階のホールをはさんで右側にある陛下の風呂場は洋式だが、左側、皇后さま用は小判型の木製で純日本式だった。

新しいお住まいを建てる計画は戦後、間もないころから出ていたが「戦災者、引き揚げ者の状況をみると、いまはその時期ではない」とのお言葉が陛下から返ってきて、いつも立ち消えになっていた。それがようやく〝お許し〟が出て、昭和三十六年十二月に完成したのが吹上御所である。

◉吹上御所

お文庫と渡り廊下でつながった新住居は、鉄筋コンクリート二階建てで延べ一、三三〇平方㍍。正面にホールがあり、談話室、書斎、居間、和室などが並んで、二階が寝室。明るいご住居で、赤坂離宮、焼けた宮殿に比べるとうんと小さく、陛下も念願の〝鉄筋コンクリートの小じんまりした住まい〟に落ち着かれたわけである。

思い出のヨーロッパご旅行

―印象づけた人間味―

北欧の地コペンハーゲンで始まり、アルプスの氷河の水をたたえてゆるやかに流れるラインのほとりで、フィナーレを迎えた両陛下のヨーロッパご訪問――それは〝遠い国々〟ヨーロッパと日本とのきずなを深めるための親善訪問であると同時に、お二人にとって結婚以来初めておそろいで歩かれる海外への旅でもあった。〝天皇晴れ〟という新語まで生んだ秋空に連日恵まれて、両陛下は四十六年九月二十七日から十八日間、各国の人たちにヒューマンなお人柄を印象づけながら、お疲れの様子もなく生き生きと振る舞われた。

◉モミクチャ（デンマーク）

最初の訪問国デンマークのフレーデンスボー離宮で両陛下は、ヨーロッパのカメラマンの陽気で荒っぽい〝大歓迎〟にあわれた。国王ご夫妻とおそろいで、バラが咲き誇る離宮の庭園にお二人が現われると、百人以上のカメラマンが一斉に包囲した。小柄な日本人カメラマンがはじき飛ばされるような乱暴な撮影ぶりに、案内役のイングリッド王妃が『花をメチャメチャにしないで』と悲鳴をあげたほど。

人魚の像をご覧の両陛下（コペンハーゲン・昭和四十六年九月）

陛下にとっては、庶民の間でもみくちゃにされたのは敗戦直後の地方ご旅行以来のこと。どこへ行かれても〝人間天皇〟への歓迎の人波の中で、陛下のソフトが右に左に揺れていたあのころを思い出されたのか、陛下はかえって生き生きした表情でスタスタ歩き回られていた。

◉〝あがり屋〟陛下（ベルギー）

天皇陛下はちょっぴり〝あがり屋さん〟で、それが訪問される国々でかえって回りの人々のほほえみを誘っていた。アントワープ市庁舎を訪問されておきまりの署名のときのこと。陛下はまず、内ポケットからもぞもぞと万年筆を出された。この万年筆のキャップはさし込み式なのに、陛下はそれをねじってあけようとされたから、インク入りのカートリッジが飛び出してしまった。一瞬あわててネジをもとに戻されたが、記帳簿を押えていた女性は、間がもてなくてソワソワ。署名は無事終わったが、陛下はキャップをはめた万年筆をまたもやねじられた。回りにいた外人記者からクスクスと笑いが漏れた。

◉CINQを三個（フランス）

パリでの二日目、フォンテーヌブローからの帰りにエスカルゴ（カタツムリ）を食べられた。レストランの主人は記念にカタツムリの殻をお持ち帰り願おうと「幾つお包みしましょうか」と尋ねたところ、陛下は言下に「サンク」。侍従が「三個ですか」と念を押すとこれがCINQ、つまりフランス語で五個のこと。陛下の当意即妙のユーモアに一同大笑い。

◉デッキからピョンと（イギリス）

英国は天皇陛下にとって、いわば青春の思い出の地。ガトウィック空港から特別列車『グレーハウンド号』でビクトリア駅へ到着された陛下は、この日を待ちかねたように列車のデッキからぴょこんと駅のホームに飛び降りられた。デッキの高さは五十㌢もあったろうか。踏みはずされたのかと、一瞬ハッとしたほどだった。そんなうれしそうな天皇陛下を、この駅頭で五十年前、皇太子時代の陛下を迎えたジョージ五世のお孫さんに当たるエリザベス女王が、にこやかに握手で迎えられた。

ロンドンの動物園で初めてパンダをご覧になる

◉うずいた古傷（オランダ）

対日感情が最も厳しいといわれたオランダでは、初日から両陛下の車にびんを投げる事件やら、戦争中の日本軍の捕虜虐待への抗議デモがあったが、両陛下は落ち着いた態度で親善の旅を続けられた。お車のフロントガラスにヒビがはいった不祥事に対し、オランダ政府の陳謝が伝えられたときも、陛下は「ああ、そう」とおっしゃっただけ。一方、過去の古傷を越えて、新しい親善への努力を身をもって示されたオランダ・ユリアナ女王の態度も、印象的だった。

◉軽装でおくつろぎ（スイス）

レマン湖を見下ろすゆるやかなスロープが広がる緑の牧場、収穫期を迎えたブドウ畑と赤いカエデの林に、秋の日ざしがこぼれる。非公式の訪問国だけに陛下もぐっとくだけて、ツィードの背広にエンジ色のネクタイ。パリのホテルで、自分で選ばれたというネクタイを見せて、随員に「どうだ、どうだ」と盛んに自慢されていた。

ローザンヌ付近のガンボー村のブドウ園。ここで村長から「ブドウを一房お取りください」とすすめられた皇后さまが、偶然ブドウの木の陰に小鳥の巣を見つけられた。「かわいそうだから」皇后さまはそっとその木を離れ別の木の房を取られた。

◉赤いバラの花束（ドイツ）

西ドイツでの旅は、終始熱狂的な歓迎攻めだった。ケルン市では、大聖堂の前で大群衆の中から一人の坊やがチョコチョコと出てきた。四歳のドイツ人坊やトニー・ワインガルテンちゃん。ちょっぴりはにかみながら、皇后さまに赤いバラの花束を差し出す。「これはよいものを…」と皇后さまが握手された。続いて陛下にも小さな手を握られたトニーちゃん「ぼくカイザーに会いたかっただけなんだ」

ご訪欧日誌

デンマーク（46・9・27、28）

北極回りのお立ち寄り先、アラスカのアンカレッジでニクソン米国大統領夫妻の歓迎を受けられた両陛下は、最初の訪問国デンマークのコペンハーゲンへ。アンデルセンの童話で名高い「人魚の像」ハムレットの伝説を伝えるクロンボー城、陶磁器試験場などを訪問された。歓迎の主役は小学生と幼稚園児。どこまでも続く酪農王国デンマークの緑の牧草地帯のなごやかなながめで、空の長旅のお疲れもすっかりいやされたご様子だった。

ベルギー（9・29〜10・1）

最初の公式訪問国だけに歓迎ぶりは非常に暖かだった。ブリュッセル、アントワープ、シャルルロワの三市をご訪問。天皇陛下はベルギー国王ご夫妻主催の夕食会で「この半世紀は私自身にとっても苦難と試練の時代だった」と人間味あふれるスピーチをされて話題を呼んだ。一方、いつもニコニコと笑顔で人々に接する皇后さまは、当地の新聞で「天使の微笑」とほめそやされた。

アントワープのノートルダム大寺院ではパイプオルガンが「さくらさくら」をかなでて歓迎の意を表した。ナポレオンの古戦場ワーテルローでも、付近の三つの町の小学校は〝天皇休校〟。約千人の子どもたちが町長さんを先頭に日の丸の旗を振り、まるで〝村祭り〟のような陽気なふん囲気でお二人を歓迎した。

フランス（10・2〜4）

両陛下にとってフランスの旅程は、ご静養を加味したものだった。だからというわけでもないが、パリはいつもの素顔のまま両陛下を迎えた。両陛下もむしろそうした静けさを喜んでおられたようだ。秋晴れのモンマルトルやシテ、そして翌日はフォンテーヌブローとバルビゾンで、美しい紅葉の森にそそぐ柔らかい日差しを楽しんでおられた。

英国（10・5〜7）

英国民はお二人のご旅行を単なる〝センチメンタルジャーニー〟とは受けとらなかった。日本の過去と今後の日英関係に対する問いかけが、両陛下の訪英を機会に一挙に表面化したともいえる。天皇陛下がロンドンの王立植物園で記念植樹された杉の若木が、翌日切り倒され、濃塩酸ソーダを地面にぶちまけ、根を枯らせるという事件も起きた。

だが、両陛下の親善訪問の真意は、少しずつ英国民の間に伝わっていったようだ。当初はお二人に対して冷たかったロンドンの大衆紙も、次第に論調を変え、「未来に目を向け、過去の汚点をぬぐいとる時期が来たのではないか」「おかしなことが起きた。植物園で三百人余りの群衆が、天皇に拍手を送った」と好意的、あるいは事実をありのままに伝える報道をするようになった。そんな中で、ビルマ戦線で日本軍と戦った英軍総司令官マウントバッテン伯が、両陛下を表敬訪問したことは、かつての交戦国の民衆との〝和解〟が深まる兆しとして受けとられていた。

オランダ（10・8、9）

ご訪問の先々で「HIROHITO GO」の抗議のプラカードがお二人を迎えた。防弾ガラスの自動車のフロントに、ビンが投げつけられた。第二次大戦中、東南アジアで日本軍と交戦したことのあるグループが運動の中心だったが、こうした動きに対し両陛下は終始悠然としておられた。真の親善とは、こうした厳しい現実を乗り越えて初めて実現するものだろうし、両陛下にとっても、一度はたどらねばならぬ道かもしれなかった。

スイス（10・10）

静かで、心暖まる歓迎——それが山国スイスだった。レマン湖のほとりをドライブする両陛下の車に向かって、村の窓という窓から旗が、手が振られた。『ローザンヌのホテル・ボリバージュのロビーにお二人がお出でになると、それまで座って話をしていた人たちが、そろって起立して敬意を表わしてくれた。それが済むとまた座って何事もなかったかのように静かにおしゃべりを始めた。ああいう自然さがうれしいですね』宮内庁の宇佐美長官がこう語っていた。

西ドイツ（10・11〜13）

特別機を戦闘機が護衛したのはこの国だけ。第二次大戦の同盟国の記憶が残る西ドイツはどこへ行っても「カイザー、カイザー」と大騒ぎ。新聞、雑誌もきわめて好意的で、通常は夕方から放送にはいるドイツのテレビは、両陛下のご到着のさいは、特別に朝から中継放送をした。両岸に古城の続くライン川では、ローレライの岩の頂にだれが掲げたのか、大きな日の丸がなびき、両陛下は何度も何度も手を振られていた。

天皇さまと眼鏡

◉無とん着

天皇陛下の眼鏡は、陛下の眼にきちんと合っていないのではないか――そんな疑問を初めて持ったのは四十六年九月七日、両陛下がご訪欧を前に、伊勢神宮に参拝されたときだから、もう二年以上も前のことになる。朝から雨もよいの空だったが、ちょうど参拝の始まるころからポツリポツリとやってきて、両陛下が内宮に到着されたときは土砂降りだった。

拝殿への道は自然石を使った石段である。ぬれて滑りやすくなり、ツルツルに光った石段を、参拝を終えた天皇陛下が一歩一歩慎重に、足場を探るようにして降りられる。何とも危なっかしく、見ている私は、陛下が長い石段を無事降り終えるまでハラハラし通しだった。帰京するとさっそくある宮内庁幹部の部屋を訪ね「あんな危ないことはもうやめて、ご代拝にでもなさったらどうか」と進言したものである。

何十年も陛下に仕えたその人は、しかし、落ち着きはらったものだった。「何しろそういうことには至って無とん着な方なんですから…。陛下は近い所を見る眼鏡と遠い所を見る眼鏡の二種類をお持ちだが、時々それを取り違えてかけておられる。今度もそうだったんじゃないんですか。しかもその両方ともキチンと合っていないのに、変えようともなさらないんですよ」

私はいささかあきれ、これからヨーロッパの長旅が始まるというのにどうなることかと案じたものだが、それは無用の心配だった。澄みきった秋空、黄葉したブナやプラタナス、美しいヨーロッパの秋の中で繰り広げられた親善訪問中、終始晴れやかな笑顔を絶やさず、皇室外交の大役を果たして帰国された。

四十八年秋の天皇陛下は、いつもの年に比べてお疲れが目立ったようにみえた。なんでも夏の那須御用邸での植物観察の散歩が少し過ぎたようである。多い日は盛夏の山道を三~四時間も歩かれたという。だれでも夏の疲れは秋口になって出る。同年十月十二日から千葉県下で開かれた秋季国民体育大会へお出かけの際は、とりわけ精彩がなかった。銚子市の卓球会場ではしきりに体を動かして、果ては大あくびをされた。狭い体育館の中に十幾つもの卓球台がしつらえられ、小さな白いボールが四方八方に飛び交うのを観戦するのは確かに神経にこたえる。選手たちの激しい動きと陛下の顔を見比べながら「やっぱり眼鏡が合っていないんだ」と思った。

◉簡素なご生活

衣食住に関しては無欲であり、不平を申されないのが皇室の〝家風〟である。両陛下のコック長を五十八年も勤めて四十七年に勇退した秋山徳蔵宮内庁元主厨長は、在任中、陛下からあれが食べたいこれはイヤだ、といった注文を受けたことは、ただの一回もなかったと述懐している。

陛下の生物学御研究所を見学したことがあるが、勉強机はおそらく青年時代からなじんでおられるであろう木製であった。それに古びた回転いす、キチンと削ったチビた鉛筆に竹製の定規、おまけにインクつぼは昔懐かしいスポイトせんのアテナインクのガラスビンを使用されていたのには仰天した。

その点は皇后さまも同様で、新調のスーツなどめったにお見かけしたことはなく、ヨーロッパご訪問の時、用意された服を大事に順ぐりに愛用しておられる。国の体面にかかわる場合は別にして、私的な面では、いたって簡素な生活である。石油危機でにわかに声高に叫ばれている節約令などは、両陛下には〝何やらに説法〟のたぐいであろう。

しかし脳や神経、それに思考機能などに直接かかわる眼の保護となれば、話は別であるはずだ。千葉国体から帰京してもう一度陛下の眼鏡の話をむし返してみた。そしてもう一度びっくりした。

◉旧式な検眼設備

昨今、一流の眼鏡店では、フラクト・メーターで度数を測り、次いでスキヤスコープで屈折異常を割り出し、総合して合ったレンズを選び出す。さらにビジョン・テスターに映る文字や記号を見てレンズの掛け心地を調べ、最終的な眼鏡を決めることになる。

ところが、宮内庁病院の眼科にはこうした〝近代兵器〟が用意されていない。昔、小、中学校の身体検査に登場していた「こなる……」の順で並んだテスターがあるだけ。当然陛下も一時代前の検眼システムに従って自分の眼鏡を〝主観的〟に選択しておられることになる。そんな旧式なやり方では、正確な眼鏡をかけられるわけがない。だれか陛下に対してそのことを指摘した人があるのかと聞いてみた。侍従さんの答えは

こうだった。「申し上げたことは何度もあります。しかし陛下はああいう方ですから、専門家以外の者が言ってもお聞きにならない。〝遠い所を見るには望遠鏡があるし、細かいものを見るにはルーペ(拡大鏡)があるから少しも構わない〟と、こうおっしゃるんです」

◉けじめには厳しく

専門家以外の者が言ってもなかなかお取り上げにならない、ということは、天皇を理解するうえでかなり重要なポイントである。陛下の健康管理の責任者は侍医である。だが保健法や体調の整え方については、様様な意見があるものだ。健康上の問題について、医者以外の者の言うことをいちいち取り上げていれば、侍医の立場はなくなってしまう。

戦前のある時期のこと、陛下は外交問題に関する疑問が生ずると、必ず時の内大臣湯浅倉平氏を呼んでただされた。内務畑を歩んできた湯浅さんは、外交に関してはもとより素人だった。一方、当時の宮内大臣は松平恒雄さん。駐英大使も務めたことがある外交畑のベテランだが、こっちには何の御下問もない。四十年近くも陛下に仕えてきた入江相政侍従長は、そのころを回想して「ケジメをきちんとつけるご性格だからでしょう。内大臣はいわば天皇の政治顧問ですから、湯浅さんにはいろいろ質問される。しかし、松平さんはかつては外交の専門家だが、当時は宮内省の最高責任者で、外交の当事者ではないからお聞きにならない。こういう陛下の態度は、何十年この方全然変わっていないんですよ」

陛下と常陸宮さま(独身時代)

◉多忙なご日常

即位されて以来、すでに半世紀近い歳月が流れた。激動の昭和と一口に言うが、最長の天皇在位記録を更新された陛下が、この長い期間に確立されてきた原則なのだと聞けば、眼鏡を新しいのに取り換えなさいと医者以外の者が進言しても、なかなか実現しないのが当然なのかも知れない。

だが、この数年間だけ取り上げてみても、陛下の公務は相当なハードスケジュールであった。いわゆる国事行為や内外賓客との接遇などを別にしても、万国博覧会や札幌オリンピックなど国家単位のメーンエベントや欧州ご訪問などの大事業、それに年に二回は必ず植樹祭と秋季国民体育大会を機会に行われる地方ご旅行…。このへんで一息入れて、眼鏡もきちんと度の合ったものを新調され、皇后さまとお二人で、須崎や那須御用邸の小道をゆっくり散歩していただきたい、と望むのは私一人ではないだろう。

(川上 徹=共同通信社会部記者・宮内庁担当)

陛下と生物学

「足でかせぐ」という表現がある。骨身を惜しまず、こつこつと努力を積み重ねることだが、海洋生物と山野の植物を対象とする天皇陛下の学問は、正しく陛下ご自身が〝足でかせいで〟こられた学問だと言ったら失礼に当たるだろうか。たとえば、陛下が他の学者と共同研究でまとめられた「那須の植物誌」に中の「ミヤマザクラ」の項は次のように記され、陛下の地道な努力をよく示している。

産地=黒尾谷岳、三斗小屋、沼原・麦飯坂間。花=5月21日(つぼみ)6月9〜12日に花があった。果実=7月29日、8月22日に果実があった。備考=那須地方では、沼原・麦飯坂間に多く、胸高直径約45cmの大木もある。

陛下の『自然』への愛着は、深くて持続的であり、陛下の学問上の業績は、何十年にもわたって繰り返されてきた自然との〝対話〟から生まれてきたものだ。新しい植物や海洋生物を求めて、もう何回、何十回と通ったことのある渓間の小道や湿原、それに葉山の沖に出かけ、いつも新しい気持ちで採集、観察される。

「私は小さいころから伊香保でチョウを取ったり、葉山の海で貝を採集するのが何より楽しみでした。〝三つ子の魂百まで〟というのでしょう」と以前記者団に語られたことがある。そんな陛下を本格的な生物学の世界にいざなったのが、学習院中等科時代、高輪御所内の御学問所（総裁、東郷平八郎海軍元帥）で博物学を担当した故服部広太郎理博だった。

　もともと好きな道——しかも服部博士という良き指導者を得て、陛下の生物学研究はめきめき上達した。十七歳の時、早くも新種発見の第一号を記録されている。沼津御用邸であらしのあった翌朝早く、波打際で貝や海藻を採集しておられると、変わったエビがとれた。参考書で調べたが、該当するものがなく、専門家の寺尾新博士に鑑定を依頼されたところ、深海に住むエビでいままで紹介されたことのない新種とわかった。同博士は大正九年、このエビに〝シンパシフェア・インペリアリス〟という学名をつけ、日本名を〝ショウジョウエビ〟と名づけて学界に発表した。

　ある意味で、天皇に私生活などない、というのが、この時代であった。だが、海辺で生物を探し、生物学御研究所で顕微鏡をのぞく時間こそ、このころの陛下が自分自身を取り戻されるひとときであったに違いない。昭和二年、軍艦「香取」で小笠原諸島のご視察中の陛下と、恩師服部博士の〝師弟〟の姿を甘露寺受長元侍従次長は次のように書き残している。

『あくる朝、お召し艦は父島を離れて母島へ向かった。陛下は内火艇（モーターボート）で近くの無人島へご上陸になった。そこでしばらく採集をされてから、海岸の砂の上に服部博士と腰を下ろされ、何か話を始められた。もちろん生物学上のお話だったろうが、それからそれへと深入りしていられるらしく、陛下も、博士も、手すさびに砂を掘られながら、いつまでもいつまでも、むつまじそうに話し込んでおられるのだった』

　〝軍国日本時代〟国策と無縁な生物学に打ちこまれる陛下の姿は、軍部にとって面白かろうはずがない。同じ小笠原では、陛下一行が採集したナマコやヒトデが積み上げられた艇を見た若い海軍士官が「こんなものを乗せる艇じゃないぞ」と聞こえよがしに大声をあげた話も伝わっている。大元帥たる方は学問する暇があったら軍務にご精励を願え——そうした声の高まりの中で陛下は、一週間に一度、土曜の午後に生物学御研究所へ行かれるのも大変なご遠慮で「これから研究所に行くが、用はないか」「何かあったらいつでも知らせてほしい」と念を押されたという。そして太平洋戦争中は、ほとんど研究所へはおいでにならなかった。

　戦後、再び公務の暇をみては海洋生物の分類学に取り組まれる日々が訪れた。ご静養先の那須御用邸を中心に、高原の植物記録をまとめ始められたのも、この時期に当たる。そして今では陛下自身による著者は三冊を数え、他の学者との共同研究三冊、陛下が採集された資料をもとに他の学者がまとめた図譜は七冊にも及んでいる。七十二歳の陛下の自然に対する情熱は、今も若々しい。四十七年の九月のこと、那須御用邸で記者団から「ことしの夏は、何か新しい収穫がありましたか」ときかれた陛下は、楽しそうな表情でこう答えられた。

『新しく見つけたのはランの一種であるヒトツブクロなど四種類です。特にヒトツブクロはこれまで何回も調べ、まさかあるとは思わなかったところで見つけたので大変うれしかった』

　自然の新しい素顔に触れるたびに、新鮮な喜びと驚きを示される陛下。だが、研究の成果については「研究というのは一生続けるものですから…」と、一学徒として、あくまでも謙虚である。

■生物学御研究所編書籍

▽天皇陛下のご著書

日本産一新属一新種の記載をともなうカゴメウミヒドラ科 Clathrozonidae のヒドロ虫類の検討　42・2・15　保育社

天草諸島のヒドロ虫類　44・9・30　保育社

カゴメウミヒドラ Clathrozoon wilsoni Spencer に関する追補　46・9・26　保育社

▽陛下が他の学者との共同研究の結果をまとめられたもの

那須の植物　37・4・29　三省堂

同追補　38・8　三省堂

那須の植物誌　47・3・1　保育社

▽陛下が採集された資料をもとに他の学者がまとめたもの

相模湾産後鰓類図譜　大阪学芸大馬場菊太郎教授解説　24・9・25　岩波書店

同補遺　30・4・29　解説同右　岩波書店

相模湾産海鞘類図譜　京大時岡隆教授　28・6・30　岩波書店

増訂那須産変形菌類図説　理学博士服部広太郎　39・10・30　三省堂

相模湾産蟹類　横浜国大酒井恒教授　40・4・29　丸善

相模湾産ヒドロ珊瑚類および石珊瑚類　東北大江口元起教授　43・4・29　丸善

相模湾産貝類　黒田徳米、波部忠重、大山桂　46・9・27　丸善

陛下とスポーツ

乗馬は陛下お得意のひとつ

「スケート以外はなんでもやったが、広くやっただけで、一つもものになったものはないね」

天皇陛下は、こんなにおっしゃって、声をたてて笑われた。昭和二十二年五月三日、宮内記者会のメンバーが皇居でお会いした時である。記者団から、どんな運動をしていらっしゃるかをうかがったのに対するお答えだが、お若いころは、なかなかのスポーツマンだった。

皇太子時代の外遊で、初めてゴルフをご覧になられ、ご帰国の翌年である大正十一年四月、英国のウェールズ親王と一緒に駒沢ゴルフ場でプレーされた。最初はなかなか球に当たらず、〝空振り〟もあったようだが、赤坂離宮、新宿御苑、吹上御所や那須御用邸にも9ホールのコースをつくって楽しまれた。ご結婚後、皇后さまも始められ、なかなかお上手だったという。しかし、昭和十二年六月、日中戦争が始まる前月、陛下は「人手が不足しているので、コースの芝の手入れはしないように」と侍従におっしゃった。それ以後、クラブを握られたことはない。

テニスに興ぜられるご一家（昭和二十六年）

テニスもお好きだったスポーツの一つ。皇后さまとネットをはさんで打ち合われる姿は、ご結婚直後からよく見かけたし、戦後も、皇太子さまを相手によくプレーされていた。

スキーは、やはり皇太子時代に始められ、赤坂御苑の小高い丘で滑っておられた。雪が降る庭を窓越しにご覧になっては「きょうはできるかね」と、侍従に話しかけて、さっそくスキー用具を取り出されたそうだ。

水泳は学習院初等科時代から小堀流の泳法を習われ、馬術も七歳から始められ、オリンピックに出場した遊佐中佐が指導したこともあり、障害飛越もお得意だった。

だが、陛下とスポーツといえば、なんといっても相撲。初等科のころから押し相撲が得意で、いまも大相撲で押し相撲に徹した力士がお好きなようだ。テレビ番組でも欠かさずご覧になるのが大相撲の実況中継だが、中入り後、相当取り組みが進んでからでないとスイッチを入れられない。「まだ、国民が働いている時間なのに早くから毎日楽しんでは…」というご遠慮からだという。

一度、初等科のころ、本場所を国技館でご覧になったことがあるが、終戦までは皇居などに力士を呼んでの〝天覧相撲〟を見ておられた。しかし、昭和三十年五月、蔵前の国技館へ行かれてからはほとんど毎年、夏場所は一日だけご覧になる。館内を埋めた観衆のどよめきの中で、陛下は実に楽しそうで、ぐっと体を乗り出しての観戦ぶりである。よほど相撲の観戦がお好きなのだろう。

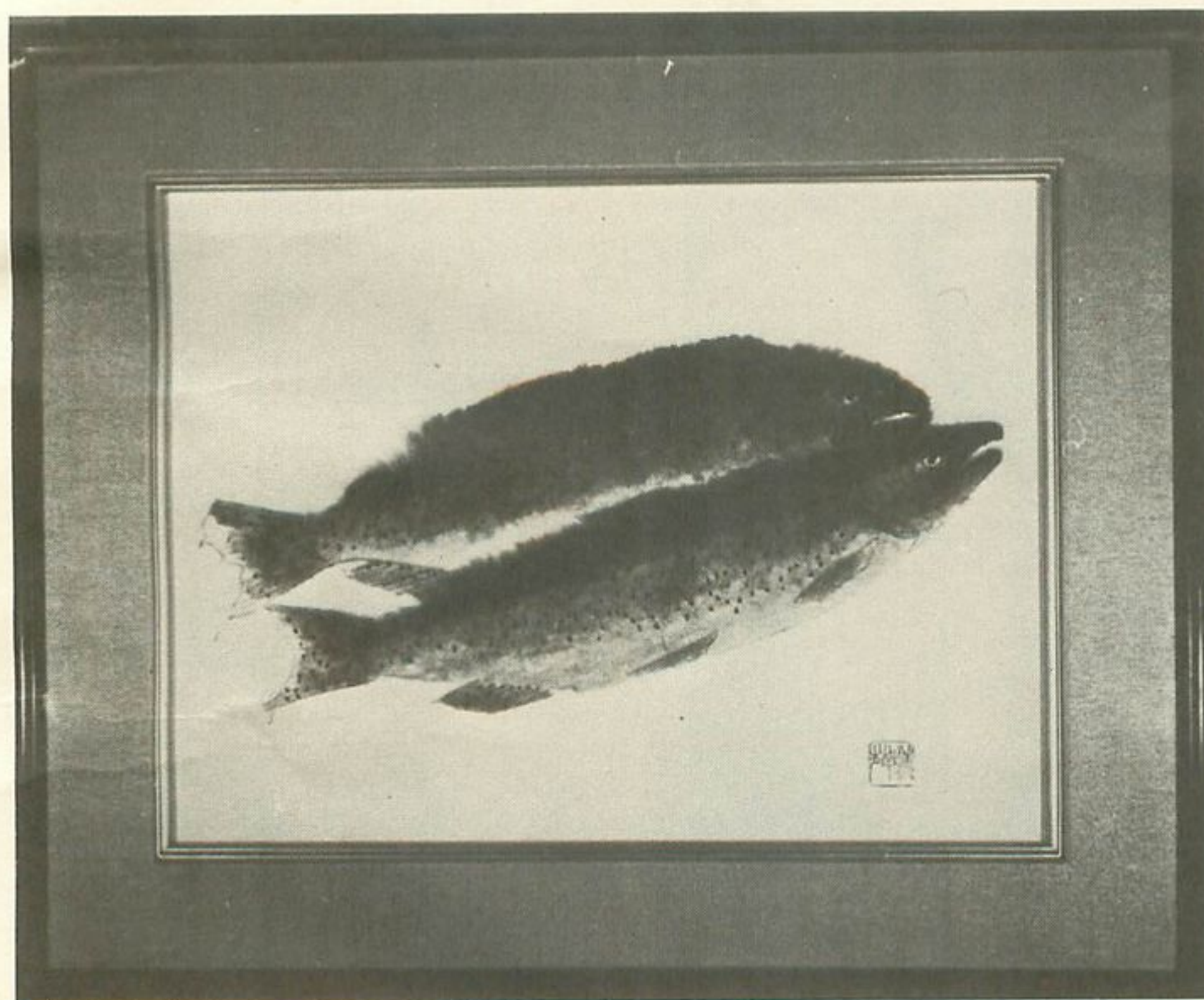
戦後、初めて国技館でご覧になったあと、この一首をお詠みになっている。

ひさしくも見ざりし相撲ひとびとと
手をたたきつつ見るが楽しき

皇后さまと絵

「桃苑」という雅号を持っておられる皇后さまの日本画は、四十八年秋に古希をお祝いして東京・上野の日本芸術院会館で開かれた「皇后さまの絵と書展」を機会に、すっかり有名になってしまった。皇后さまの画風は「素人らしいおおらかさが良い」と専門家の間でも好評。作品の中に「初夏」という題のタケノコを扱った小品があるが、皇后さまはこれを描き上げられたとき、タケノコの根の部分を暗い紅色をあしらって縁取りをされている。その着想に感心したお師匠さんの前田青邨画伯「なるほど面白いやり方だ」と自分でもやってみたが、どうも思うようにいかず、とうとうカンシャクを越こしてしまった、というエピソードもある。

あまり凝った題材はお取り上げにならない。葉山や那須、さらに最近では須崎など、御用邸の周辺で見聞された自然が皇后さまの画材には多い。温室で栽培される観葉植物などはあまり好まれず、その土地に自然に生育する植物に強い興味を示される天皇陛下の趣味にどこか相通じるものがある。

皇后さまの絵の修業が始まったのは高取熊夫に師事した十七歳の時。しかしすぐ中断され、その後二十年にわたって再開されなかった事実は意外に知られていない。昨春、古希を迎えられたとき「それにつけても戦争から戦後にかけて陛下のご心痛の有様を拝見しているときほど辛いことはありませんでした」と述懐されている。日赤名誉総裁として戦病者、負傷者を見舞ったり、戦局の進展につれて心身ともに疲労しきった天皇陛下のアシスタントとしての厳しい毎日が、皇后さまに好きな絵筆をとることを許さなかった。故川合玉堂に師事、絵を手がけられたのは、戦後しばらくたってからだった。

皇后さまの近作の多くは、夫婦そろって健康に暮らしておられる日常を反映してか、明るく穏やかな光に包まれたものが多い。展覧会を見たある人が「幸せな家庭を営んでいる人の絵だな」と評したものだ。

毎年秋に宮内庁では皇后さまをはじめ浩宮、礼宮さまら皇族の美術作品が、一般職員の作品とともに出品される「文化祭」が開かれているが、皇后さまの日本画は、毎年職員たちの人気の的になる。ここ二、三年の間で一番力作だと評判になったのは、ベルギーの復活祭の舞踊「ジル」の踊り子をかたどった人形を写生したものだった。四十六年秋、天皇陛下とベルギー南部のシャルルロワ市を訪問されたとき、市民たちの踊る「ジル」をご覧になったあと、娘さんからプレゼントされた懐しい人形だった。

あどけない人形の表情を穏やかな色のハーモニーの中に浮き上がらせたその絵の題は、天皇陛下と初めて過ごされた海外の旅をいつくしむように「旅の思い出」とつけられてあった。

皇后さまのモード

■おすべらかしからパンタロンまで■

皇后さまのお写真を見ていると、その時代々々の流行がうかがえるだけでなく、皇室の姿を反映しているように思えて、なかなか興味深い。

ご結婚当日は、美智子妃のご正装同様、神前では五衣、唐衣、裳の装束に髪はおすべらかし、そして洋装はローブ・デコルテ。太平洋戦争中は、洋服と宮中服で、和服を着られたことはなかった。宮中服は、モンペに似たスソの長い〝戦時服〟で、皇后さまや各妃殿下がご相談の結果、古い着物を仕立て直して作られたものだった。

終戦後もしばらくの間は、この宮中服と和服で通された。「資源が乏しくなっているので、大切にして古い洋服を作り替えています。宮中服だと一反できます。それに少し派手になったものでも、宮中服に仕立て直せば、ちょうどよいのでそうしています」。昭和二十二年六月、宮内記者団の質問に皇后さまは、こう答えられている。皇室にとって戦後最初のご婚儀は、二十五年五月に挙げられた第三皇女、孝宮和子さまと鷹司平通氏の結婚式だが、この時の皇后さまは、やはり宮中服だった。

和服を着られるようになったのは二十七年、日本が独立した年からである。陛下が「一般国民はもう平服になっている。良宮だけが戦時服ではいけない。和服でおかしいというのでなかったら、それを考えてはどうか」といわれた。このお言葉がきっかけで、皇后さまが初めて和服を着られたが、公式には二十七年三月二十七日、連合軍最高司令官リッジウェイ大将夫妻を皇居に招かれたときである。藤ネズミ色に地紋は立浦、菊の三つ紋付き。国民が直接見たのは翌二十八年一月の一般参賀である。初め皇后さまは洋服を予定されていたが、陛下のおすすめで和服にされた。その時の金茶鳩模様の着物に濃紺地に白丸菊模様の帯の和服はよくお似合いだった。

その後、日本画を描かれる皇后さまは、自分で着物の模様をデザインされたこともあるが、こんなエピソードもある。あるとき、鳩を下絵に描かれたところ、「空を飛ぶ時、鳥の足はそんな格好をしてないよ」と〝科学天皇〟が指摘されたそうである。

宮中服を召された皇后さま

日本国憲法（抜粋）

第一章　天皇

第一条〔天皇の地位・国民主権〕
天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。

第二条〔皇位の継承〕
皇位は、世襲のものであつて、国会の議決した皇室典範の定めるところにより、これを継承する。

第三条〔天皇の国事行為に対する内閣の助言と承認〕
天皇の国事に関するすべての行為には、内閣の助言と承認を必要とし、内閣が、その責任を負ふ。

第四条〔天皇の権能の限界、天皇の国事行為の委任〕
① 天皇は、この憲法の定める国事に関する行為のみを行ひ、国政に関する権能を有しない。
② 天皇は、法律の定めるところにより、その国事に関する行為を委任することができる。

第五条〔摂政〕
皇室典範の定めるところにより摂政を置くときは、摂政は、天皇の名でその国事に関する行為を行ふ。この場合には、前条第一項の規定を準用する。

第六条〔天皇の任命権〕
① 天皇は、国会の指名に基いて、内閣総理大臣を任命する。
② 天皇は、内閣の指名に基いて、最高裁判所の長たる裁判官を任命する。

第七条〔天皇の国事行為〕
天皇は、内閣の助言と承認により、国民のために、左の国事に関する行為を行ふ。
一　憲法改正、法律、政令及び条約を公布すること。
二　国会を召集すること。
三　衆議院を解散すること。
四　国会議員の総選挙の施行を公布すること。
五　国務大臣及び法律の定めるその他の官吏の任免並びに全権委任状及び大使及び公使の信任状を認証すること。
六　大赦、特赦、減刑、刑の執行の免除及び復権を認証すること。
七　栄典を授与すること。
八　批准書及び法律の定めるその他の外交文書を認証すること。
九　外国の大使及び公使を接受すること。
十　儀式を行ふこと。

大日本帝国憲法（抜粋）

第一章　天皇

第一条　大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第二条　皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ継承ス
第三条　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
第四条　天皇ハ国ノ元首ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ条規ニ依リ之ヲ行フ
第五条　天皇ハ帝国議会ノ協賛ヲ以テ立法権ヲ行フ
第六条　天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
第七条　天皇ハ帝国議会ヲ召集シ其ノ開会閉会停会及衆議院ノ解散ヲ命ス
第八条　天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル為緊急ノ必要ニ由リ帝国議会閉会ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ発ス
此ノ勅令ハ次ノ会期ニ於テ帝国議会ニ提出スヘシ若議会ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ将来ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
第九条　天皇ハ法律ヲ執行スル為ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル為ニ必要ナル命令ヲ発シ又ハ発セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ変更スルコトヲ得ス
第十条　天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ条項ニ依ル
第十一条　天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
第十二条　天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
第十三条　天皇ハ戦ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ条約ヲ締結ス
第十四条　天皇ハ戒厳ヲ宣告ス
戒厳ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
第十五条　天皇ハ爵位勲章及其ノ他ノ栄典ヲ授与ス
第十六条　天皇ハ大赦特赦減刑及復権ヲ命ス
第十七条　摂政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
摂政ハ天皇ノ名ニ於テ大権ヲ行フ

年表

一九〇一年　明治三十四年
4・29　皇太子嘉仁親王第一皇子ご誕生
5・5　迪宮裕仁親王とご命名
7・7　ご養育掛川村純義伯爵邸へご移転
◉国内
5・2　第四次伊藤博文内閣総辞職
6・2　第一次桂太郎内閣成立

一九〇二年　明治三十五年
6・25　淳宮雍仁親王（秩父宮）ご誕生
◉国内
1・30　第一回日英同盟協約調印

一九〇三年　明治三十六年

●海外
1　シベリア鉄道完成
3・6　久邇宮邦彦王第一女子良子女王ご誕生

一九〇四年　明治三十七年

11・9　川村伯死去により裕仁親王、沼津御用邸へ、のち青山御所にご転居
●国内
2・10　日露戦争開始

一九〇五年　明治三十八年

1・3　光宮宣仁親王（高松宮）ご誕生
●国内
1・1　旅順開城
5・27　日本海海戦
9・5　日露講和条約（ポーツマス条約）調印、日比谷焼き打ち事件

一九〇六年　明治三十九年

●国内
1・7　第一次西園寺公望内閣成立
1・28　日本社会党結成
6・1　樺太北緯五〇度以南をロシアから受領

一九〇七年　明治四十年

●国内
3・21　義務教育年限を六年に延長する小学校令改正
7・30　第一回日露協約調印

一九〇八年　明治四十一年

4・11　裕仁親王、学習院初等科ご入学（学習院院長乃木希典）
●国内
7・14　第二次桂内閣成立

一九〇九年　明治四十二年

●国内
10・26　伊藤博文、ハルピン駅で暗殺される

一九一〇年　明治四十三年

●国内
3・13　立憲国民党創立
5・25　大逆事件検挙始まる
8・22　韓国併合に関する条約調印
8・29　朝鮮総督府設置
●海外
4・6　米探検家ペアリー、北極探検に成功
5・7　英国ジョージ五世即位

一九一二年　明治四十五年

7・30　明治天皇崩御、皇太子嘉仁親王践祚、「大正」と改元、裕仁親王、皇太子に
9・9　皇太子、陸海軍少尉にご任官
10・10　皇太子、学習院初等科五年の修学旅行で茨城県水戸市へ
11・12　皇太子、観艦式のため横浜市へ
●国内
9・13　明治天皇ご大葬、乃木希典夫妻殉死
12・21　第三次桂内閣成立
●海外
1・1　孫文、中華民国臨時大統領に就任

一九一三年　大正二年

3・28　皇太子、京都、名古屋、静岡県沼津市をご旅行、京都市内の古社寺、第一六師団ご見学（〜4・4）
11・8　皇太子、学習院初等科六年修学旅行で千葉県佐原、香取へ
11・30　皇太子、横須賀で軍艦金剛にご乗艦
●国内
2・20　第一次山本権兵衛内閣成立
2・23　尾崎行雄ら政友倶楽部結成
12・23　立憲同志会結成

一九一四年　大正三年

3・17　皇太子、江田島海軍兵学校ご訪問（〜28）
4・2　皇太子、学習院初等科ご卒業
4・11　昭憲皇太后崩御
5・4　東宮御学問所開始（総裁東郷平八郎元帥）
7・3　皇太子、京都・桃山陵ご参拝（〜6）
10・30　皇太子、陸海軍中尉にご昇進
11・16　皇太子、千葉県下で近衛師団機動演習ご視察
●国内
1・23　シーメンス事件起こる
4・16　第二次大隈重信内閣成立
8・23　ドイツに宣戦布告
11・7　青島占領
●海外
7・28　オーストリア、セルビアに宣戦布告、第一次世界大戦始まる

一九一五年　大正四年

4・15　皇太子、京都・桃山陵、奈良・畝傍陵、法隆寺などご見学、ご参拝（〜21）
6・6　皇太子、横須賀で軍艦榛名ご乗艦
7・5　皇太子、伊勢神宮ご参拝、名古屋で一泊（〜6）
10・1　皇太子、伊勢湾での第一艦隊演習をご視察
11・7　皇太子、大正天皇即位の大礼ご参列のため京都へ（〜12）
12・2　澄宮崇仁親王（三笠宮）ご誕生
12・4　皇太子、観艦式ご視察のため横浜へ

一九一六年　大正五年

4・2　皇太子、神戸市・武庫離宮へ（〜8）
5・21　皇太子、横須賀海軍工廠ご視察
7・3　皇太子、北陸沿海での第一艦隊演習にご出発（〜11）
10・31　皇太子、陸海軍大尉にご昇進
11・3　皇太子裕仁親王、立太子礼挙行
●国内
10・9　寺内正毅内閣成立
10・10　憲政会結成

一九一七年　大正六年

5・4　皇太子、奈良へ（〜11）
7・3　皇太子、山陰地方へご出発、出雲大社、松江旧城天守閣などご見学（〜13）
10・21　皇太子、千葉県津田沼、船橋へ
11・12　皇太子、埼玉県熊谷市で近衛師団機動演習ご視察
11・17　皇太子、横浜港へ
●国内
3・14　室蘭日本製鋼所で賃上げスト
9・12　金輸出禁止
●海外
3・15　ロシア、ロマノフ王朝倒れる
4・6　米、独に宣戦布告
11・7　ロシア革命、ソビエト政権成立

一九一八年　大正七年

1・17　久邇宮良子女王、東宮妃に内定
4・1　皇太子、名古屋城天守閣、滋賀県公会堂、京都・仁和寺などご見学のためご出発（〜8）
6・10　皇太子、伊豆大島沿海での第一艦隊演習をご視察（〜11）
6・23　皇太子、横須賀・海軍機関学校ご視察
7・1　皇太子、東北地方に軍艦鹿島でご旅行（5、6盛岡、7〜9仙台に各お泊まり）
10・2　皇太子、愛知県豊橋市へ（〜5）
10・12　皇太子、横浜で連合艦隊ご視察
●国内
4　尋常小学校国語読本（ハナハト）発行
8・3　富山県で米騒動、全国に波及
9・3　武者小路実篤ら「新しき村」建設着手
9・29　原敬内閣成立
●海外
11・11　第一次世界大戦終わる

一九一九年　大正八年

4・9　皇太子、神奈川県久里浜の海軍水雷学校ご視察
5・7　皇太子、ご成年式（一八歳）

5・19　皇太子、成年式報告のため桃山陵、伊勢神宮ご参拝（〜29）
6・10　皇太子、良子女王ご婚約成立
7・4　皇太子、長野県下ご視察（〜6）
7・11　皇太子、横須賀で潜水艦ご視察
10・22　皇太子、兵庫県須磨地方での陸軍特別大演習をご視察（〜27、11・9〜16）
11・19　皇太子、下志津の近衛師団機動演習をご視察

◉国内
1・5　女優松井須磨子自殺
2・15　普通選挙運動拡大
3・1　朝鮮各地で独立運動（万歳事件）

◉海外
1・18　パリ講和会議開催
6・28　ベルサイユ条約調印

一九二〇年　大正九年

3・23　皇太子、九州各県ご旅行へ（〜4・5）
4・17　皇太子、横須賀で第一艦隊をご視察
5・31　皇太子、横須賀で戦艦陸奥進水式にご臨席
7・3　皇太子、東京帝国大学へ
10・4　皇太子、陸軍特別大演習のため大分県へ（〜18）
10・31　皇太子、陸海軍少佐にご昇進

◉国内
2・5　八幡製鉄所、ストで溶鉱炉の火落とす
5・2　東京・上野公園で日本最初のメーデー
10・1　第一回国勢調査（内地五五九六万三〇五三人）

◉海外
11・15　第一回国際連盟総会開催

一九二一年　大正十年

2・10　宮内省、宮中某重大事件につき皇太子妃のご婚約に変更なしと発表
2・13　皇太子、横須賀で戦艦長門をご視察
2・22　皇太子、ご外遊報告のため桃山陵、伊勢神宮ご参拝（〜24）
2・28　皇太子、東宮御学問所ご終業
3・3　皇太子、横浜港から欧州巡遊にご出発（〜9・3）
9・4　皇太子、大正天皇に帰国報告のため日光御用邸へ（〜6）
9・11　皇太子、帰国報告で伊勢神宮ご参拝
10・31　皇太子、代々木練兵場の観兵式へ
11・14　皇太子、静岡県下での陸軍特殊演習へ（〜14）
11・16　皇太子、神奈川県下で陸軍特別大演習ご視察（〜19）
11・21　皇太子、代々木練兵場の陸軍大演習・観兵式へ
11・25　皇太子、摂政にご就任
12・6　皇太子、高輪御所から霞ケ関離宮（東宮仮御所）にご移転

◉国内
7・7　神戸川崎、三菱両造船所スト、軍隊出動（14）
11・4　原首相、東京駅で刺殺される
11・13　高橋是清内閣成立
12・10　日英同盟廃棄

◉海外
7・1　中国共産党結成
11・12　ワシントン軍縮会議開催

一九二二年　大正十一年

3・27　皇太子、平和博覧会をご視察
4・15　皇太子、来日中のウェールズ英皇太子（ウィンザー公）と代々木練兵場での観兵式へ
6・18　皇太子、霞ケ浦の海軍航空術講習本部へ
6・20　皇太子と良子女王のご結婚勅許
7・6　皇太子、北海道をご旅行（〜24）
7・29　皇太子、桃山陵での明治天皇十年式年祭のため京都へ（〜30）
9・28　皇太子、良子女王の納采の儀
10・3　皇太子、山梨県下をご旅行（〜7）
10・15　皇太子、静岡県御殿場での陸軍陣地攻防演習へ
11・12　皇太子、香川県下での陸軍特別大演習、四国各地をご視察（〜12・3）

◉国内
2・6　ワシントン軍縮条約調印
6・12　加藤友三郎内閣成立
7・15　日本共産党結成

◉海外
10・28　伊・ムッソリーニ内閣成立
12・30　ソ連邦樹立宣言

一九二三年　大正十二年

4・12　皇太子、台湾ご旅行へ（〜5・1）
7・27　皇太子、富士登山
9・2　赤坂離宮で新内閣親任式
9・15　皇太子、東京の関東大震災被災地をご視察（18）
9・19　ご結婚延期を発表
10・10　皇太子、横浜の被災地をご視察
10・31　皇太子、陸海軍中佐にご昇進
11・18　皇太子、千葉県習志野・陸軍騎兵学校へ
12・27　帝国議会にご臨席の途中、難波大助が皇太子に発砲、虎の門事件起こる

◉国内
2・20　丸ビル完成
9・1　関東大震災、東京に戒厳令（2）
9・2　第二次山本内閣成立
9・16　甘粕憲兵大尉、大杉栄、伊藤野枝らを殺害（甘粕事件）

一九二四年　大正十三年

1・8　皇太子、代々木練兵場の観兵式へ
1・26　皇太子、久邇宮良子女王とご結婚、赤坂離宮、東宮仮御所となる
2・22　皇太子、同妃両殿下、結婚報告のため伊勢神宮、桃山陵ご参拝（〜28）
6・5　両殿下、二重橋前の東京市ご成婚大奉祝会へ
8・3　両殿下、日光、福島県翁島へご旅行（〜29）
11・1　皇太子、石川県金沢市を中心にした陸軍特別大演習と北陸地方をご視察（〜11）
11・28　皇太子、霞ケ浦海軍航空隊へ

◉国内
1・7　清浦奎吾内閣成立
1・10　第二次護憲運動始まる
1・16　政友会分裂、政友本党結成（29）
6・11　加藤高明護憲三派内閣成立

◉海外
1・21　レーニン没

一九二五年　大正十四年

5・15　皇太子、京都、大阪地方へ（〜20）
5・24　皇太子、渡米の秩父宮を横浜港でお見送り
7・12　皇太子、江田島・海軍兵学校卒業式ご臨席、佐伯湾で連合艦隊をご視察（〜17）
8・5　皇太子、樺太へ（〜17）
10・11　皇太子、東北地方ご視察と宮城県を中心にした陸軍特別大演習のため山形、秋田、宮城各県へ（〜24）
10・31　皇太子、陸海軍大佐にご昇進
12・6　皇太子第一皇女ご誕生、照宮成子とご命名

◉国内
1・20　日ソ基本条約調印
3・1　東京放送局試験放送開始
5・5　普通選挙法公布
5・11　治安維持法施行
8・2　加藤高明憲政会内閣成立
12・1　農民労働党結成、即日解散

◉海外
3・12　孫文没
5・30　上海で五・三〇事件起こる

一九二六年　大正十五年

5・19　皇太子、中国地方ご旅行で岡山、広島、山口各県へ（〜6・1）
10・28　皇太子、千葉県立園芸学校、陸軍松戸工兵隊へ
12・25　大正天皇崩御、御年四七歳、皇太子践祚
12・25　年号を「昭和」と改元

◉国内
1・30　第一次若槻礼次郎内閣成立
3・5　労働農民党結成

◉海外
7・27　蔣介石、北伐宣言

一九二七年　昭和二年

4・16　天皇、横須賀での軍艦妙高進水式にご臨席
7・19　天皇、神奈川県相武台・陸軍士官学校卒業式にご臨席
7・28　天皇、小笠原、鹿児島、佐伯、奄美大島での連合艦隊訓練をご視察（〜8・10）
9・10　天皇第二皇女ご誕生、久宮祐子とご命名
9・18　天皇、富士山ろくの陸軍特別陣地攻防演習をご視察（〜19）
10・20　天皇、本州南方海上での海軍特別大演習をご視察（〜25）
10・30　天皇、横浜港外での大観艦式をご親閲
11・13　天皇、愛知県下での陸軍特別大演習をご統監

◉国内
3・1　全日本農民組合結成
3・15　金融恐慌始まる

- 4・20 田中義一内閣成立
- 5・28 第一次山東出兵
- 6・1 立憲民政党結成

◉海外
- 4・12 蒋介石、上海クーデター成功
- 5・21 米リンドバーグ大尉、大西洋無着陸横断飛行に成功

一九二八年 昭和三年

- 3・8 久宮祐子内親王ご死去
- 5・24 天皇、神奈川県下の東京湾要さいご視察
- 9・28 秩父宮雍仁親王、松平勢津子姫とご結婚
- 10・1 天皇、東京地方裁判所へ
- 10・4 天皇、岩手県での陸軍特別大演習をご統監
- 11・6 両陛下、即位の大礼で京都、三重、奈良へ（〜27）
- 11・10 京都御所紫宸殿で即位の大礼
- 12・2 天皇、代々木練兵場の大観兵式をご観閲
- 12・4 天皇、横浜港沖の大礼特別観艦式をご観閲

◉国内
- 3・15 社会主義者大量検挙
- 4・19 第二次山東出兵
- 5・9 第三次山東出兵
- 6・4 奉天で張作霖爆死事件起こる
- 6・29 緊急勅令で治安維持法強化
- 7・3 特別高等警察課全国に設置
- 8・27 東京―大阪間に初の旅客空輸
- 12・20 日本大衆党結党

◉海外
- 10・8 蒋介石、国民政府主席に就任
- 12・29 国民政府、中国を統一

一九二九年 昭和四年

- 1・8 天皇、代々木練兵場の陸軍始観兵式をご観閲
- 1・27 皇后の父久邇宮邦彦王ご死去
- 4・23 天皇、横浜市の震災復興状況ご視察
- 5・28 天皇、大阪、神戸両市ご視察。途中、大島、八丈島、和歌山にお立寄り（〜6・9）
- 9・30 天皇第三皇女ご誕生、孝宮和子とご命名
- 11・14 天皇、茨城県水戸地方での陸軍特別大演習をご統監。県下および霞ヶ浦海軍航空隊ご視察（〜21）

◉国内
- 3・5 山本宣治刺殺される
- 4・16 社会主義者大量検挙
- 7・2 浜口雄幸内閣成立
- 8・19 独飛行船ツェッペリン号来日

◉海外
- 10・24 ニューヨーク株式市場大暴落、世界恐慌

一九三〇年 昭和五年

- 2・4 高松宮宣仁親王、徳川喜久子姫とご結婚
- 3・24 天皇、東京をご視察
- 5・28 天皇、静岡県下をご視察（〜6・3）
- 10・18 天皇、神戸沖の観艦式、海軍兵学校視察などのため神戸、江田島へ（〜27）
- 11・12 天皇、岡山での陸軍特別大演習をご統監、岡山、広島両県下をご視察（〜21）

◉国内
- 9・10 米価大暴落
- 11・14 浜口首相、東京駅でそ撃される

一九三一年 昭和六年

- 3・7 天皇第四皇女ご誕生、順宮厚子とご命名
- 11・8 天皇、熊本での陸軍特別大演習ご統監をかね、熊本、鹿児島両県へ（〜21）

◉国内
- 4・14 第二次若槻内閣成立
- 9・18 柳条溝事件をきっかけに満州事変突発
- 10・24 国際連盟、日本の満州撤兵勧告案を可決
- 12・13 犬養毅内閣成立

一九三二年 昭和七年

- 11・10 天皇　近畿地方での陸軍特別大演習ご統監のため大阪、京都、奈良へ（〜17）

◉国内
- 1・28 第一次上海事変起こる
- 2・9 井上前蔵相暗殺される
- 3・1 満州国建国宣言発表
- 3・5 団琢磨暗殺される（血盟団事件）
- 5・15 五・一五事件、陸海軍将校ら首相官邸など襲撃、犬養首相を射殺
- 5・26 斉藤実内閣成立
- 9・15 満州国承認

◉海外
- 4・7 リットン調査団、満州事変を実地調査

一九三三年 昭和八年

- 8・16 天皇、横須賀にて海軍特別大演習をご統監
- 8・25 天皇、横浜港沖の観艦式をご観閲
- 10・22 天皇、陸軍特別大演習ご統監のため京都、福井へ（〜31）
- 12・23 皇太子ご誕生、継宮明仁とご命名

◉国内
- 2・20 小林多喜二、築地署で虐殺される
- 3・28 日本、国際連盟脱退
- 5・10 京大滝川事件起こる
- 6・19 丹那トンネル開通
- 7・11 神兵隊事件発覚

◉海外
- 1・30 ドイツ、ヒトラー内閣成立
- 10・14 ドイツ、国際連盟脱退
- 11・17 米ソ国交回復

一九三四年 昭和九年

- 11・10 天皇、陸軍特別大演習ご統監をかね群馬、栃木、埼玉各県へ（〜18）
- 11・20 天皇、横須賀での軍艦鈴谷命名式にご臨席

◉国内
- 7・8 岡田啓介内閣成立
- 10・1 陸軍省「国防の本義と其強化の提唱」発表
- 12・29 政府、ワシントン海軍軍縮条約廃棄を通告

◉海外
- 8・2 ヒトラー総統となる
- 9・18 ソ連、国際連盟に加盟

一九三五年 昭和十年

- 11・8 天皇、陸軍特別大演習ご統監をかね鹿児島、宮崎両県ご視察（〜21）
- 11・28 天皇第二皇子ご誕生、義宮正仁（常陸宮）とご命名

◉国内
- 2・25 美濃部達吉、天皇機関説問題につき貴族院で弁明
- 8・12 陸軍省軍務局長永田鉄山、相沢中佐に刺殺される

◉海外
- 3・16 ドイツ再軍備宣言
- 12・9 ロンドン軍縮会議開催

一九三六年 昭和十一年

- 9・24 天皇、陸軍特別大演習統監をかね北海道各地をご視察（〜10・12）
- 10・21 天皇、海軍特別大演習をご統監、海軍兵学校視察及び観艦式観閲のため本州南方海面、江田島、阪神沖へ（〜30）

◉国内
- 2・26 二・二六事件、皇道派青年将校がクーデターを企て、下士官兵千四百人を引率、斉藤内大臣、高橋蔵相、渡辺教育総監を殺害。27 東京市に戒厳令施行、29・反乱軍帰順
- 3・9 広田弘毅内閣成立
- 4・24 内務省、メーデー禁止を通達
- 11・25 日独防共協定調印

◉海外
- 7・17 スペイン内乱
- 12・5 ソ連、スターリン憲法採択
- 12・10 英エドワード八世（ウィンザー公）退位

一九三七年 昭和十二年

- 12・20 天皇、陸軍士官学校（神奈川）へ

◉国内
- 1・21 浜田国松、衆院で軍部攻撃演説
- 2・2 林銑十郎内閣成立
- 6・4 第一次近衛文麿内閣成立
- 7・7 蘆溝橋事件、日中戦争始まる
- 12・13 南京陥落、大虐殺事件

◉海外
- 9・25 中国、国共合作なる

一九三八年 昭和十三年

- 8・11 天皇、横須賀海軍航空廠、木更津海軍航空隊へ
- 10・10 天皇、熊谷陸軍飛行学校へ

◉国内
4・1 国家総動員法公布
◉海外
10・21 広東陥落
10・1 ドイツ軍、ズデーテン進駐

一九三九年 昭和十四年

3・2 天皇第五皇女ご誕生、清宮貴子とご命名
3・14 天皇、臨時東京第三陸軍病院（神奈川県）へ
4・27 天皇、陸軍航空士官学校（埼玉県）卒業式にご臨席
7・7 天皇、陸軍士官学校（神奈川県）卒業式にご臨席
7・21 天皇、連合艦隊訓練をご視察
11・8 天皇、静岡県富士山ろくでの近衛師団演習をご視察（～10）
◉国内
1・5 平沼騏一郎内閣成立
4・30 政友会分裂
5・11 ノモンハン事件起こる
7・8 国民徴用令公布
8・30 阿部信行内閣成立
10・18 価格等統制令公布
◉海外
8・23 独ソ不可侵条約調印
9・1 ドイツ軍、ポーランド侵入
9・3 英・仏、ドイツに宣戦布告、第二次世界大戦突発

一九四〇年 昭和十五年

2・27 天皇、陸軍士官学校（神奈川）卒業式にご臨席
6・9 天皇、紀元二千六百年記念で伊勢神宮、畝傍陵などご参拝のため京都、奈良、三重各府県へ（～13）
9・4 天皇、陸軍士官学校（神奈川）卒業式にご臨席
10・8 天皇、東京帝国大学へ
10・11 天皇、横浜港沖での紀元二千六百年特別観艦式をご観閲
11・10 天皇、皇居前での紀元二千六百年記念式典にご出席
◉国内
1・16 米内光政内閣成立
1・26 日米通商航海条約失効
7・6 社会大衆党解党、（7・16 政友会・久原派 7・30 政友会・中島派、8・15 民政党相次いで解党）
9・23 北部仏印進駐開始
10・12 大政翼賛会発会式
11・2 国民服令公布
11・23 大日本産業報国会創設
◉海外
6・10 イタリア、英・仏に宣戦布告
6・14 ドイツ軍、パリ入城
9・7 ドイツ空軍、英本土空襲

一九四一年 昭和十六年

3・28 天皇、陸軍航空士官学校（埼玉県）卒業式にご臨席
10・22 三笠宮崇仁親王、高木正得第二女子百合子姫とご結婚
12・1 御前会議で対米・英・オランダ開戦を決定
◉国内
4・13 日ソ中立条約調印
7・18 第三次近衛内閣成立
10・15 ゾルゲ事件起こる
10・18 東条英機内閣成立
11・5 対米交渉最終案、帝国国策遂行要領を決定
12・8 太平洋（大東亜）戦争突発、対米・英宣戦布告
◉海外
12・25 香港陥落
12・11 独・伊、アメリカに宣戦布告

一九四二年 昭和十七年

3・27 天皇、陸軍航空士官学校（埼玉県）卒業式にご臨席
7・13 天皇、霞ケ浦、土浦で第十一連合航空隊をご視察
7・21 天皇、陸軍宇都宮飛行場ご視察
12・11 天皇、伊勢神宮、桃山陵ご参拝（～13）
12・12 天皇、陸軍士官学校（神奈川県）卒業式にご臨席
◉国内
1・2 マニラ占領
2・15 シンガポール陥落
5・20 翼賛政治会創立
6・5 ミッドウェー海戦
8・7 米軍、反攻開始、ガダルカナル島上陸
◉海外
11・8 米・英軍、北アフリカ上陸
11・19 ソ連軍、スターリングラードで反撃開始

一九四三年 昭和十八年

6・24 天皇、横須賀海軍工廠で戦艦武蔵をご視察
12・9 天皇、陸軍予科士官学校（埼玉）をご視察
◉国内
4・18 連合艦隊司令長官山本五十六戦死
5・29 アッツ島日本守備隊全滅
7・1 東京都制実施
12・1 第一回学徒兵入隊（学徒出陣）
◉海外
1・14 米・英首脳、カサブランカ会談
9・8 イタリア、無条件降伏

一九四四年 昭和十九年

3・30 天皇、陸軍航空士官学校卒業式にご臨席
12・9 天皇、陸軍士官学校卒業式にご臨席
◉国内
7・7 サイパン島日本軍全滅
7・22 小磯国昭内閣成立
9・29 グアム島日本軍全滅
10・10 米機動部隊、沖縄攻撃
10・19 神風特別攻撃隊編成
11・24 B29、東京初空襲
◉海外
6・6 連合軍、ノルマンディー上陸（第二戦線結成）
8・25 連合軍、パリ解放

一九四五年 昭和二十年

3・10 天皇の初孫、東久邇信彦さん誕生
3・18 天皇、東京の戦災地をご視察
5・26 皇居内宮殿、空襲のため焼失
8・9 天皇、ポツダム宣言受諾をご決意
8・14 〝終戦の聖断〟再度下り「終戦の詔書」を録音
8・15 正午「終戦の詔書」放送される
9・27 天皇、連合軍最高司令官マッカーサー元帥ご訪問
11・12 天皇、桃山陵、伊勢神宮、畝傍陵を終戦報告のためご参拝（～15）
◉国内
3・17 硫黄島日本軍全滅
4・1 米軍、沖縄に上陸（6・21日本軍全滅）
4・7 鈴木貫太郎内閣成立
8・6 広島に原爆投下
8・8 ソ連、対日宣戦
8・9 長崎に原爆投下
8・15 無条件降伏、太平洋戦争終結
8・17 東久邇宮稔彦王内閣成立
8・28 占領軍第一陣本土上陸
9・2 降伏文書調印
10・9 幣原喜重郎内閣成立
11・2 日本社会党結成（9 日本自由党、16 日本進歩党相次いで結成）
◉海外
2・4 米・英・ソ首脳、ヤルタ会談
4・28 ムッソリーニ銃殺される
4・30 ヒトラー自殺
5・7 ドイツ軍、無条件降伏
10・24 国際連合正式発足

一九四六年 昭和二十一年

1・1 天皇、年頭詔書で〝人間宣言〟
2・19 天皇、初の戦災地ご視察で神奈川県川崎、横浜市へ（～20）
2・28 天皇、東京都旧区ご視察（3・1）
3・1 天皇、東京都多摩地区ご視察
3・25 天皇、群馬県下をご視察
3・28 天皇、埼玉県下をご視察
5・12 〝米よこせ〟デモ、皇居へ
5・21 GHQ、皇族の特権廃止を指令
5・24 天皇、食糧危機突破についてご放送
5・31 天皇、マッカーサー元帥をご訪問
6・6 天皇、千葉県下をご視察（～7）
6・17 両陛下、静岡県をご視察（～18）
10・21 天皇、愛知、岐阜県下をご視察（～26）
11・18 天皇、茨城県下をご視察（～19）
◉国内
5・3 極東国際軍事裁判開廷
5・22 吉田茂内閣成立
5・25 協同民主党結成
6・17 キーナン検事、天皇は裁かないと言明
11・3 日本国憲法公布
◉海外
1・10 国連第一回総会開会
7・1 米、ビキニ原爆実験
10・1 ニュールンベルグ国際裁判判決
12・19 インドシナ戦争開始

一九四七年　昭和二十二年

- 1・16　新皇室典範、皇室経済法公布
- 5・3　両陛下、日本国憲法施行記念式典にご出席
- 5・24　天皇、慶応義塾創立九十周年記念式典にご出席
- 6・4　天皇、京都、大阪、和歌山、兵庫各府県をご視察（～15）
- 7・17　両陛下神奈川県相模ダムをご視察
- 8・3　両陛下、後楽園球場で都市対抗野球大会をご観戦
- 8・5　天皇、宮城、岩手、青森、秋田、山形、福島各県をご視察（～19）
- 9・21　天皇、埼玉県の水害状況ご視察
- 10・7　天皇、新潟、長野、山梨各県をご視察（～15）
- 10・14　十一宮家皇籍離脱
- 10・23　天皇、福井、石川、富山各県をご視察。途中、金沢市で第二回国民体育大会にご出席、帰途、岐阜県高山市へ（～11・2）
- 11・14　天皇、マッカーサー元帥をご訪問
- 11・26　天皇、鳥取、島根、山口、広島、岡山各県をご視察（12・12）

◉国内

- 1・31　GHQ、ゼネスト中止を命令
- 3・18　国民協同党結成
- 3・31　教育基本法、学校教育法公布、日本民主党結成
- 4・5　第一回知事、市町村長選挙
- 4・14　独占禁止法公布
- 5・3　日本国憲法施行
- 5・24　片山哲内閣成立
- 9・1　労働省発足

◉海外

- 6・5　マーシャル・プラン発表
- 8・15　インド、パキスタン独立宣言

一九四八年　昭和二十三年

- 1・2　皇居一般参賀始まる
- 3・29　両陛下、義宮（常陸宮）の学習院初等科卒業式にご出席
- 5・6　天皇、マッカーサー元帥をご訪問
- 10・8　両陛下、都内の社会事業施設をご訪問
- 10・27　天皇、社会事業家を皇居にご招待

◉国内

- 3・10　芦田均内閣成立
- 3・15　民主自由党結成
- 4・1　新制大学・高校発足
- 6・28　福井大地震
- 10・15　第二次吉田内閣成立
- 11・12　極東国際軍事裁判判決（東条ら七人絞首刑）

◉海外

- 8・15　大韓民国成立式
- 9・9　朝鮮民主主義人民共和国樹立宣言

一九四九年　昭和二十四年

- 1・10　天皇、マッカーサー元帥をご訪問
- 1・26　両陛下、銀婚式
- 2・25　天皇、辰野隆、徳川夢声、サトー・ハチローを招き、放談を開かれる
- 3・1　両陛下、都内の社会福祉施設へ
- 4・4　両陛下、神奈川県仙石原の植樹祭へ
- 5・14　両陛下、横浜市で開催の日本貿易博覧会へ
- 5・17　天皇、福岡、佐賀、長崎、鹿児島、宮崎、熊本、大分各県をご視察（～6・12）
- 6・1　宮内府を廃止、宮内庁設置
- 6・15　天皇、日本学士院の授賞式にご出席
- 7・8　天皇、マッカーサー元帥をご訪問
- 7・22　両陛下、神宮プールで全日本水上選手権大会をご観戦
- 9・18　両陛下、横浜市での第四回夏季国民体育大会開会式へ
- 9・25　天皇初のご著書「相模湾産後鰓類図譜」を出版
- 10・4　天皇、日本大学創立六十周年記念式典へ
- 10・19　両陛下、横浜市内をご視察
- 10・30　両陛下、神宮競技場の第四回秋季国民体育大会にご出席

◉国内

- 1・26　法隆寺金堂壁画焼失
- 2・16　第三次吉田内閣成立
- 7・5　下山事件起こる
- 7・15　三鷹事件起こる
- 8・17　松川事件起こる
- 11・3　湯川秀樹博士ノーベル賞受賞

◉海外

- 9・7　ドイツ連邦共和国（西ドイツ）成立
- 10・1　中華人民共和国成立
- 10・7　ドイツ民主共和国（東ドイツ）樹立宣言

一九五〇年　昭和二十五年

- 3・12　天皇、四国四県と淡路島をご視察（～4・1）
- 4・4　両陛下、山梨県での植樹祭へ
- 4・18　天皇、マッカーサー元帥をご訪問
- 5・9　両陛下、日赤本社などご視察
- 5・20　両陛下、孝宮和子内親王と鷹司平通氏の結婚式にご出席
- 7・16　両陛下、第十九回日本学生陸上競技大会をご観戦のため千葉市営運動場へ
- 10・4　両陛下、都内と埼玉県の社会事業施設をご視察
- 10・27　両陛下、第五回秋季国民体育大会にご出席のため名古屋市へ（～29）
- 11・6　両陛下、神宮球場で東京六大学野球早慶戦をご観戦
- 11・17　天皇、明治大学創立七十周年記念式典へ

◉国内

- 1・19　社会党分裂（4・3統一）
- 3・1　自由党結成
- 4・15　公職選挙法公布
- 4・28　国民民主党結成
- 6・6　マッカーサー、日本共産党中央委員全員の追放を指令
- 7・11　日本労働組合総評議会（総評）結成
- 8・10　警察予備隊令公布

◉海外

- 6・25　朝鮮戦争突発

一九五一年　昭和二十六年

- 4・4　両陛下、群馬県前橋市郊外の植樹祭にご出席
- 4・15　天皇、帰国するマッカーサー元帥をご訪問
- 5・2　天皇、連合軍最高司令官リッジウェイ大将をご訪問
- 5・17　貞明皇后崩御（六十六歳）
- 10・25　両陛下、第六回秋季国民体育大会にご出席のため広島県へ（～29）
- 11・11　天皇、京都、滋賀、奈良、三重各府県をご視察（19 奈良で講和条約、日米安保条約批准書にご署名。～25）
- 12・4　天皇、番町小学校創立八十周年記念式典へ

◉国内

- 2・10　社会民主党結成
- 4・11　マッカーサー元帥罷免
- 9・8　対日平和条約、日米安保条約調印
- 10・24　社会党、左右両派に分裂

◉海外

- 4・15　イラン国会、石油国有化を可決

一九五二年　昭和二十七年

- 3・26　両陛下、皇太子（高等科）、厚子内親王（短期大学）のご卒業で学習院へ
- 4・4　両陛下、植樹祭で静岡県へ
- 5・2　両陛下、全国戦没者追悼式へ
- 5・3　天皇、平和条約発効記念式典で自ら「天皇退位説」をご否定
- 6・2　天皇、平和条約発効報告のため伊勢神宮、畝傍陵、桃山陵をご参拝
- 10・10　順宮厚子内親王、池田隆政氏とご結婚
- 10・18　両陛下、第七回秋季国民体育大会ご出席のため福島へ
- 11・27　両陛下、全国更生保護大会へ

◉国内

- 2・8　改進党結成
- 2・28　日米行政協定調印
- 4・10　日航もく星号、大島に墜落
- 4・11　ポツダム政令廃止
- 4・28　対日平和条約、日米安全保障条約発効
- 4・28　日台平和条約調印
- 5・1　皇居前・血のメーデー事件
- 6・9　日印平和条約調印
- 9・24　電産スト（10・13炭労スト）
- 10・15　警察予備隊を保安隊に改組
- 10・31　第四次吉田内閣成立
- 12・1　国立近代美術館開館

◉海外

- 1・9　李承晩ライン設定宣言
- 5・27　欧州防衛共同体条約（EDC）調印
- 11・1　アメリカ初の水爆実験

一九五三年　昭和二十八年

- 1・4　秩父宮雍仁親王ご死去。両陛下、ご弔問
- 3・30　皇太子、英女王エリザベス二世の戴冠式参列をかね欧米一四ヵ国歴訪のためご出発（～10・12）

4・4 両陛下、植樹祭で千葉県富津町へ
5・6 両陛下、千葉県下をご視察(～8)
5・13 両陛下、学制八十周年記念式典へ
10・19 両陛下、第八回秋季国民体育大会ご出席をかね四国各県と岡山県へ(～28)
11・10 両陛下、日赤慈善興行ご観劇のため歌舞伎座へ

◉国内
5・21 第五次吉田内閣成立

◉海外
3・5 スターリン死去
7・27 朝鮮戦争休戦協定調印
8・8 ソ連、水爆所有を公表

一九五四年　昭和二十九年

1・2 一般参賀の人波が二重橋で崩れ死者十六人を出す
3・24 義宮、学習院高等科をご卒業。両陛下、卒業式にご出席
4・5 両陛下、兵庫県での植樹祭と伊勢神宮ご参拝(～10)
8・6 両陛下、道内視察と第九回国民体育大会にご出席のため北海道へ(～23)全国戦災地ご視察終わる
11・4 天皇、静岡県伊豆地方へ。皇后、日赤近畿七府県支部大会にご出席のため滋賀、奈良へ(～8)

◉国内
3・1 ビキニ水爆実験で第五福竜丸被災
4・21 犬養法相、造船汚職で指揮権発動
7・1 防衛庁・自衛隊発足、警察庁発足
11・24 日本民主党結成
12・10 第一次鳩山一郎内閣成立

◉海外
1・25 ベルリン四国外相会議開く
6・28 周・ネール、平和五原則共同声明
7・20 インドシナ休戦協定調印

一九五五年　昭和三十年

4・5 両陛下、植樹祭ご出席をかね宮城県下をご視察(～8)
5・10 両陛下、東京・晴海の日本国際見本市へ
5・24 天皇、蔵前国技館で戦後初めて大相撲をご観戦
9・19 両陛下、第十回夏季国民体育大会ご出席のため神奈川県へ(～23)
10・30 両陛下、第十回秋季国民体育大会ご出席のため神奈川県へ(～11・2)
11・10 天皇、埼玉県下をご視察
11・15 天皇、日比谷公会堂での普選三十周年、婦人参政十周年記念式典へ
11・28 義宮、成年式を挙げられる

◉国内
3・19 第二次鳩山内閣成立
5・11 国鉄宇高連絡船紫雲丸沈没、死者百六十八人
9・13 砂川町の強制測量で労組・学生デモ隊と警官が衝突
10・13 日本社会党統一
11・15 自由民主党結成、保守合同成る
11・22 第三次鳩山内閣成立

◉海外
4・18 アジア・アフリカ会議開催(バンドン)
5・5 西ドイツ主権を回復
5・14 ソ連と東欧七カ国、ワルシャワ条約に調印

一九五六年　昭和三十一年

3・23 天皇、日本橋高島屋で「ザ・ファミリー・オブ・マン」写真展をご覧
4・5 両陛下、山口県での植樹祭ご出席をかね山口、岡山両県へ(～12)
9・12 皇后陛下のご生母、久邇俔子さん死去。両陛下、三番町宮内庁分室での告別式にご参列
10・27 両陛下、兵庫県での第十一回秋季国民体育大会ご出席をかね、兵庫、大阪両府県へ(～11・2)
11・19 戦後初の正式の国賓としてエチオピアのハイレ・セラシエ皇帝陛下来日
11・28 宮内庁職員美術展に皇后、初めて日本画をご出品

◉国内
5・9 日ソ漁業交渉妥結
5・21 売春防止法成立
10・19 日ソ国交回復に関する共同宣言・通商航海に関する議定書調印
12・18 国連総会、日本の国連加盟可決
12・23 石橋湛山内閣成立

◉海外
2・14 ソ連共産党二十回大会でフルシチョフ、スターリンを批判
4・17 コミンフォルム解散
7・26 エジプト、スエズ運河国有化宣言
10・23 ハンガリー事件起こる。ソ連、ブダペストへ戦車介入

一九五七年　昭和三十二年

1・25 両陛下、栃木県日光での第十二回冬季国民体育大会へ(～26)
4・6 両陛下、岐阜県での植樹祭ご出席をかね、岐阜、愛知両県へ(～12)
4・17 天皇、徳川夢声、サトー・ハチロー、獅子文六、吉川英治、火野葦平氏らを招いて放談を開かれる
5・18 両陛下、民生委員制度四十周年記念全国社会福祉大会へ
7・8 両陛下、山梨県下をご視察、富士山に登られる(～10)
10・1 天皇、最高裁判所十周年記念式典で最高裁へ
10・25 両陛下、第十二回秋季国民体育大会と県内ご視察のため静岡県へ(～30)
11・25 両陛下、日赤八十周年記念大会へ

◉国内
1・29 南極観測隊、オングル島に上陸(昭和基地)
2・25 第一次岸信介内閣成立
5・20 国防会議「国防の基本方針」決定
10・1 日本、国連安保理事会非常任理事国に当選

◉海外
3・27 欧州六カ国、欧州共同市場(EEC)に調印
5・15 英国、クリスマス島で第一回水爆実験
10・4 ソ連、世界初の人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功

一九五八年　昭和三十三年

3・26 両陛下、学習院大卒業式へ。義宮、同大学理学部ご卒業
4・5 両陛下、大分県での植樹祭出席をかね、大分、宮崎、鹿児島、熊本、福岡各県下をご旅行
5・24 両陛下、第三回アジア大会開会式で国立競技場へ
7・11 両陛下、NHKテレビスタジオをご見学
10・18 両陛下、富山県での第十三回秋季国民体育大会ご出席をかね、富山、石川、岐阜各県へ(～27)
11・8 両陛下、慶応義塾百年式典にご出席
11・27 皇室会議で皇太子妃に正田美智子さまが決まる

◉国内
5・2 長崎で中国国旗侮辱事件
6・5 勤務評定反対闘争始まる
6・12 第二次岸内閣成立
11・22 警職法改正案、審議未了となる

◉海外
2・1 アラブ連合成立
3・27 フルシチョフ、ソ連首相に就任
10・5 フランス第五共和制発足

一九五九年　昭和三十四年

1・14 皇太子さまと正田美智子さまの納采の儀あげられる
4・5 両陛下、植樹祭で埼玉県へ
4・10 皇太子さま、美智子さまとご結婚
6・25 両陛下、後楽園球場でプロ野球ナイター(巨人―阪神戦)を初めてご観戦
9・22 両陛下、神宮外苑プールで開かれた第十四回夏季国民体育大会開会式へ
10・6 両陛下、日本大学創立七十周年記念式典へ
10・25 両陛下、国立競技場の第十四回秋季国民体育大会開会式へ

◉国内
4・15 安保改定阻止闘争始まる
9・26 伊勢湾台風で死者、行方不明五千二百余人

◉海外
1・1 キューバ革命軍ハバナ入城
6・3 シンガポール独立宣言
9・15 ソ連首相フルシチョフ訪米。キャンプ・デービッドでアイゼンハワー米大統領と会談

一九六〇年　昭和三十五年

2・23 美智子妃、浩宮徳仁親王ご出産
3・10 清宮貴子さま、島津久永氏とご結婚
4・5 両陛下、都下大島へご旅行
5・9 両陛下、山形県での植樹祭をかねて山形、福島両県へ(～12)
5・20 皇后、天皇とともに初めて蔵前国技館の大相撲ご観戦
5・23 皇后、日赤中部六県支部赤十字大会で愛知県へ(～25)
6・8 皇太子ご一家、新築の東宮御所へご移転
9・22 皇太子ご夫妻、日米修交百年記念でアメリカへ(～10・7)

9・29 両陛下、第四十九回列国議会同盟会議開会式にご出席

10・21 両陛下、第十五回秋季国民体育大会で熊本県へ(～25)

11・12 皇太子ご夫妻、イラン、エチオピア、インド、ネパールをご訪問(～12・9)

11・29 宮内庁、深沢七郎の小説「風流夢譚」の名誉棄損、人権侵害について法務省に検討を依頼

12・1 同書の出版元中央公論社、宮内庁に陳謝

12・24 両陛下、議会開設七十年記念式典ご出席のため国会へ

◉国内

1・19 日米安保条約および行政協定改定調印

1・24 民社党結成

6・15 安保阻止闘争で全学連、国会構内に入り警官隊と衝突、女子学生一人死亡

7・19 第一次池田勇人内閣成立

10・12 浅沼社会党委員長、立会演説中に刺殺さる

12・8 第二次池田内閣成立

◉海外

4・19 韓国の反政府デモ、流血事件に発展(4・27李承晩大統領辞任)

5・15 ソ連、人工衛星船第1号打ち上げに成功

11・8 ケネディ、米大統領に当選

12・20 南ベトナム解放民族戦線結成

一九六一年　昭和三十六年

4・19 両陛下、佐賀、長崎両県をご視察

5・7 皇后主催で、天皇の還暦祝い

5・23 両陛下、植樹祭と道内ご視察のため北海道へ(～27)

7・23 両陛下の長女、東久邇成子さん死去。三十五歳。両陛下、ご臨終まで旧宮内庁病院で徹夜の御看病

9・6 両陛下、栃木県那須御用邸から福島県裏磐梯、猪苗代湖をご旅行(～7)

10・6 両陛下、第十六回秋季国民体育大会ご出席のため秋田県へ(～14)

11・14 英国アレキサンドラ王女殿下来日

11・27 皇居吹上御所完成(12・8「お文庫」から御移転)

◉国内

6・19 池田首相訪米

11・2 第一回日米貿易経済合同委員会開く

12・12 旧軍人、右翼のクーデター計画(三無事件)発覚

◉海外

4・12 ソ連、人間衛星船ウォストーク1号打ち上げ、回収に成功

5・16 韓国軍部クーデター成功(7・3朴正熙最高会議議長に就任)

7・6 ソ連・北鮮相互援助条約調印

7・11 中国・北鮮相互援助条約調印

8・13 東独・東西ベルリン境界封鎖

一九六二年　昭和三十七年

1・12 歌会始めの入選歌で"盗作"騒ぎ

1・22 皇太子ご夫妻、パキスタン、インドネシア、フィリピン訪問にご出発(～2・10)

2・10 皇太子さま、カゼのためフィリピン訪問を中止してご帰国

3・29 両陛下、東京タワー、ソニー工場をご視察

4・20 両陛下、福井県での植樹祭のため京都、福井両府県へ(～25)

5・19 伊勢神宮ご参拝をかねて両陛下、三重、和歌山、岐阜三県へ(～26)

8・28 両陛下、日光へご旅行

9・28 両陛下、九段会館での日本遺族会創立十五周年記念式典へご出席

10・19 両陛下、岡山県での第十七回秋季国民体育大会ご出席をかね、京都、岡山、愛知各府県へ(～26)

11・5 皇太子ご夫妻、フィリピンへ(～10)

11・7 両陛下、学制九十周年記念式典へ

◉国内

1・9 ガリオア・エロア返済協定調印

5・3 常磐線三河島駅で三重衝突、百六十人死亡、重軽傷者三百二十五人

11・9 高碕達之助・廖承志「日中長期総合貿易覚え書き」調印

◉海外

2・14 キューバ、米州機構から脱退

10・22 米大統領、ソ連のキューバへの武器禁輸のため海上封鎖宣言(28ソ連、キューバからミサイル撤去回答)

12 中ソ論争表面化

一九六三年　昭和三十八年

3・6 皇后ご還暦

4・2 オランダのベアトリクス王女来日

5・8 両陛下、厚生年金会館での赤十字百周年記念大会にご出席

5・18 両陛下、青森県での植樹祭と地方ご視察のため青森、宮城両県へ(～22)

5・27 タイのプミポン国王ご夫妻来日

8・15 両陛下、政府主催の第一回全国戦没者追悼式にご出席

9・16 両陛下、敗血症で岡山大付属病院入院中の池田厚子さんをお見舞い(～17)

10・24 両陛下、山口県での第十八回秋季国民体育大会と池田厚子さんお見舞いのため、山口、岡山、兵庫各県へ(～31)

◉国内

9・12 最高裁、松川事件再上告破棄、全員無罪確定

11・9 三池三川鉱でガス爆発、四百五十八人死亡。横須賀線鶴見で二重衝突、百六十一人死亡

12・9 第三次池田内閣成立

◉海外

9・16 マレーシア連邦結成

11・22 ケネディ米大統領暗殺さる

一九六四年　昭和三十九年

1・20 ボードワン・ベルギー国王ご夫妻来日

5・10 皇太子ご夫妻、メキシコをご訪問(～17)

5・12 両陛下、植樹祭で長野県へ(～16)

6・5 両陛下、新潟の第十九回春季国民体育大会へ(～12)

6・16 マレーシアのサイド・プートラ元首ご夫妻来日

9・30 義宮さま、津軽華子さまとご結婚。常陸宮家をご創立

10・1 両陛下、東海道新幹線開業式へ

10・6 両陛下、第六十二回IOC総会開会式で日生劇場へ

10・10 天皇、第十八回オリンピック東京大会名誉総裁として開会をご宣言

12・14 皇太子ご夫妻、タイをご訪問(～21)

◉国内

4・25 第一回戦没者叙勲を発令(28日第一回生存者叙勲決定)

4・28 OECD(経済協力開発機構)加盟

10・1 東海道新幹線営業開始

10・10 オリンピック東京大会開会(～24)

11・9 第一次佐藤栄作内閣成立

11・17 公明党結成

◉海外

1・27 フランス、中国を承認

8・7 南ベトナム、全土に非常事態宣言、ベトナム戦争始まる

10・16 中国、初の核実験成功を発表

10・16 フルシチョフ・ソ連首相辞任。ブレジネフ第一書記、コスイギン首相就任

一九六五年　昭和四十年

4・20 両陛下、神奈川、静岡両県へ(～21)

5・7 両陛下、鳥取県での植樹祭と地方ご視察をかね、岡山、鳥取、島根、京都各府県へ(～15)

10・23 両陛下、第二十回秋季国民体育大会で岐阜県へ(～28)

11・30 礼宮文仁親王ご誕生

◉国内

1・10 佐藤首相訪米

6・22 日韓基本条約および関係協定調印

◉海外

1・24 チャーチル元英首相死去

2・7 米軍、北ベトナム爆撃開始

9・1 印パ紛争起こる

11・10 中国文化大革命始まる

一九六六年　昭和四十一年

3・17 両陛下、東京国立博物館で「十七世紀ヨーロッパ名画展」をご鑑賞

4・15 両陛下、愛媛県の植樹祭にご出席後、愛媛、香川、大阪各府県下をご旅行(～23)

4・22 大阪国際見本市をご観覧

9・13 新宮殿上棟式

10・21 両陛下、第二十一回秋季国民体育大会で大分県へ(～29)

11・6 両陛下、ロサンゼルス・ドジャーズ対全日本の野球試合をご観戦

◉国内

2・4 全日空機、東京湾で墜落、百三十三人死亡

3・17 吉展ちゃん誘かい事件で犯人の小原に死刑判決

◉海外

2・24 ガーナでクーデター、エンクルマ大統領を解任

10・27 中国、核ミサイル実験成功

一九六七年　昭和四十二年

3・6 皇后、お誕生日に『桃苑画集』を限定出版

4・7 両陛下、岡山県での植樹祭ご出席のあと岡山、兵庫、京都各府県下をご旅行（〜13）

5・9 皇太子ご夫妻、南米（ペルー、アルゼンチン、ブラジル）をご旅行（〜31）

◉国内

2・17 第二次佐藤内閣成立

10・8 佐藤首相、第二次東南アジア訪問（第一次羽田事件起こる）

11・12 佐藤首相訪米（第二次羽田事件起こる）

11・15 日米首脳会談、共同声明を発表、小笠原返還きまる

◉海外

3・12 インドネシア暫定国民協議会、スカルノ大統領の全権剥奪

6・5 第一次中東戦争突発

6・17 中国、最初の水爆実験成功

一九六八年　昭和四十三年

4・8 ユーゴ・チトー大統領夫妻来日

8・31 両陛下、北海道百年記念祝典ご出席のため北海道へご旅行（〜9・7）

9・30 両陛下、第二十三回秋季国民体育大会ご出席をかね福井、兵庫、京都各府県下をご視察（〜10・7）

10・23 両陛下、明治百年記念式典で日本武道館へ

11・24 新宮殿落成式

◉国内

1・19 米原子力空母エンタープライズ佐世保入港、佐世保事件起こる

10・21 国際反戦デーの新宿デモで警視庁、騒乱罪を適用

12・10 川端康成、ノーベル文学賞受賞

◉海外

1・23 北朝鮮、米情報収集艦プエブロ号を捕獲

5・10 米国と北ベトナムのパリ会談開始

6・1 ソ連戦車隊、チェコ領内に侵入

6・5 米大統領候補ロバート・ケネディ上院議員射殺さる

一九六九年　昭和四十四年

1・2 新春一般参賀が初めて新宮殿を使用して行われ、奥崎謙三のパチンコ玉事件起こる

4・1 新宮殿の使い初め

4・9 アフガニスタン国王ご夫妻来日

4・18 紀宮清子内親王ご誕生

5・24 両陛下、富山県での植樹祭ご出席のあと富山、愛知両県下をご旅行（〜30）

8・25 両陛下、秋田県下をご視察（〜29）

10・24 両陛下、第二十四回秋季国民体育大会で長崎県へ（〜31）

10・29 伊豆下田の須崎御用邸起工式

11・20 沼津御用邸廃邸

◉国内

1・19 東大紛争で警視庁、安田講堂をバリケード封鎖中の学生を排除、三百七十五人逮捕

8・3 大学臨時措置法成立

11・21 沖縄返還を決めた日米共同声明発表

◉海外

4・28 ドゴール仏大統領退陣

7・20 米アポロ宇宙船、月の「静かの海」に着陸

9・3 ホー・チ・ミン北ベトナム大統領死去

一九七〇年　昭和四十五年

1・14 第三次佐藤内閣成立

2・19 皇太子ご夫妻、マレーシア、シンガポールをご訪問（〜27）

3・4 両陛下、日本万国博開会式にご出席

4・9 チャールス英国皇太子来日

4・25 両陛下、千鳥ヶ渕戦没者墓苑拝礼式へ

5・18 両陛下、福島県での植樹祭へご出席（〜21）

7・13 両陛下、日本万国博ご視察のため大阪へ（〜17）

8・16 両陛下、日本万国博ご視察のため大阪へ（〜19）

10・9 両陛下、第二十五回秋季国民体育大会ご出席のため岩手県へ（〜15）

◉国内

3・31 赤軍派学生、日航機「よど号」をハイジャック

6・23 日米安保条約自動継続

11・25 三島由起夫割腹自殺

◉海外

2・3 核拡散防止条約調印

3・18 カンボジアでクーデター、シアヌーク元首を追放

8・12 西独・ソ連武力不行使条約調印

一九七一年　昭和四十六年

1・27 葉山御用邸本邸全焼

4・6 天皇のガーター勲章が復権

4・15 両陛下、島根、広島両県の植樹祭へ（〜22）

4・29 天皇、古希を迎えられる

5・13 天皇、英国学士院会員に選出さる

5・20 サウジアラビア・ファイサル国王来日

8・12 天皇、第二十三回ボーイスカウト世界会議開会式にご出席

9・27 両陛下、ヨーロッパをご訪問（公式訪問国ベルギー、英国、西ドイツ。非公式訪問国デンマーク、オランダ。休養地フランス、スイス。ニクソン米大統領夫妻とアンカレジでご会見）（〜10・14）

10・23 両陛下、第二十六回秋季国民体育大会で和歌山県へ

◉国内

6・17 沖縄返還協定、東京とワシントンで同時調印

7・30 全日空機に自衛隊F86ジェット戦闘機が空中衝突、百六十二人死亡

8・28 円、変動相場制へ移行（円切上げ）

◉海外

7・15 ニクソン米大統領、訪中受諾を発表

10・28 英国、EC加盟を承認

11・15 中国、国連に登場

12・4 印パ全面戦争へ、バングラデシュが独立

一九七二年　昭和四十七年

2・1 両陛下、札幌オリンピック冬季大会ご出席のため北海道へ（〜7）

2・3 天皇、札幌オリンピック冬季大会開会式で、名誉総裁として開会をご宣言

5・15 両陛下、沖縄復帰記念式典で日本武道館へ

5・20 両陛下、植樹祭ご出席のため新潟県へ（〜25）

10・5 両陛下、学制百年記念式典で国立劇場へ

10・14 両陛下、鉄道百年記念式典で国鉄本社へ

10・20 両陛下、第二十七回秋季国民体育大会ご出席をかね、鹿児島、奄美大島へ（〜27）

11・5 天皇、ボーイスカウト日本連盟結成50周年記念中央式典ご出席のため明治神宮会館へ

◉国内

2・3 札幌オリンピック冬季大会開く

2・17 連合赤軍リンチ殺人事件発覚

5・15 沖縄施政権返還、沖縄県が発足

7・7 第一次田中角栄内閣成立

12・22 第二次田中内閣成立

◉海外

2・21 ニクソン米大統領訪中、毛主席、周首相と初会談

6・5 ストックホルムで国連人間環境会議開く

9・5 ミュンヘン五輪村のイスラエル選手宿舎にアラブゲリラが侵入、西独警察と銃撃戦、十一選手が死亡

一九七三年　昭和四十八年

3・6 皇后、古希を迎えられる

3・9 宮中で開かれた皇后の古希祝賀会に三遊亭円生が登場。両陛下、初めて落語を聞かれる

4・6 両陛下、植樹祭ご出席のため宮崎県へ（〜13）

5・6 皇太子ご夫妻、オーストラリア、ニュージーランドをご訪問（〜23）

6・26 両陛下、NHK放送センターへ

10・11 皇太子ご夫妻、スペインをご訪問（〜22）

10・12 両陛下、第二十八回秋季国民体育大会ご出席をかね、千葉県へ（〜16）

10・18 両陛下、日本傷痍軍人会創立二十周年記念式典で日本武道館へ

11・26 両陛下、東京・上野動物園へ

◉国内

3・20 水俣病訴訟でチッソ側全面敗訴

7・20 日航ジャンボ機、アラブゲリラに乗っ取られ、リビア・ベンガジ空港で爆破

8・8 金大中事件で日韓関係悪化

9・26 田中首相、フランス、英、西独、ソ連を訪問

10・23 江崎玲於奈氏にノーベル物理学賞

12・2 第二次田中改造内閣成立

◉海外

1・27 ベトナム和平協定調印

9・11 チリで軍部クーデター、アジェンデ大統領死亡

9・18 東西ドイツ、国連加盟

10・6 第四次中東戦争突発、アラブ産油国機構、石油供給制限を決定

昭和四十九年一月十日発行

神戸新聞社 デイリースポーツ社

定価四八〇円